

The Journal of Japanese Association of Occupational Therapists (JJAOT)

## 日本作業療法士協会誌

2015

7

### 【論説】

平成27年度介護報酬改定を受けて、今、取り組むべきこと

### 【協会活動資料】

第50回作業療法士国家試験について

### 【会員事始め】

新たに会員になった方に向けて④

「生活行為向上マネジメント」研修と修了証について（お知らせ）

平成27年度会員名簿 無料配布希望者は8月末までに申し込みを！



一般社団法人

日本作業療法士協会

## 事務局からのお知らせ

### ◎会費ご入金のお願い

2015 年度会費のご納入を 7 月中にいただけなかった場合、8 月に協会事務局より会費振りこみのご案内を差しあげる予定ですので、できるだけお早めにご納入ください。なお振込用紙を紛失された方、金額が不明の方は、協会事務局までお問い合わせください。

### ◎今年度は名簿の発行年です

#### ご勤務先・ご自宅住所変更の際は「変更届」をご提出ください

今年度は名簿の発行年です。会員名簿には、2015 年 9 月 1 日時点の会員システムの登録情報が反映されます。会員システムに登録されている情報に変更があった場合は修正をお願いします。

ご自身の登録状況は、協会ホームページの「WEB 版会員システム」から確認できます。同「WEB 版会員システム」からは、ウェブ上で登録情報の確認・変更も可能です。「WEB 版会員システム」のご利用には、会員番号とパスワードが必須です。パスワードをお持ちでない方、忘失された方は、パスワード申請用紙を事務局までご提出ください（パスワード申請用紙に限り、郵送のみ）。冊子・HP ともに変更届と同時掲載しております。

もしくは「変更届」のご提出でも登録状況のご変更が可能です。ご勤務先やご自宅が変わられた場合には、必ずこの「変更届」をご提出いただくようお願いします。発送先のご変更（ご勤務先⇔ご自宅）、姓名のご変更についても、こちらの用紙でご連絡ください。また、この用紙は協会ホームページ（<http://www.jaot.or.jp/>）内“会員向け情報はこちらから”よりダウンロード可能です。FAX もしくは郵送にて事務局までお知らせください。

### ◎休会に関するご案内

2016 年度（2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日）の休会を希望される方は、2016 年 1 月末日までに休会届のご提出が必要です。提出期日を過ぎると、次年度（2016 年度）の休会はできませんのでご注意ください。

#### 【申請手続】

前提条件…… ①申請年度までの会費が完納されていること

②過去の休会期間が 5 年間に達していないこと

提出書類…… ①休会届（協会事務局に連絡し、所定の用紙を請求。これに必要事項を記入し、署名・捺印）

②休会理由の根拠となる、第三者による証明書

○出産・育児……出産を証明する母子手帳の写しなど

○介護……要介護状態を証明する書類の写しなど

○長期の病気療養……医師の診断書の写しなど

※提出は郵送のみです

#### ～証明書のご提出が申請の締め切りに間に合わない場合～

まず休会届だけ先に提出してください。その際、協会事務局にご一報いただき、いつまでに証明書の提出が可能かご相談ください。休会期間中の 1 月 31 日までに（申請時の 1 月 31 日ではありません。申請を締め切ってから 1 年後までに）証明書をご提出ください。

詳細およびよくある質問については協会ホームページ（<http://www.jaot.or.jp/>）より会員向け情報＞休会制度 をご覧ください。

#### ◆お問い合わせ◆

〒111-0042

台東区寿 1-5-9 盛光伸光ビル 7 階

電話 03-5826-7871 FAX 03-5826-7872

# contents

目次 ● 2015. 7/15 No.40

日本作業療法士協会誌

平成 27 年 7 月 15 日発行 第 40 号

「生活行為向上マネジメント」研修と修了証について（お知らせ）..... 5

平成 27 年度役員人事 ..... 6

平成 27・28 年度 部員・事務局員名簿 ..... 7

## 【協会活動資料】

第 50 回作業療法士国家試験について

国家試験問題指針検討班による検討結果..... 20

## 【論説】

平成 27 年度介護報酬改定を受けて、今、取り組むべきこと ..... 中村 春基・2

【各部・室・事務局活動報告】 ..... 11

異動された会員は 7 月末までに手続きを！ 代議員選挙の 11 月実施に向けて ..... 12

感謝状を贈呈 ..... 13

## 【協会諸規程】

代議員選出規程 ..... 14

学会運営の手引き ..... 19

## 【医療・保健・福祉情報】

日本発達障害ネットワーク（JDDnet）に参画する当協会のあゆみ ..... 32

【会員事始め】新たに会員になった方に向けて④ ..... 36

第 49 回日本作業療法学会 盛会裡に終了 ..... 39

“APOTRG” と “APOTC” をご存知ですか？ ..... 40

国際部 INFORMATION ..... 41

## 【作業療法の実践】地域移行支援への取り組み③⑨

NPO 法人ちゃんくすのチャレンジ ..... 西上 忠臣・42

## 【窓】女性会員のためのページ③⑥

かけがえのないもの ..... 蔵 奈津子・43

【事例報告登録システムから】 ..... 44

平成 27 年度会員名簿 無料配布希望者は 8 月末までに申し込みを！ ..... 31

全国研修会案内 ..... 46

催物・企画案内 ..... 50

協会主催研修会案内 2015 年度 ..... 48

【都道府県作業療法士会連絡協議会報告】 ..... 54

研修会のご案内 ..... 51

【日本作業療法士連盟だより】 ..... 54

協会配布資料一覧 ..... 52

求人広告 ..... 55

注文用紙 ..... 53

編集後記 ..... 56

## 平成 27 年度介護報酬改定を受けて、 今、取り組むべきこと

会長 中村 春基

### ○平成 27 年度介護報酬改定の意味するところ

平成 27 年度の介護報酬改定は、作業療法士に大きな可能性を開くとともに、大きな責務が課せられた。利用者主体の在宅生活に沿った、心身機能、活動、参加のバランスのとれた作業療法が求められている。また、「生活行為向上リハビリテーション」が新設されが、これはどうみても作業療法士の業務であり、今後 2 年間で実践と効果を示さなくてはならない。

協会は今回の介護報酬改定に向けて 6 年間の研究事業の成果をもとに、「生活行為向上」に資する作業療法の介入とその成果について、都度、報告してきた。その成果を生かされ改定がなされたと思っている。今回のこの事象は協会としての政策提言の在り方を示すものであり、また、今後の協会活動の在り方を示したと思っている。以下にその経過と今後の取り組みについて述べる。

### ○ローマは一日にしてならず

「生活行為向上マネジメント」に関する研究は平成 20 年度から平成 25 年度にわたり、「高齢者の持てる能力を引き出す地域包括支援のあり方研究事業」、「自立支援に向けた包括マネジメントによる総合的なサービスモデル調査研究事業」、「包括マネジメントを活用した総合サービスモデルのあり方研究事業」、「生活行為向上マネジメントの普及啓発と成果測定研究事業」、「生活行為向上の支援における介護支援専門員と作業療法士との連携効果の検証事業」、「生活行為向上支援としての居宅療養管理指導事業あり方検討事業」、「医療から介護保険まで一貫した生活行為の自立支援に向けたリハビリテーションの効果と質に関する評価研究事業」と都度テーマを変えながら取り組まれてきた。その成果を平成 26 年 9 月に設置された「高齢者の地域におけるリハビリテーションの

新たな在り方検討会」で報告し、また、それが第 118 回介護給付費分科会の資料に用いられて、今般の介護報酬改定の基盤形成に寄与したと考える。6 年間の研究事業と協会・士会を挙げての取り組みが評価され、成しえた奇跡ともいえる出来事である。会員諸氏においては、是非このような地道な取り組みの歴史があったことを認識していただき、今後は会員自らが実践し効果を示していくことを切に願っている。

### ○質と量

さて、先に述べたような研究結果が生かされたわけであるが、制度化にあたっては全国で実践される体制が整っているかが大きな課題として取り上げられた。つまり、「活動」「参加」に資する実践を行う人材が現実「いるか」ということである。言い換えると、いい実践が一部の施設や地域でしか行われていないのであれば制度化はなされないということであり、ある一定以上の実践者数の確保、研修体系の有無が必須ということである。これに対しては、2011 年から研究事業と並行して、協会組織の中に「生活行為向上マネジメント推進プロジェクト委員会」を設置し、また各士会に推進委員を置き、協会と士会で一体的な普及啓発活動を進めてきたところであり、基礎研修修了者が約 4,000 名、概要の研修を受けたものが 2 万人にのぼることを報告し、その実績が評価されたものと思われる。

その結果、通所リハビリテーションにおける「生活行為向上リハビリテーション実施加算」の算定要件には、「生活行為向上の内容の充実を図るための専門的な知識や経験を有する作業療法士又は生活行為の内容の充実を図るための研修を修了した理学療法士若しくは言語聴覚士が配置されていること」と明記され、同 Q&A では、

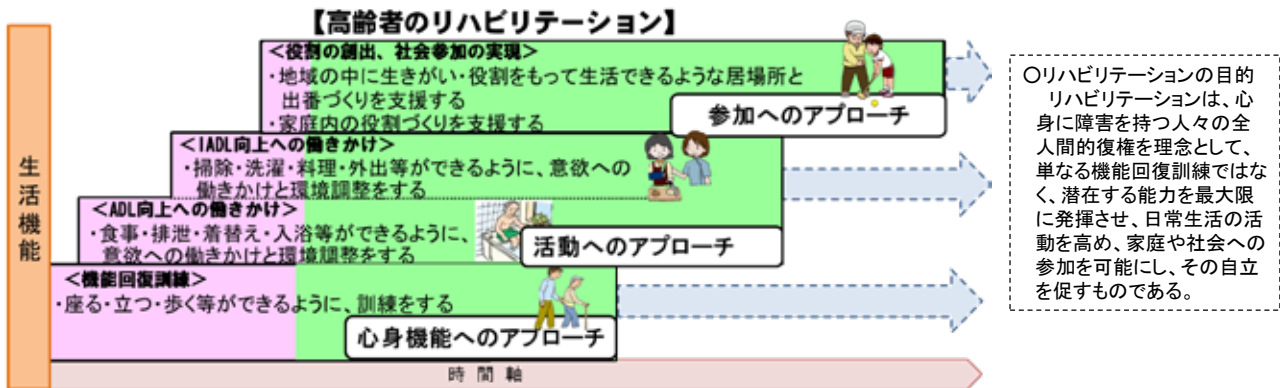


図1 心身機能・活動・参加の要素にバランスよく働きかける効果的なリハビリテーション  
(第119回社会保障審議会介護給付費分科会 資料1-2より)

生活行為の内容の充実を図るための専門的な知識や経験とは、「例えば、日本作業療法士協会が実施する生活行為向上マネジメント研修を受講した際に得られる知識や経験が該当すると考えている」と記載されて、協会の取り組みが認められた形になっている。なお、協会では実践ができることを最低限の研修修了者とするとし、実践研修まで修了できるよう、実践事例登録や各士会での事例検討会を推進しているところである。

#### ○「生活行為向上マネジメント」と「生活行為向上リハビリテーション」

以上述べたように、生活行為向上リハビリテーションは制度化されたわけであるが、改めてその意義は図1に示すように、バランスのとれたサービスの提供の一環であることを認識する必要がある。つまり、多職種協働での取り組みの中で、作業療法士は活動・参加の視点から積極的な情報発信とサービス提供をしていくことが必須である。

さて、改めて「生活行為向上マネジメント」について述べる。これは、「人は作業をすることで元気になれる」ということを具現化するためのツールであり、国民の誰もが、置かれている環境にかかわらず、生活行為の支障やその恐れに対して、活動と参加に資する作業療法を提供できることを目的としている。生活は図2に示す行為の集合と継続からなり、その障害は図3に示すように様々な要素が影響する。このようにみると、作業療法の対象、提供場面は病院、施設にとどまらず、地域、教育、一般就労など様々な場面で必要とされ、本ツールはそれぞれ



図2 人の生活を構成する様々な生活行為

に活用されることを前提に作成されている。

「生活行為向上マネジメント」は先に述べたような考え方で作成されたが、研究事業が老人保健健康増進等事業の中で介入・効果検証が行われた結果、高齢者の事例集積が多くなった影響で、介護保険下でのツールのように捉えている会員も多い。しかし、これは、作業療法全般で用いる一般的なツールであり、発達障害、精神障害、認知症等でも活用できるものと考えている。今後はこれらの対象者にも実践例を拡大し、書式や研修制度、事例報告等のシステムの充実を図っていく。

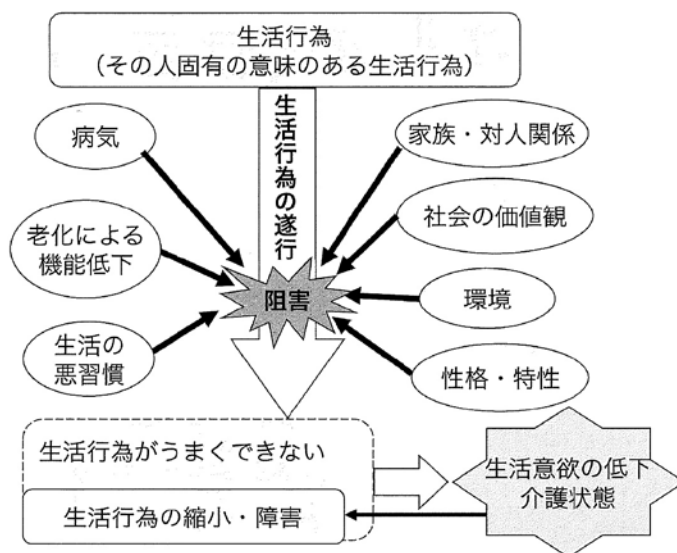


図3 生活行為の障害

## ○2年が勝負

2025年問題が提起され、地域包括ケアシステムの構築が進められている。しかし、大きな流れは社会保障と税の一体改革、社会保障改革国民会議で示されたごとく、社会保障に限っては、負の分担をいかに進めるかである。いかに必要なサービスであっても、「効果」や「効率」という言葉の下で、縮小あるいは互助への付け替えや廃止となるサービスが出てくるものと考えられる。そのように考えると、作業療法士には何ができて、いかに社会に貢献できているかを常にアピールしておくことが重要である。それには、まず、目の前の患者、利用者、家族、関連スタッフに「感動を与え、さすが！と唸らせる」ことだと思う。

平成30年度の次期同時改定は、2025年問題を見据えた地域包括ケアシステムの基本骨格が示されるといわれている。その改定に作業療法の考え方で、国民が健康になれる仕組みを提案する必要がある。今後2年間の会員、士会、協会の総合力にかかっている。

あと一つ重要な動きがある。現行の診療報酬、介護報酬では「リハビリテーション」という枠組みで取り扱われているが、先に述べたような「負の分配」の中で、各職種別に内容と効果の検証が進められることが予測される。作業療法士としての専門性が問われている。

## ○平成28年度、診療報酬改定について

「活動」「参加」の流れは、介護保険にとどまらず医

療保険でもその主題として取り上げられることになると思う。協会としては、6年間の研究事業の中で、急性期、回復期での介入と地域包括支援センターとの連携や介護職との協業のモデル事業を実施してきた。いずれにおいても「生活行為向上マネジメント」の有効性は実証されており、その結果をもとに「活動」「参加」に資する作業療法と連携について政策提言を行う予定である。また、交渉の中では当然、実践者が「いるか」を問われることになる。会員の取り組みが最重要の課題である。

## ○さいごに

話は変わるが、私は作業療法の質を担保するためには、資格の更新制は必須と考えている。以前、チーム医療推進方策検討ワーキンググループで更新制について提案したが、その時は多くの賛同は得られなかった。しかし、第49回学会時に開催した東アジア諸国との交流会において、ほとんどの国が更新制を取っている現状が明らかになり、日本においても更新制は必要であると再認識したところである。更新制の導入に当たっては医療界全体の検討が必要で紆余曲折があると思われる。協会としては、更新要件の第一に協会・士会の生涯教育修了者を入れたいと思っている。最新の知識・技術に基づく作業療法の提供は専門家としての義務である。

# 「生活行為向上マネジメント」研修と修了証について（お知らせ）

平成 27 年 6 月 1 日  
一般社団法人日本作業療法士協会 理事会

当協会は「生活行為向上マネジメント」を、◎作業療法を適切に提供するための“道具”、◎お子さんから高齢者まで作業療法を必要とする人、ご家族、関連職種に対して作業療法を分かりやすく示す“道具”、としての有用性を示し、かつ、その質を高めていくために「生活行為向上マネジメント」研修会を実施してきました。次の段階として、高齢者のみではなく、お子さん含めた何らかの障害のある方々への作業療法の“道具”として位置づけることに取り組んでいるところです。

さて、平成 27 年度介護報酬改定によって新設された「生活行為向上リハビリテーション実施加算」算定要件に係る研修については、4 月 20 日 HP でお知らせしましたように、厚生労働省のご助言のもと資料 1 の内容で対応しておりますが、私たち自らが質の維持・向上を目指して研修を推進していくための方法を、平成 27 年度第 2 回理事会（平成 27 年 5 月 16 日）において審議し、下記の通りと決議しました。

会員の皆様におかれましては、是非とも理事会決議の趣旨をご理解いただき、各自遺漏のないようご対応をお願いいたします。

## I. 平成 28 年 3 月 31 日までの扱い（経過措置）

協会「生活行為向上マネジメント研修」の基礎研修修了証取得者は、平成 28 年 3 月 31 日までに実践者研修を修了し、実践者研修修了証を取得すること、その者は協会員であるとともに士会員であること、を必須条件とする。（※協会員のみの方は、速やかに士会に入会下さい。）

## II. 平成 28 年 4 月 1 日からの扱い

平成 28 年 4 月 1 日からは算定要件該当者は基礎研修+実践者研修のセット、つまり、実践者研修修了証を取得している者に一本化する。

詳しくは、協会事務局までお問い合わせください。TEL 03-5826-7871

### 資料 1

## 「生活行為向上リハビリテーション実施加算」算定要件に記載されている研修の取り扱いについて

平成 27 年 4 月 20 日  
一般社団法人日本作業療法士協会

- 平成 27 年度介護報酬改定で、通所リハビリテーションに生活行為向上リハビリテーション実施加算が新設されました。当該加算の算定要件として、「生活行為の内容の充実を図るための専門的な知識や経験を有する作業療法士又は生活行為の内容の充実を図るための研修を修了した理学療法士若しくは言語聴覚士が配置されていること。」となっています。
- また、「平成 27 年度介護報酬改定に関する Q & A」(介護保険最新情報 Vol.454 平成 26 年 4 月 1 日)問 105 の回答として、「生活行為の内容の充実を図るための専門的な知識や経験とは、例えば、日本作業療法士協会が実施する生活行為向上マネジメント研修を受講した際に得られる知識や経験が該当すると考えている。」と示されています。

- この点について、自治体担当者や会員から、協会の修了証が当該加算の算定要件を満たすものであるか、の問い合わせが協会に寄せられております。

### 【協会対応】

- この問い合わせについて、協会は、厚生労働省の助言の下、平成 27 年 3 月以前に協会が定める時間の生活行為向上マネジメント研修を既に修了している会員に対して修了証を発行し、今後の受講者に対しても順次、修了証を発行することとしました。

詳しくは、協会事務局までお問い合わせください。TEL 03-5826-7871

# 平成 27 年度役員人事

平成 27 年度定時社員総会で 23 名の理事が選任され、その後の臨時理事会で会長・副会長・常務理事が選定された（本誌第 39 号、6 月発行）。さらに、平成 27 年度第 3 回定例理事会にて平成 27 年度の役員人事が決定されたのでここにご報告する。

| 役 職   |        | 担当部・局・委員会                                                                                  |
|-------|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 会 長   | 中村 春基  | WFOT 代表                                                                                    |
| 副 会 長 | 荻原 喜茂  | 事務局（局長）<br>広報部（部長）<br>災害対策室（副室長）<br>表彰審査会（副委員長）<br>倫理委員会（委員長）                              |
| 副 会 長 | 香山 明美  | 災害対策室（室長）<br>認知症の人の生活支援推進委員会（担当理事）<br>事務局（次長）<br>表彰審査会（委員長）<br>倫理委員会（委員）                   |
| 副 会 長 | 土井 勝幸  | 生活行為向上マネジメント推進プロジェクト委員会（担当理事）<br>事務局（次長）<br>倫理委員会（委員）                                      |
| 常務理事  | 宇田 薫   | 47 都道府県委員会（委員長）<br>認知症の人の生活支援推進委員会（担当理事）<br>50 周年記念式典実行委員会（副委員長）<br>表彰審査会（委員）<br>倫理委員会（委員） |
| 常務理事  | 荻山 和生  | 教育部（副部長）<br>制度対策部（副部長）<br>50 周年記念式典実行委員会（副委員長）<br>倫理委員会（委員）                                |
| 常務理事  | 小林 毅   | 50 周年記念式典実行委員会（委員長）<br>倫理委員会（委員）<br>表彰審査会（委員）                                              |
| 常務理事  | 小林 正義  | 学術部（部長）<br>倫理委員会（委員）<br>研究倫理審査委員会（委員）                                                      |
| 常務理事  | 陣内 大輔  | 教育部（部長）<br>倫理委員会（委員）<br>表彰審査会（委員）                                                          |
| 常務理事  | 藤井 浩美  | 国際部（部長）<br>倫理委員会（委員）                                                                       |
| 常務理事  | 三澤 一登  | 制度対策部（副部長）<br>倫理委員会（委員）<br>表彰審査会（委員）                                                       |
| 常務理事  | 山本 伸一  | 制度対策部（部長）<br>倫理委員会（委員）                                                                     |
| 理 事   | 大庭 潤平  | 教育部（副部長）<br>47 都道府県委員会（副委員長）<br>生活行為向上マネジメント推進プロジェクト委員会（担当理事）                              |
| 理 事   | 小川 敬之  | 教育部（副部長）<br>広報部（副部長）<br>認知症の人の生活支援推進委員会（委員長）                                               |
| 理 事   | 川本 愛一郎 | 広報部（副部長）<br>47 都道府県委員会（委員）<br>50 周年記念式典実行委員会（副委員長）                                         |
| 理 事   | 座小田 孝安 | 国際部（副部長）                                                                                   |
| 理 事   | 佐藤 孝臣  | 制度対策部（副部長）<br>47 都道府県委員会（委員）<br>生活行為向上マネジメント推進プロジェクト委員会（担当理事）                              |
| 理 事   | 清水 兼悦  | 学術部（副部長）<br>災害対策室（副室長）<br>表彰審査会（委員）                                                        |
| 理 事   | 清水 順市  | 学術部（副部長）<br>50 周年記念式典実行委員会（副委員長）                                                           |
| 理 事   | 高島 千敬  | 制度対策部（副部長）<br>表彰審査会（委員）                                                                    |
| 理 事   | 谷 隆博   | 制度対策部（副部長）<br>災害対策室（副室長）                                                                   |
| 理 事   | 二神 雅一  | 制度対策部（副部長）<br>認知症の人の生活支援推進委員会（担当理事）<br>表彰委員会（委員）                                           |
| 理 事   | 宮口 英樹  | 学術部（副部長）                                                                                   |

# 平成 27・28 年度 \* 部員・事務局員名簿

\* 但し、表左端の部長・副部長等の任期は当面平成27年度内とする。

| 学 術 部                                                                                |          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|--------------------------------------------------------------------------------------|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 部長<br>小林 正義<br>(1908)<br>副部長<br>清水 兼悦<br>(2755)<br>清水 順市<br>(613)<br>宮口 英樹<br>(4693) | 学会運営委員会  | 委員長 能登 真一(7785)<br>部員 岩瀬 義昭(1223) 長尾 徹(1576)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|                                                                                      | 学術委員会    | 委員長 石川 隆志(2471)<br>部員 有川 真弓(19370) 石井 利幸(15434)<br>石附 智奈美(4907) 泉 良太(16302)<br>稲富 宏之(4967) 岩井 晶子(19979)<br>岩永 竜一郎(3666) 大野 勘太(44455)<br>岡橋 さやか(23632) 小川 敬之(2183)<br>奥谷 研(18873) 加藤 寿宏(2003)<br>上城 憲司(7306) 木村 修介(14691)<br>黒澤 淳二(4800) 小林 毅(2057)<br>小林 法一(4718) 小松 則登(4153)<br>近野 智子(4816) 笹田 哲(4380)<br>佐藤 浩二(1017) 澤田 辰徳(16198)<br>澤田 雄二(356) 塩田 繁人(25815)<br>柴田 八衣子(5344) 新宮 尚人(3202)<br>菅沼 映里(14075) 鈴木 真(40388)<br>首藤 智一(33789) 清野 敏秀(5628)<br>仙石 泰仁(2243) 高木 雅之(22098)<br>高島 紀美子(4236) 高見 美貴(2509)<br>竹内 さをり(4448) 竹林 みよ子(6653)<br>竹原 恵子(11425) 竹原 敦(2863)<br>田中 浩二(16974) 田中 宏明(11497)<br>谷村 厚子(5036) 田平 隆行(5952)<br>田村 大(12381) 千見寺 貴子(16989)<br>辻 善城(1916) 徳地 亮(14026)<br>友利 幸之介(13847) 内藤 泰男(6124)<br>中島 そのみ(4973) 中村 泰久(15329)<br>中村 裕二(10136) 成田 雄一(20583)<br>西浦 裕子(37914) 西上 忠臣(6361)<br>西田 征治(4452) 根本 悟子(3226)<br>芳賀 大輔(8509) 林 良太(48490)<br>東 登志夫(3118) 福原 啓太(50399)<br>藤原 太郎(11600) 蓬萊谷 耕士(13154)<br>星野 藍子(24409) 三上 直剛(15854)<br>三橋 力也(45026) 森田 浩美(4225)<br>森元 隆文(26059) 守谷 梨絵(23923)<br>安田 大典(5182) 山口 智晴(21991) |
|                                                                                      | 学術誌編集委員会 | 委員長 柴田 克之(1300)<br>部員 石井 良和(3140) 岩永 竜一郎(3666)<br>辛島 千恵子(598) 佐川 佳南枝(8179)<br>佐々木 努(17317) 佐々木 学(2129)<br>清水 一(296) 新宮 尚人(3202)<br>菅野 圭子(1502) 仙石 泰仁(2243)<br>中島 そのみ(4973) 中村 眞理子(1971)<br>野田 美保子(831) 能登 真一(7785)<br>東 登志夫(3118) 久野 真矢(3349)<br>ボンジェ ベイター<br>(18745) 村田 和香(1403)<br>山田 恭平(26737)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |

| 教 育 部 |         |                                                                                                                                |
|-------|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | 養成教育委員会 | 委員長 澤 俊二(459)<br>部員 浅井 憲義(444) 出田 めぐみ(1485)<br>伊藤 直子(773) 伊藤 祐子(3547)<br>岩崎 也生子(13468) 遠藤 浩之(6661)<br>大友 健治(4760) 小川 恵美子(9949) |

|                                                                                       |         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|---------------------------------------------------------------------------------------|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 部長<br>陣内 大輔<br>(1653)<br>副部長<br>大庭 潤平<br>(8129)<br>小川 敬之<br>(2183)<br>刈山 和生<br>(1760) |         | 梶木 真実(18513) 小野 弘(4223)<br>齋藤 久恵(7523) 酒野 直樹(13470)<br>佐藤 真一(928) 七里 展子(6107)<br>鈴木 孝治(1182) 鈴木 達也(19523)<br>鈴木 憲雄(2889) 高橋 秀典(7334)<br>永井 貴士(12941) 中原 留美子(1048)<br>中村 怪雄(8416) 西方 浩一(4975)<br>向 文緒(2039) 村岡 健史(16577)<br>山口 志津枝(8973) 山崎 大輔(13960)<br>山田 英徳(1988) 山田 将之(9812)<br>山中 武彦(4725) 吉田 文(2437)<br>吉野 智佳子(4189)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|                                                                                       | 生涯教育委員会 | 委員長 西出 康晴(2522)<br>部員 青山 克実(7253) 荒井 隆徳(39822)<br>有泉 宏紀(21375) 石附 智奈美(4907)<br>伊藤 和範(37014) 井上 慎一(7026)<br>今寺 忠造(623) 岩森 太志(27870)<br>有働 正二郎(3936) 漆松 由美子(19106)<br>大西 和弘(22833) 大野 智生(18899)<br>小川 友美(2102) 奥原 孝幸(5468)<br>片田 美咲(5516) 川野辺 穰(5908)<br>岸上 博俊(6660) 木山 聡子(23716)<br>工藤 友治(23622) 熊谷 美砂子(5083)<br>小市 健二(1981) 小島 宣明(19753)<br>小松 博彦(8701) 小森 和樹(23554)<br>佐藤 大樹(14975) 清水 英樹(2344)<br>白石 英樹(6509) 杉谷 武人(14616)<br>鈴木 香織(16410) 高木 勝隆(4221)<br>高橋 華代(20196) 高橋 秀暢(10171)<br>竹内 貴記(24979) 田中 宏明(11497)<br>谷口 利香(9135) 築地 信之(4548)<br>土田 真也(11019) 富山 直輝(7656)<br>長井 陽海(11748) 中居 真紀子(7049)<br>中倉 孝行(22153) 仲田 和恵(4363)<br>中武 潤(15493) 難波 忠明(37014)<br>芳賀 大輔(8509) 花倉 敏文(710)<br>濱砂 美幸(3667) 福井 幸恵(2031)<br>藤嶋 聖子(6249) 藤島 健一(16649)<br>洞野 浩二(6850) 細川 忠(11501)<br>三木 恵美(10346) 村岡 健史(16577)<br>森脇 繁登(20218) 山田 英二(12015)<br>山根 伸吾(12017) 山本 紀子(3885)<br>吉田 文(2437) 吉野 智佳子(4189)<br>吉満 孝二(10068) 米畑 聡(7761) |
|                                                                                       | 研修運営委員会 | 委員長 早坂 友成(15377)<br>青山 克実(7253) 阿部 英人(15336)<br>天野 康子(26300) 飯盛 美紀(37646)<br>五十嵐 千代子(5870) 石井 有希(19115)<br>石田 啓子(12597) 磯貝 理栄(5737)<br>井手 啓介(26907) 伊藤 美由紀(31047)<br>稲垣 成昭(13193) 稲富 宏之(4967)<br>今宮 正彦(9610) 伊丸岡 知明(15609)<br>岩佐 英志(3126) 上田 章弘(12952)<br>内田 正剛(4715) 江渡 義晃(5698)<br>大塚 昭宏(28663) 大塚 英樹(22031)<br>大村 洋介(58447) 岡田 千砂(3865)<br>岡庭 隆門(6680) 小川 恵美子(9949)<br>梶木 真実(18513) 織田 靖史(24799)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

|  |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  |             | 柿崎 崇(20961) 加藤 清人(8508)<br>加藤 恵子(4557) 加藤 雅子(3691)<br>金子 隆生(40207) 河本 聡志(11271)<br>来島 修志(3080) 北脇 菊恵(5514)<br>木山 聡子(23716) 工藤 崇博(13223)<br>倉重 智恵美(14401) 小林 央(10862)<br>小林 由美(15188) 小松 博彦(8701)<br>齋藤 洋平(20093) 佐藤 文泰(14580)<br>佐藤 嘉晃(3907) 七里 展子(6107)<br>篠森 丞(18151) 鈴木 憲雄(2889)<br>十河 正樹(17010) 高島 紀美子(4236)<br>高田 善栄(44512) 田口 真司(17115)<br>竹田 博子(14524) 竹原 敦(2863)<br>田中 佐千恵(15185) 田中 吉広(26273)<br>近澤 大(18464) 塚田 徹(10983)<br>塚原 正志(3704) 鶴本 理人(53460)<br>照井 林陽(23768) 富山 直輝(7656)<br>永井 貴士(12941) 中浦 俊一郎(8978)<br>中島 龍彦(15868) 永田 敬生(23483)<br>西方 浩一(4975) 西川 祐志(1647)<br>二宮 大起(26325) 長谷 麻由(6311)<br>濱田 匠(25682) 濱本 孝弘(5228)<br>林 亜遊(14044) 林 浩之(12368)<br>原 麻理子(20574) 福元 正伸(31953)<br>福家 亜希子(10528) 淵上 敬史(7870)<br>古川 恭授(20083) 古屋 悟(8621)<br>松田 隆治(2540) 光永 済(18264)<br>宮崎 望実(34281) 宮本 香織(9120)<br>若本 隆司(19810) 渡辺 誠(1652) | 部長<br>山本 伸一(3167)<br>副部長<br>刈山 和生(1760)<br>佐藤 孝臣(4084)<br>高島 千敬(10629)<br>谷 隆博(2318)<br>二神 雅一(2474)<br>三澤 一登(1338) | 井上 忠俊(59382) 岩永 竜一郎(3666)<br>岩本 花奈子(13515) 宇田 英幸(3711)<br>大内 義隆(8453) 大川 和則(12675)<br>奥原 孝幸(5468) 澤潟 昌樹(13351)<br>嘉数 栄司(28632) 金安 誠(16449)<br>上城 憲司(7306) 倉富 眞(746)<br>黒澤 淳二(4800) 佐藤 嘉孝(19992)<br>島崎 寛将(16628) 下田 健一朗(11664)<br>鈴木 俊弘(17748) 鈴木 雅晴(5110)<br>田尻 寿子(3429) 田村 孝司(6327)<br>坪田 裕美子(967) 土居 義典(20190)<br>戸並 桂子(11247) 中嶋 実里(57529)<br>中島 裕也(35611) 那須 識徳(48203)<br>西村 玲子(10276) 長谷川 利夫(16416)<br>平尾 文(6278) 藤岡 晃(8809)<br>二神 雅一(2474) 松尾 涼太(57177)<br>水野 高昌(10041) 村島 久美子(24551)<br>茂木 有希子(9797) 安井 宏(14563)<br>八杉 基史(976) 吉澤 いづみ(16245)<br>米田 貢(3761) 若林 佳樹(46052)<br>和久 美恵(3213)                    |
|  | 障害保健福祉対策委員会 | 委員長 渡邊 忠義(1434)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                    | 有川 真弓(19370) 石原 詩子(18769)<br>石原 弥生(1503) 今川 雅代(4554)<br>遠藤 千冬(17881) 遠藤 真史(14858)<br>大田 兼寛(9063) 金川 善衛(24455)<br>川村 謙吉(3661) 岸 良至(4292)<br>小松 洋平(15491) 酒井 康年(18655)<br>坂下 幸子(15005) 櫻井 章人(21724)<br>佐藤 崇(16917) 杉本 拓哉(31358)<br>関根 徹(7409) 高森 聖人(3774)<br>田坂 翔太(34765) 田辺 美樹子(588)<br>中路 純子(594) 仲地 幸宗(21292)<br>西上 忠臣(6361) 二宮 彰浩(17426)<br>野々垣 睦美(7502) 峰野 和仁(12921)<br>宮崎 宏興(8636) 森 直樹(4420)<br>山本 智美(35624) 吉岡 和哉(28404)                                                                                                                                                                                   |
|  | 福祉用具対策委員会   | 委員長 渡邊 慎一(1264)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                    | 浅生 弘美(1070) 安達 千華(48062)<br>栗沢 広之(11613) 淡野 義長(4297)<br>石渡 大地(45849) 泉 拓也(34643)<br>伊知地 ゆめ(43997) 伊藤 貴子(1946)<br>糸賀 孝(21847) 井上 舞子(36335)<br>岩佐 英志(3126) 岩根 寛(42440)<br>植田 千春(3196) 植田 友貴(26035)<br>内田 嘉央理(6330) 内田 正剛(4715)<br>内山 美枝子(20998) 嬉野 千澄(32123)<br>大石 和也(40389) 大内 陽子(6369)<br>大平 純江(3311) 岡本 宗(29094)<br>岡本 裕一(31433) 小川 いづみ(35854)<br>香川 寛(16739) 加藤 直樹(41915)<br>金子 茂稔(10385) 鴨下 賢一(2963)<br>河口 青児(8769) 岸下 裕志(17357)<br>北島 栄二(4713) 衣川 美弥子(20788)<br>桐山 由利子(3333) 金城 正治(1251)<br>熊谷 隆史(17849) 熊添 潤一(6964)<br>桑田 哲人(22586) 小猿 純一(11137)<br>小玉 武志(28634) 小林 大作(31954)<br>斎藤 孝英(39905) 佐久間 大輔(15090) |
|  | 制度対策部       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|  | 保険対策委員会     | 委員長 梶原 幸信(4438)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                    | 朝倉 起己(11169) 阿部 三知代(3471)<br>伊藤 篤史(25237) 伊藤 直子(773)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

|  |                    |                            |
|--|--------------------|----------------------------|
|  |                    | 櫻木 美穂子(1076) 笹原 寛(1901)    |
|  |                    | 佐藤 崇(16917) 澤木 佳子(690)     |
|  |                    | 篠森 丞(18151) 柴田 康子(5278)    |
|  |                    | 渋谷 亮仁(26259) 渋谷 晋太郎(18801) |
|  |                    | 島ノ江 寿(11292) 清水 万紀子(1306)  |
|  |                    | 鈴木 健朗(13319) 鈴木 俊弘(17748)  |
|  |                    | 陶山 幸弘(7047) 関谷 宏美(5324)    |
|  |                    | 善明 史恵(41750) 曾田 淳(37627)   |
|  |                    | 高橋 知義(15806) 高山 悠二(11967)  |
|  |                    | 瀧 美奈子(1352) 武内 あけみ(3211)   |
|  |                    | 竹岡 郁美(59420) 田中 栄一(6526)   |
|  |                    | 田中 勇次郎(517) 谷 佳代(61754)    |
|  |                    | 田畑 雄吉(37844) 塚原 緑(10853)   |
|  |                    | 机 里恵(8820) 寺崎 司(30207)     |
|  |                    | 寺田 佳世(1411) 寺本 千秋(10592)   |
|  |                    | 土居 道康(18149) 都甲 宗典(18172)  |
|  |                    | 富田 昭(9620) 富田 真平(29733)    |
|  |                    | 富永 真弓(19612) 富本 紘之(146154) |
|  |                    | 長尾 哲男(301) 中川 のぞみ(33036)   |
|  |                    | 中川 英俊(37223) 永原 祐二(16370)  |
|  |                    | 中村 敏浩(1902) 沼田 一恵(24169)   |
|  |                    | 芳賀 翔一(34294) 橋本 年代(2085)   |
|  |                    | 濱 昌代(1781) 早川 俊秀(521)      |
|  |                    | 林 朋一(43934) 林 正春(4608)     |
|  |                    | 半田 彩(46153) 菱沼 勝巳(11648)   |
|  |                    | 深尾 香名子(56206) 藤原 太郎(11600) |
|  |                    | 船谷 俊彰(2600) 古市 英子(21838)   |
|  |                    | 細川 美智子(23325) 町田 真一郎(9754) |
|  |                    | 松本 嘉次郎(8639) 松本 和広(15264)  |
|  |                    | 松本 潔(2444) 松本 琢磨(3249)     |
|  |                    | 松山 厚樹(30762) 三戸 幹(16967)   |
|  |                    | 宮田 和典(41859) 宮永 敬市(2554)   |
|  |                    | 宗近 眞理子(1704) 村越 妙美(5706)   |
|  |                    | 樺山 貴子(12367) 榎山 有希子(30781) |
|  |                    | 森田 傑(10697) 安田 秀一(4766)    |
|  |                    | 山崎 敦広(18753) 山下 協子(492)    |
|  |                    | 山下 剛正(16239) 山下 陽子(6915)   |
|  |                    | 湯脇 稔(48762) 吉田 雅紀(10244)   |
|  |                    | 和田 由紀(7577) 渡辺 久仁子(18249)  |
|  | 日本障害者協議会<br>渉外担当   | 比留間 ちづ子(800)               |
|  | 日本精神保健福祉<br>連盟渉外担当 | 鎗田 英樹(15625)               |

| 広報部                                                                 |           |                           |
|---------------------------------------------------------------------|-----------|---------------------------|
| 部長<br>荻原 喜茂<br>(1226)<br>副部長<br>小川 敬之<br>(2183)<br>川本 愛一郎<br>(2689) | 広報委員会     | 委員長 岡本 宏二(2910)           |
|                                                                     |           | 磯野 弘司(8781)               |
|                                                                     |           | 関本 充史(16960) 高梨 信之(10099) |
|                                                                     |           | 根田 英之(10982) 二本 理恵(36296) |
|                                                                     | 公開講座企画委員会 | 鍛冶 実(11303) 正真 康宏(17448)  |
|                                                                     |           | 杉本 努(11251)               |
|                                                                     | 機関誌編集委員会  | 磯野 弘司(8781) 河原 克俊(41078)  |
|                                                                     |           | 関本 充史(16960) 高梨 信之(10099) |
|                                                                     |           | 多良 淳二(21439) 塚本 千鶴(46337) |

| 国際部                                              |       |                                   |
|--------------------------------------------------|-------|-----------------------------------|
| 部長<br>藤井 浩美<br>(1177)<br>副部長<br>座小田 孝安<br>(2152) | 国際委員会 | 委員長 佐藤 善久(1139)                   |
|                                                  |       | 安倍 あき子(7237) 李 範爽(23762)          |
|                                                  |       | 石井 清志(17623) 石橋 英恵(2089)          |
|                                                  |       | 市川 眞理子(6202) 稲垣 陽子(11445)         |
|                                                  |       | 江渡 義晃(5698) 河野 眞(18747)           |
|                                                  |       | 春原 るみ(1832) 高橋 香代子(16784)         |
|                                                  |       | 田中 紗和子(31545) 友測 可乃子(11283)       |
|                                                  |       | 野田 綾子(27646) ボンジェ ベイター<br>(18745) |
|                                                  |       | 森下 賀子(9810) 山崎 せつ子(2993)          |
|                                                  |       | 山本 清治(21770) 吉田 美穂(3107)          |
|                                                  | WFOT  | 代表 中村 春基(548)                     |
|                                                  |       | 代表代理 石橋 英恵(2089)                  |
|                                                  |       | 佐藤 善久(1139)                       |

| 災害対策室                                                                                |  |                          |
|--------------------------------------------------------------------------------------|--|--------------------------|
| 室長<br>香山 明美<br>(1143)<br>副室長<br>荻原 喜茂<br>(1226)<br>清水 兼悦<br>(2755)<br>谷 隆博<br>(2318) |  | 遠藤 浩之(6661) 大越 満(5563)   |
|                                                                                      |  | 大久保 訓(4543) 今野 和成(14102) |
|                                                                                      |  | 椎野 良隆(22786) 根岸 昌(25907) |
|                                                                                      |  | 信澤 直美(14583) 本地 光弘(1388) |

| 47都道府県委員会                                                                             |  |                          |
|---------------------------------------------------------------------------------------|--|--------------------------|
| 委員長<br>宇田 薫<br>(3515)<br>副委員長<br>大庭 潤平<br>(8129)<br>長倉 寿子<br>(1006)<br>松本 信<br>(1389) |  | 秋山 恭延(1880) 新井 健五(3854)  |
|                                                                                       |  | 池澤 直行(2030) 泉 靖司(1102)   |
|                                                                                       |  | 稲垣 毅(2309) 井上 和哉(5368)   |
|                                                                                       |  | 岩佐 英志(3126) 上田 任克(622)   |
|                                                                                       |  | 植野 英一(3575) 大場 耕一(2900)  |
|                                                                                       |  | 大松 慶子(1038) 沖 英一(3438)   |
|                                                                                       |  | 荻原 喜茂(1226) 上遠野 純子(2865) |
|                                                                                       |  | 香山 明美(1143) 川 雅弘(5693)   |
|                                                                                       |  | 川本 愛一郎(2689) 倉富 眞(746)   |
|                                                                                       |  | 黒淵 永寿(2909) 佐藤 孝臣(4084)  |
|                                                                                       |  | 澤田 昌宏(1319) 志井田 太一(756)  |
|                                                                                       |  | 柴 貴志(1897) 島崎 一也(1776)   |
|                                                                                       |  | 清水 兼悦(2755) 白木 幸子(3373)  |
|                                                                                       |  | 白澤 伸一(942) 進藤 浩美(832)    |
|                                                                                       |  | 高木 節(5515) 鷹野 悦子(1458)   |
|                                                                                       |  | 高橋 敏弘(1373) 高森 聖人(3774)  |
|                                                                                       |  | 竹田 寛(1325) 達増 浩幸(1754)   |
|                                                                                       |  | 田中 勇次郎(517) 田村 良子(329)   |
|                                                                                       |  | 土井 勝幸(6054) 檜原 伸二(807)   |
|                                                                                       |  | 長谷川 敬一(2037) 原 長也(1711)  |
|                                                                                       |  | 比嘉 靖(7879) 平山 聡(7282)    |
|                                                                                       |  | 藤波 英司(3189) 星 克司(856)    |
|                                                                                       |  | 松本 太蔵(3066) 宮内 吉則(1163)  |
|                                                                                       |  | 宮永 茂行(2330) 山本 伸一(3167)  |
|                                                                                       |  | 横田 剛(2327) 四本 伸成(2812)   |
|                                                                                       |  | 渡邊 慎一(1264)              |

| 生活行為向上マネジメント推進プロジェクト委員会                                       |  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|---------------------------------------------------------------|--|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 担当理事<br>大庭 潤平<br>(8129)<br>佐藤 孝臣<br>(4084)<br>土井 勝幸<br>(6054) |  | <b>委員長</b> 谷川 真澄(2266)<br>浅野 有子(1083) 阿部 三知代(3471)<br>有村 正弘(6238) 石井 利幸(15434)<br>石川 隆志(2471) 磯野 秀樹(17202)<br>宇都宮 賢一(15222) 浦野 成之(8193)<br>大内 義隆(8453) 太田 睦美(541)<br>大庭 潤平(8129) 大平 悦子(7186)<br>岡本 宏二(2910) 尾崎 勝彦(14117)<br>笥 智裕(35268) 河野 裕美子(5770)<br>菊地 啓介(3710) 木村 修介(14691)<br>久保 健二(2075) 熊谷 隆史(17849)<br>小池 保徳(4200) 紅野 勉(3186)<br>小林 幸治(9929) 小林 法一(4718)<br>小林 隆司(2104) 小室 雅紀(19489)<br>佐久間 大輔(15090) 佐藤 真一(928)<br>佐藤 友美(10905) 椎野 良隆(22786)<br>塩田 繁人(25815) 柴田 八衣子(5344)<br>下村 美穂(51202) 須貝 里幸(11340)<br>鈴木 孝治(1182) 関根 圭介(5162)<br>関本 充史(16960) 高見美貴(2509)<br>竹内 さより(4448) 田嶋 神智(22805)<br>田中 浩二(16974) 田中 弘美(1481)<br>田村 大(12381) 津軽谷 恵(5885)<br>寺門 貴(17507) 土井 宣幸(15099)<br>土居 英雄(12301) 徳地 亮(14026)<br>都甲 幹太(32656) 西井 正樹(18028)<br>西田 康晴(2522) 根田 英之(10982)<br>信久 美佐子(5252) 長谷 麻由(6311)<br>長谷川 敬一(2037) 馬場 孝(1331)<br>濱田 正貴(8934) 濱本 孝弘(5228)<br>東 登志夫(3118) 東川 哲朗(2858)<br>深津 良太(18081) 藤木 昭彦(7188)<br>二木 理恵(36296) 保谷 勝義(2229)<br>本田 一弘(12066) 前園 健之(3946)<br>真木 律子(1380) 松尾 真輔(11911)<br>松岡 暢(3977) 松村 奈美(36270)<br>松本 嘉次郎(8639) 三浦 晃(24873)<br>三上 直剛(15854) 三井 忍(4642)<br>三橋 力也(45026) 三津山 功祐(16756)<br>宮内 順子(695) 宮永 敬市(2554)<br>宮永 茂行(2330) 宮本 香織(9120)<br>宮本 昌寛(19157) 茂木 有希子(9797)<br>望月 マリ子(1575) 森脇 ひろ子(4982)<br>安村 勝也(31220) 山田 小百合(5629)<br>山本 泰雄(9781) 渡邊 聡(23930)<br>渡辺 展江(2363) 渡邊 基子(12054) |

| 認知症の人の生活支援推進委員会                                              |  |                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------------------------------------------------------------|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 担当理事<br>宇田 薫<br>(3515)<br>香山 明美<br>(1143)<br>二神 雅一<br>(2474) |  | <b>委員長</b> 小川 敬之(2183)<br>石井 利幸(15434) 稲橋 秀樹(15749)<br>岩切 良太(32798) 岡島 麻友美(2097)<br>荻原 喜茂(1226) 上城 憲司(7306)<br>菊山 和生(1760) 河合 晶子(16959)<br>佐藤 和彦(2874) 谷川 良博(4253)<br>田平 隆行(5952) 椿野 由佳(16798)<br>中野 小織(11856) 西田 征治(4452)<br>松浦 篤子(4936) 村島 久美子(24551)<br>村山 眞理子(5920) 山口 智晴(21991) |

| 事務局                                                                    |                      |                                                                                                                                                                                                                     |
|------------------------------------------------------------------------|----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事務局長<br>荻原 喜茂<br>(1226)<br>事務局次長<br>香山 明美<br>(1143)<br>土井 勝幸<br>(6054) | <b>財務担当</b>          | 岡本 佳江(2722)                                                                                                                                                                                                         |
|                                                                        | <b>企画調整委員会</b>       | <b>委員長</b> 小賀野 操(1966)<br>小林 あかり(23233) 鈴木 愛(39899)<br>三浦 晃(24873) 村山 祐美(10925)                                                                                                                                     |
|                                                                        | <b>規約委員会</b>         | <b>委員長</b> 五百川 和明(4630) 枝波 静香(34524)<br>小林 貴子(10984)                                                                                                                                                                |
|                                                                        | <b>福利厚生委員会</b>       | <b>委員長</b> 長谷川 利夫(16416)<br>岩根 達郎(12164) 上野 涼子(27309)<br>牛丸 憲史(49147) 齋藤 嘉子(3853)<br>佐藤 美樹(48408) 鈴木 健太郎(8237)<br>宅間 努(16149) 田中 忍(21743)<br>樋口 賢太(48517) 平山 郁子(43077)<br>藤本 篤史(28314) 松村 加奈子(28177)<br>村山 央(46792) |
|                                                                        | <b>統計情報委員会</b>       | <b>委員長</b> 千島 亮(1569)<br>岩上 さやか(26202) 篠崎 雅江(4414)<br>櫻井 聡(39525) 辰巳 浩崇(21804)<br>奈良 篤史(3197) 野口 智子(55747)<br>原 由紀(7433) 藤川 信(7075)<br>古川 智己(18954) 本多 ふく代(2054)<br>松村 茂(5732)                                      |
|                                                                        | <b>表彰委員会</b>         | <b>委員長</b> 長島 潤(4512)<br>池ノ谷 眞里(179) 大西 龍子(110)<br>鈴木 一弘(12105)                                                                                                                                                     |
|                                                                        | <b>50周年記念誌編集委員会</b>  | <b>委員長</b> 山根 寛(993)<br>荻原 喜茂(1226) 菊山 和生(1760)<br>杉原 素子(327) 富岡 詔子(29)                                                                                                                                             |
|                                                                        | <b>50周年記念式典実行委員会</b> | <b>委員長</b> 小林 毅(2057)<br><b>副委員長</b> 宇田 薫(3515) 菊山 和生(1760)<br>川本 愛一郎(2689) 清水 順市(613)                                                                                                                              |

| 倫理委員会                  |  |                                                                                                                                   |
|------------------------|--|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員長<br>荻原 喜茂<br>(1226) |  | 宇田 薫(3515) 香山 明美(1143)<br>菊山 和生(1760) 小林 毅(2057)<br>小林 正義(1908) 陣内 大輔(1653)<br>土井 勝幸(6054) 藤井 浩美(1177)<br>三澤 一登(1338) 山本 伸一(3167) |

| 表彰審査会                                             |  |                                                                                                        |
|---------------------------------------------------|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員長<br>香山 明美<br>(1143)<br>副委員長<br>荻原 喜茂<br>(1226) |  | 宇田 薫(3515) 小林 毅(2057)<br>清水 兼悦(2755) 陣内 大輔(1653)<br>高島 千敬(10629) 長島 潤(4512)<br>二神 雅一(2474) 三澤 一登(1338) |

| 研究倫理審査委員会 |  |                                                   |
|-----------|--|---------------------------------------------------|
|           |  | 浅井 憲義(444) 岩崎 テル子(446)<br>小林 正義(1908) 田辺 美樹子(588) |

# 各部・室・事務局活動報告

## 学術部

【**学術委員会**】50年史の原稿作成と資料収集。協会の作業療法定義改定に向けた役職者・代議員へのWEBアンケート実施と結果集計。作業療法学全書検討委員会への参画・「作業療法学の構造」更新に向けた検討。平成28年度課題研究助成の公募準備。マニュアル編集（高次脳機能障害、認知症初期集中支援、就労支援、地域生活支援、研究法）と編集作業の一部編集作業の外部委託に向けた検討（継続）。疾患別ガイドライン（脳卒中、脳性麻痺）の作成・発行準備（継続）。

【**学術誌編集委員会**】拡大編集委員会（6月6日）の開催。学術誌「作業療法」とAsian Journal of OTの査読管理・編集業務（継続）。Asian Journal of OTのWEB登録の検討。

【**学会運営委員会**】第51回学会（東京）の会場視察。第2回東アジア諸国との交流会出席（日本作業療法学会の案内及びAsian Journal of OTの査読者推薦依頼）。

## 教育部

【**養成教育委員会**】指定規則等改定検討、教育水準に関するアンケート作成、国家試験出題基準改定版の分析、第50回国家試験問題の分析。

【**生涯教育委員会**】専門OT手引き修正作業、新規分野WG設置検討、大学院との連携作業、MTDLPWGとの連携、平成27年度第1回制度推進担当者会議の開催。

【**研修運営委員会**】平成27年度研修会の開催、平成27年度全国研修会開催地との打ち合わせ。

【**教育関連審査委員会**】WFOT認定証発行に係る調整作業、認定作業療法士取得研修会認定審査、認定作業療法士不在養成に対する認定審査の取り扱いの検討。

【**作業療法学全書編集委員会**】平成27年度第2回作業療法学全書編集委員会開催。

## 制度対策部

【**保険対策委員会**】①平成27年度介護報酬改定後調査準備。②平成28年度診療報酬改定要望関連資料作成。

【**障害福祉対策委員会**】①平成27年5月20日：JDDNET「多職種連携支援推進委員会」。②平成27年5月23日：認定NPO法人日本障害者協議会（JD）第4回総会。③特別支援学校強化モデル事業調査まとめ。④障害児通所支援実態調査まとめ。⑤障害福祉領域における作業療法士の役割に関する意見交換会準備。

【**福祉用具対策委員会**】①平成27年5月16～17日：岩手県盛岡市にてIT機器レンタル事業説明会を開催。②平成27年5月30日：研究開発・臨床評価促進事業の小委員会会議を開催し、来年度の事業計画を検討。

## 広報部

【**広報委員会**】ホームページ二次構築に向けて、事務局・関係部署と連携し作業。Opera20号取材日程調整、作業療法啓発ポスターが完成し、都道府県士会へ発送準備。

【**公開講座企画委員会**】国際福祉機器展準備、作業療法フォーラム準備。

【**機関誌編集委員会**】40号（7月号）発行、41号・42号企画、制作準備。

## 国際部

国際部としては、東アジア諸国との交流会案内状（コミュニケーションNo3）の発送。東アジア諸国との交流会のアジェンダ作成。

【**国際委員会**】東アジア諸国からの参加者への対応と情報交換および懇親会の確認。国際シンポジウムにおけるシ

ンポジストとの内容確認。「グローバル入門セミナー」の準備（会場申込み、講師への連絡）。

【**WFOT委員会**】アジア太平洋作業療法地域グループ（APOTRG）への連絡。WFOT事務局からの情報発信。

## 災害対策室

災害支援ボランティア登録の随時受付。JRAT、JIMTEFへの活動協力。

## 47都道府県委員会

①2回47都道府県委員会開催（5/31）。新オレンジプランについて情報共有、士会の取り組み状況と今後の課題を検討。MTDLP推進プロジェクト委員会からの報告。②運営委員会（web会議）の開催（6/12）。第3回47都道府県委員会の内容を検討。より「委員会機能」が発揮できる委員会のスタイルを念頭に置いた準備。

## 事務局

【**財務**】生活行為向上マネジメント研修に係る補正予算案の検討と理事会への上程。旅費規程の一部運用方法についての検討と理事会への報告。

【**庶務**】平成27年度定時社員総会の議事録作成。定款変更・役員改選に伴う登記手続き。平成27年度会費納入管理。平成26年度会員資格喪失者の確定と、それによる平成26年度会員数・組織率の確定。新規入会・再度入会会員登録業務。協会保有の各種システム及び業務見直しを委託する分析SEの業者選定。日本作業療法学会協会の協会事務局デスクにおける対応業務。京都サテライト事務所整備の検討（継続）。インフルエンザ版BCPの検討（継続）。法人著作物の出版契約に関する検討。

【**企画調整委員会**】『作業療法白書2015』のアンケート外注業者の選定。第二次作業療法5ヵ年戦略の中間見直し作業の開始。

【**規約委員会**】定款施行規則（一部改正案）、法人著作物に関する規程（案）の検討と理事会への上程。認定作業療法士制度規程細則（改正案）の検討。

【**統計情報委員会**】士会システム講習会の準備。士会システムにおける2台目PCの管理方法、個人情報管理のあり方の再検討。

【**福利厚生委員会**】会員福利の一環として提案された新医療保障保険の団体契約の検討。

【**総会議事運営委員会**】平成27年度定時社員総会運営に関する理事会への報告。次年度総会会場の検討と予約交渉。

【**選挙管理委員会**】平成27年度定時社員総会における役員選任投票結果のホームページへの掲載。

【**倫理委員会**】倫理問題事案の収集・整理と対応。事案提供のあった士会や一般の方への対応と連絡調整。

【**50周年記念誌編集委員会**】各部事業活動史に関する史料収集・執筆・編集作業。企画規模の再検討と業者への見積もり依頼。

【**協会内組織との連絡調整**】協会ホームページリニューアル二次構築に向けた委託業者・広報部との検討会議（継続）。生活行為向上マネジメント関連書籍の出版契約書の検討と締結。

【**国内外関係団体との連絡調整**】リハビリテーション専門職団体協議会、全国リハビリテーション医療関連団体協議会、チーム医療推進協議会、大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会（JRAT）、等々との交渉・連絡調整・会議参加など。

# 異動された会員は7月末までに手続きを！

## 代議員選挙の11月実施に向けて

### 8月1日付で自分の選挙地区と地区毎の定数が決まる

選挙管理委員長 伊藤 貴子

平成27年12月をもって現在の代議員は任期満了となるため、改選の選挙を行う。スケジュールは以下のように予定しているが、変更の場合もあるので今後示される公示等にて確認していただきたい。

|            |                                  |                                                           |
|------------|----------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 会員データの確定日  | 平成27年8月1日                        | 会員の所属都道府県を確定し、<br>地区毎の代議員定数算出をする                          |
| 代議員選挙公示    | 平成27年9月15日（火）                    | 協会ホームページに掲載する<br>機関誌9月号に掲載する                              |
| 立候補受付      | 平成27年9月17日（木）<br>～平成27年10月1日（木）  | 事務局で受付する                                                  |
| 選挙告示、投票用紙  | 平成27年10月23日付                     | 告示は全会員郵送する<br>投票用紙は選挙のある地区の会員のみ郵送する<br>選挙公報は協会ホームページに掲載する |
| 選挙公報       | 平成27年10月23日付                     | 協会ホームページに掲載する                                             |
| 投票期間 [3週間] | 平成27年11月1日（日）<br>～平成27年11月22日（日） |                                                           |
| 代議員改選の結果報告 | 平成27年12月11日                      | 協会ホームページに掲載する<br>機関誌1月号に掲載する                              |

#### ●代議員選挙は地区（＝都道府県）単位で行われる

ここで重要な点は、代議員選挙は都道府県単位で行われることである。代議員選挙においては、選挙区となる都道府県のことを「地区」と呼ぶ。代議員選挙においては、自分がどこの地区で登録されているかによって、立候補できる地区及び投票できる地区が決まる。

#### ●自分の所属の「地区」を確認する方法

会員それぞれの「地区」は、協会の会員管理システム上に登録されている「所属都道府県」となっている。職場や自宅住所としている会員がほとんどであるが、自分がどこの「地区」で登録されているのかは次の方法で確認できる。

- ① 協会ホームページ（会員向け情報→会員システム）からID（会員番号）／パスワードを使って、WEB版の「会員システム」にログイン
- ② 「会員情報の閲覧・更新」をクリック → 「個人情報」をクリック
- ③ 「個人情報」ページの、一番上にある「所属都道府県」があなたの「地区」です

（「所属都道府県」は、原則として、勤務先住所に基づいて登録されている。勤務先がない人の場合は自宅住所に基づいている。「所属都道府県」は「所属都道府県作業療法士会」と必ず一致するとは限らないのでご注意願いたい）

※自分の「地区」について不明な点がある場合は協会事務局までお問い合わせください。

● 8月1日時点の会員管理システムのデータで「地区」が特定される

(変更届がまだの人はお早めに)

各会員が所属する「地区」は、本年8月1日時点の会員データによって特定される。会員の皆さんには、今年職場や自宅住所が変わった人もいると思われるが、協会への変更届は済んでいるだろうか。まだの人は、すぐに変更届を提出していただきたい。

8月1日以降に異動される(された)人は、自分で郵便局に転居届を出し、選挙関連の重要書類が転送されるよう必ず手配していただきたい。郵便の転送がされない場合は、投票用のID・パスワードが届かないため投票ができなくなることをご注意願いたい。

● 8月1日時点の各地区の代議員の定数が算出される

代議員は、概ね正会員300人の中から1人の割合をもって選出される。代議員の定数の算出は、その地区の正会員数を300で除したものを四捨五入して整数にした数に、基本数1人を加えた人数としている。

平成23年に選出された代議員は全国で197名であったが、今年はそれよりも正会員が増えているので代議員の定数も増員となる見込みである。

WFOT 大会及び WFOT 代表者会議での功勞に対し

## 感謝状を贈呈

平成27年5月30日、定時社員総会に引き続いて、協会の感謝状贈呈式が行われた。これは昨年に行われた第16回世界作業療法士連盟大会の開催に尽力した神奈川県作業療法士会、埼玉県作業療法士会、東京都作業療法士会の3士会、および第31回世界作業療法士連盟代表者会議の開催に尽力した千葉県作業療法士会の功勞に対し、日本作業療法士協会として謝意を示すものであり、当日各士会の代表者に対して中村会長より感謝状が贈呈された。各士会の代表者は茂木優樹氏(千葉県作業療法士会)、田中勇次郎氏(東京都作業療法士会)、錠内広之氏(神奈川県作業療法士会)、宇田英幸氏(埼玉県作業療法士会)であった。これを受けて、4士会を代表し錠内広之氏より挨拶があり、5年にわたる準備と運営の様子が披露された。



感謝状を受け取る茂木氏



贈呈式の様子

(左から錠内広之氏、宇田英幸氏、田中勇次郎氏、茂木優樹氏)

## 一般社団法人 日本作業療法士協会

### 代議員選出規程

平成 24 年 11 月 17 日

平成 27 年 5 月 16 日

#### 第 1 章 総 則

(趣 旨)

第 1 条 この規程は、一般社団法人日本作業療法士協会（以下、本会という）定款第 11 条に基づく代議員の選出に関し必要な事項を定めるものとする。

(代議員の定義)

第 2 条 代議員とは、本会の一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下、法人法という）における社員である。

#### 第 2 章 代議員の選出

(代議員選挙)

第 3 条 代議員を選出するために、本会の正会員（以下、正会員という）による代議員選挙を行う。

2 理事又は理事会は、代議員を選出することはできない。

(選挙権)

第 4 条 正会員は、定款第 11 条に基づき、代議員選挙において誰でも等しく選挙権を有する。

2 前項の権利を有する者は、代議員選挙の公示に示す確定日において、本会の会員管理システムに登録されている正会員とし、また登録している所属都道府県を選挙権のある地区とする。

(被選挙権)

第 5 条 代議員は、定款第 11 条に基づき、正会員の中から選ばれる。また正会員は、誰でも等しく代議員選挙に立候補することができる。

2 前項の権利を有する者は、代議員選挙の公示に示す

確定日において、本会の会員管理システムに登録されている正会員とし、また登録している所属都道府県を立候補できる地区とする。

(代議員の人数)

第 6 条 代議員は、概ね正会員 300 人の中から 1 人の割合をもって選出される。

2 選出される人数は、各都道府県を地区として、その地区の正会員数に応じて決定する。

3 代議員の人数の算出は、その地区の正会員数を 300 で除したものを四捨五入して整数にした数に、基本数 1 人を加える。ただし 300 で除したものが 1 以下の数となった場合には切り上げて 1 とし、それに基本数 1 人を加える。

4 正会員が 0 人の地区からは、代議員は選出しない。

#### 第 3 章 代議員の職務と任期

(職 務)

第 7 条 代議員は、定款施行規則第 10 条に基づき、社員総会を構成する一員として、社員総会の議決権行使する。

2 代議員は、定款施行規則第 10 条に基づき、審議の充実と向上を図るため、社員総会への事実上の出席に努めるものとする。

3 代議員は、定款施行規則第 10 条に基づき、正会員から選出された代表者として、本会の会務運営について社員総会の場で意見をすることができる。

(任 期)

第 8 条 代議員の任期は、代議員選挙が終了した日をもって代議員名簿に登録された時から、選任の 4 年後に実施される代議員選挙終了の時までとする。

- 2 代議員が、社員総会決議取消しの訴え、解散の訴え、責任追及の訴え及び役員の解任の訴え（法人法第 266 条第 1 項、第 268 条、第 278 条、第 284 条）を提起している場合（法人法第 278 条第 1 項に規定する訴えの提起の請求をしている場合を含む。）には、当該訴訟が終結するまでの間、当該代議員は社員たる地位を失わない（当該代議員は、役員の選任及び解任（法人法第 63 条及び第 70 条）並びに定款変更（法人法第 146 条）についての議決権を有しないこととする）。

#### （代議員の登録）

第 9 条 選出された代議員は、代議員選挙が終了した日をもって代議員名簿に登録される。代議員名簿の記載項目は、都道府県毎に、氏名と読み仮名、会員番号、所属施設名からなる。

- 2 代議員は、代議員名簿に登録された内容に変更が生じた場合、速やかに本会事務局へ届出なければならない。
- 3 代議員が都道府県を異動した場合、任期を終えるまでは任期当初の都道府県をもって登録の地区とする。また異動があった地区は、異動の代議員が任期を終えるまでは、その地区の代表とみなす。

#### （代議員の辞任）

第 10 条 代議員は、定款第 12 条に基づき、定款施行規則第 11 条に定める別記第 4 号様式の辞任届を提出することにより、任意にいつでも辞任することができる。

#### （代議員資格の喪失）

第 11 条 社員は、定款第 13 条に基づき、次のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 定款第 8 条ないし定款第 10 条に基づき、この法人の正会員でなくなったとき。
- (2) その他解任すべき正当な事由があるとき。

#### （代議員補欠選挙の実施）

第 12 条 各都道府県の代議員の定数に欠員が生じたときは、その地区において代議員補欠選挙を行う。

- 2 ただし欠員が生じて、欠員が生じた日において、その地区で登録している代議員数が 1 人以上で、かつ代議員の総数が法人の正会員数を 300 人で割った数よ

り上回る場合は、代議員補欠選挙を行わない。

- 3 代議員補欠選挙は、代議員補欠選挙を行うに至る欠員が生じた日より 90 日以内で、かつ社員総会開催日の 30 日より前までに行う。

## 第 4 章 選挙管理委員会

#### （選挙管理委員会の設置）

第 13 条 代議員の選出に係る選挙を行うため、法人管理運営部門に選挙管理委員会を置く。

#### （選挙管理委員会の構成と任期）

第 14 条 選挙管理委員会は、理事及び監事以外の正会員 10 名より構成する。

- 2 選挙管理委員長の委嘱と任期は、定款施行規則第 25 条に従うものとし、その他の選挙管理委員の委嘱と任期は、選挙管理委員長に準ずる。

#### （代議員選挙運営委員の設置）

第 15 条 選挙管理委員長は、選挙を円滑でかつ公正に運営するために、各都道府県の正会員の中から代議員選挙運営委員を 1 名任命する。

- 2 選挙管理委員長は、代議員選挙運営委員の任命にあたり、各都道府県の作業療法士会へ推薦を依頼することができる。
- 3 代議員選挙運営委員は、代議員選挙において立候補したとき又は推薦候補者となったときには委員の資格を失う。この場合は、欠員を補充しなければならない。
- 4 代議員選挙運営委員は、本会の理事や監事を兼ねることができない。
- 5 代議員選挙運営委員は、選挙管理委員会の組織の一員として、選挙管理委員長の管理と指示のもと、次の職務を担う。

- (1) 選挙日程等の情報を各選挙地区の正会員へ伝達する補助を行う。
- (2) 予行であるトライアル投票の実施において、投票サイトへの接続を各都道府県から試行し、その結果を選挙管理委員長へ報告する。
- (3) インターネット投票でのトラブル発生等で緊急的措置を講じる場合において、選挙管理委員長からの

通知を当該選挙地区の正会員へ伝達する。

- 5 代議員選挙運営委員の任期は、代議員選挙の公示日より前に始まり投票期間最終日の30日後までの、選挙管理委員長が指定した期間とする。
- 6 代議員選挙運営委員は、選挙管理委員長へ申し出ることにより、任意にいつでも辞任することができる。
- 7 任期中に委員が欠けた場合は、その都道府県の正会員から委員を補充する。補充の委員の任期は前任者の残りの期間とする。
- 8 代議員選挙運営委員の活動に要する費用は、選挙管理委員会の活動費より充てる。
- 9 補欠代議員選挙を実施する際にも、前出第1項から第8項を適用する。

## 第5章 選挙の実施

(投票方法)

- 第16条 選挙の投票方法は、正会員による直接無記名式インターネット投票とし、投票様式は選挙管理委員会が指定したものとする。
- 2 選挙地区の区分は都道府県単位とし、投票は選挙管理委員会による一括した管理と運営のもとで実施する。
- 3 選挙管理委員長は、インターネット投票システムの設定と管理を業者へ委託することができる。
- 4 選挙管理委員長は、インターネット投票システムの稼働状況を事前に確認するため、予行としてのトライアル投票を実施することができる。その日程については委託の業者と相談のうえ決定する。

(代議員選挙の実施時期)

- 第18条 代議員選挙は、定款第11条に基づき4年に1度実施し、定時社員総会開催日の90日前までに完了する。

(選挙の公示)

- 第19条 選挙管理委員長は、代議員選挙に係る公示（以下、代議員選挙公示という）を、投票期間最終日より起算して60日前までに正会員へ通知しなければならない。

- 2 代議員選挙公示には、代議員選出の旨と選挙地区の代議員の定数、立候補の受付方法を明記する。

(立候補の届出)

- 第20条 代議員に立候補する者は、代議員選挙公示の日から30日以内の締切日までに選挙管理委員長へ届け出なければならない。その場合、締切日の当日消印を有効とする。

- 2 立候補する者は、代議員選挙立候補届（別記第1号様式）を本会ホームページより入手し、記入したものを選挙運営委員長へ届け出る。その際に、本会の当年度の会員証の写しを必ず添えることとする。

(立候補の届出の受理)

- 第21条 立候補の届出は、選挙管理委員長が受理をする。選挙管理委員長は、届出を受理したのちに代議員選挙候補届受理証（別記第2号様式）を発行する。

- 2 選挙管理委員長は、立候補届出の受付期間中一回以上、代議員選挙立候補届の受理結果を本会ホームページにおいて告示する。

(立候補者の告示)

- 第22条 選挙管理委員長は、立候補者の一覧と選挙地区毎の投票選挙の有無について、投票期間最終日より起算して25日前までに、正会員に告示として通知しなければならない。

(選挙公報)

- 第23条 立候補する者は、届出とともに宣伝文を提出することができる。その場合、代議員選挙公示で指定された書式や制限字数及び方法で送付する。

- 2 宣伝文の内容は経歴や立候補の趣意とし、代議員選挙と関係のない内容の掲載は選挙管理委員長の判断において削除することができる。

- 3 選挙管理委員会は、立候補する者が提出した宣伝文を選挙公報として正会員へ告知する。

- 4 選挙公報は、本会ホームページでも閲覧できるものとする。

(選挙運動)

- 第24条 立候補した者の当選を目的として、選挙権の

ある正会員に働きかける選挙運動ができる。選挙運動が出来る期間は、選挙告示の日より投票締切日の前日午後12時までとする。

2 次に挙げる者は、選挙運動が出来ない者とする。

- (1) 選挙となる当該地区において選挙権のない者
- (2) 本会の選挙管理委員会の構成員
- (3) 本会の代議員選挙運営委員

3 立候補した者は、選挙運動を目的とした次の行為は可能とする。

- (1) 通常の葉書による、又は封書を用いないビラによる文書図画の配布。
- (2) 電子メールによる文書図画の送信。ただし、送信先は選挙運動用として電子メール送信を自ら求めて通知した者に限るものとし、送信する電子メールには送信者の電子メールアドレスを記載すること。
- (3) ホームページ、ブログ、ソーシャルネットワーキングサービス（以下、ウェブサイト等とする）での文書図画の掲示。ウェブサイト等でユーザー間がやり取りするメッセージ機能も含む。その際、掲載した本人の電子メールアドレスを記載のこと。
- (4) 演説会等の集会。
- (5) 電話（ファクシミリを含まない）

4 選挙となる当該地区の正会員は、選挙運動を目的とした次の行為は可能とする。

- (1) ウェブサイト等での文書図画の掲示。ウェブサイト等でユーザー間がやり取りするメッセージ機能も含む。その際、掲載した本人の電子メールアドレスを記載すること。
- (2) 演説会等の集会における応援弁士。
- (3) 電話（ファクシミリを含まない）

5 選挙となる当該地区以外の正会員は、選挙運動を目的とした次の行為は可能とする。

- (1) 立候補者本人が配布する文書図画において、応援弁士としての文書図画の併記。
- (2) 立候補者本人が開催する演説会等の集会における応援弁士。

6 全ての者において、次に挙げる行為を禁止とする。

- (1) 飲食物を含む金品の提供を行うこと。
- (2) 正会員の自宅及び職場等の戸別訪問を行うこと。
- (3) 文書図画における虚偽又は不正な内容の掲示。

7 前項の規定に反する場合、または倫理的に問題があ

る場合には、選挙管理委員長の名のもとで注意、是正勧告、選挙権及び被選挙権の取り消し、当選の取り消しを行うことが出来る。

- (1) 選挙権及び被選挙権の取り消しとするのは、立候補者がこの規程に反する行為を行ったと選挙管理委員会が認めた場合とする。取り消しの期間は1年間とする。
- (2) 当選の取り消しとするのは、当選人がこの規程に反する行為を行ったと選挙管理委員会が認めた場合とする。当選の取り消しがあった場合には、当該当選人の人数に応じ得票数の多い順で繰り上げ当選人とする。
- (3) 規定に反する及び倫理的な問題に該当すると判断され、選挙管理委員会の調査対象となる者については、弁明の機会が保障されるものとする。
- (4) 選挙管理委員長は、処罰の結果を公表するものとする。

（立候補する者が定数未満の場合）

第25条 選挙管理委員長は、立候補届出の締切日において、立候補する者がいない又は立候補する者が定数に満たない選挙地区は、その地区の正会員の中から定数を満たすまでの推薦候補者を選定することができる。その場合、選挙管理委員長はその地区の作業療法士会へ推薦候補者の擁立を依頼することができる。

2 推薦候補者は、選挙地区の作業療法士会の会長が記名した代議員選挙推薦候補届（別記第3号様式）と本人が記名した代議員選挙推薦候補承諾書（別記第4号様式）に本会の当年度の会員証の写しを、指定された日までに選挙管理委員長へ届け出る。この際、選挙地区の作業療法士会の会長が本会の理事である場合、代議員選挙推薦候補届（別記第3号様式）には、その会長の代行者の記名とする。

3 推薦候補の届出は、選挙管理委員長が受理をする。選挙管理委員長は、代議員選挙推薦候補届（別記第3号様式）と代議員選挙推薦候補承諾書（別記第4号様式）を受理したのちに代議員選挙候補届受理証（別記第2号様式）を推薦候補者本人へ発行する。

（立候補者の告示）

第26条 選挙管理委員長は、立候補者の一覧と選挙地

区毎の投票選挙の有無について、投票期間最終日より起算して25日前までに、正会員に告示として通知しなければならない。

(当選人の確定)

第27条 正会員による投票は、代議員選挙立候補届(別記第1号様式)による立候補者(以下、立候補者という)と、代議員選挙推薦候補届(別記第3号様式)及び代議員選挙推薦候補承諾書(別記第4号様式)による推薦候補者(以下、推薦候補者という)に対して行う。

2 立候補者が定数を上回る選挙地区は投票選挙となり、得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を当選人とする。

3 得票数が同数であり当選人が確定できない場合は、くじ引きとする。くじ引きは、選挙管理委員長の招集のもと該当する立候補者全員が参集し、選挙管理委員長がくじを作成し、立候補の受付の順にてこれを引き順位を決定する。

4 立候補者と推薦候補者を足した数が定数と等しい選挙地区は、その立候補者と推薦候補者の全員が当選人となる。

5 立候補者と推薦候補者を足した数が定数に満たない選挙地区は、その立候補者と推薦候補者の全員を当選人とし、次期の代議員選出の時まで欠員の状態とする。

6 選挙管理委員長は、確定した当選人を本会ホームページ及び協会誌において速やかに報告する。

(立候補等に伴う選挙管理委員の退任と補充)

第28条 選挙管理委員は、代議員選挙において立候補したとき又は推薦候補者となったときには委員の資格を失う。この場合は、欠員を補充しなければならない。

(投票の実施)

第29条 代議員選挙の投票の期間は、投票開始日と投票終了日を含めて22日間とする。

2 投票の期間と日程は原則として全国一斉とする。

3 選挙管理委員長は、投票期間中の投票率を、前出第16条に規定するインターネット投票システムに係る画

面において表示することができる。

(開票立会人)

第30条 投票の開始及び開票に際し立会人2名以内が同席する。立会人は、選挙管理委員長が指名する。

(代議員選挙の終了)

第31条 代議員選挙は、投票選挙がある場合は開票の日をもって、投票選挙がない場合は前出第24条に基づく告示の日をもって、終了となる。

2 選挙管理委員長は、代議員選挙が終了した日をもって、当選人を前出第9条の代議員名簿に登録する。

3 選挙管理委員長は、代議員選挙が終了したのち、終了の旨と代議員名簿を理事会へ報告しなければならない。

## 第6章 雑 則

(規程の変更)

第32条 この規程は、理事会の決議によって変更できる。

(選挙の管理・運営に関する手引)

第33条 選挙業務の円滑な運営と管理を行うため、別に「選挙の管理・運営に関する手引」を定める。

附則

1 この規程は、平成24年11月17日より施行する。

附則

1 この規程は、平成27年5月16日より施行する。

別記第1号様式 代議員選挙立候補届(省略)

別記第2号様式 代議員選挙候補届受理証(省略)

別記第3号様式 代議員選挙推薦候補届(省略)

別記第4号様式 代議員選挙推薦候補承諾書(省略)

## 一般社団法人 日本作業療法士協会

## 学会運営の手引き

1. (趣旨)  
日本作業療法学会の運営を円滑に行うために学会運営の手引きを定める。
2. (学会の時期)  
学会は原則として9月第2日曜日を最終日とする2.5日の期間において開催する。
3. (学会長)  
1) 学会長は原則として担当する年度の2年前に選任される。  
2) 学会長は学会運営委員長と連携して学会運営業務を行う。  
3) 学会長は必要に応じて理事会に出席し意見を述べるができる。
4. (学会組織と役割)  
1) 学会の組織および役割は「日本作業療法学会運営組織図」に定める。  
2) 学会長は実務を担当する委員を数名選任することができる。  
3) 学会長と学会運営委員長は選任した委員とともにプログラム部会と演題採択部会を組織する。  
4) プログラム部会は、学会プログラムの作成に関する業務を行う。  
5) 演題採択部会は、演題採択とセッション割り、座長配置に関する業務を行う。  
6) 演題審査員と座長候補者の選定は学会運営委員会が行う。  
7) 学会運営業者の選定は、学会運営委員会の推薦に基づき理事会が行う。
5. (参加費)  
参加費は当面、以下のとおりとする。  
1) 会員・賛助会員：事前登録 12,000 円、当日受付 15,000 円。  
2) 単日参加：正会員のみ。曜日を問わず1日 8,000 円。  
3) 非会員作業療法士：20,000 円（学会場での入会手続きは受け付けない）。  
4) WFOT 加盟国の作業療法士：事前登録 12,000 円、当日受付 15,000 円。  
5) 他職種：事前登録・当日受付ともに 12,000 円（身分証の提示を求める）。  
6) 学生：当日受付のみ。6,000 円（職種不問、学部生まで）。  
※出展者からは参加費を徴収しない。  
※会場によっては参加費を変更することがある。参加費の変更がある場合は速やかに告知する。
6. (テーマ・プログラム)  
1) 学会のテーマは、プログラム部会が検討し提案する。  
2) 学会のプログラムは、一般演題と特別プログラムから成り、プログラム部会がこれを企画立案する。一般演題は、口述発表とポスター発表から構成され、英語でのセッションを含むこととする。特別プログラムは、基調講演（3題）、シンポジウム（4セッション；国際シンポジウムを含む）と市民公開講座（1講座）を基本に構成することとする。  
3) 学会のテーマおよび特別プログラムは理事会の承認により決定する。
7. (演題採択)  
1) 一般演題の審査は別に定める「演題審査基準」に従い演題採択部会が行う。  
2) 演題の採否は学会長と学会運営委員長との合議により決定する。
8. (出展)  
1) 学会では機器展示および書籍販売を行うことができる。  
2) 出展者には小間数に応じて出展料を請求する（1小間：100,000 円を基本とする）。但し、賛助会員には賛助会員規程第3条第2号により無料の展示空間を提供する（A 会員は2展示区分、B 会員は1展示区分）。  
3) 設営にかかる費用は出展者の負担とする。
9. (開会式、閉会式)  
1) 式典はできるだけ簡潔にする。  
2) 来賓のある場合は、国、県、市町村、他団体の席次とし、予め指定をする。  
3) 他団体の来賓、後援団体の接待は協会が行う。  
4) 開会式の手順は別に定める。
10. (プログラム集・抄録集)  
1) プログラム集・抄録集はプログラム部会が作成する。  
2) プログラム集・抄録集は会員と当日受付の非会員参加者に配布する。  
3) 抄録集は電子媒体で発行する。
11. (業務日程)  
学会準備から終了報告までの業務の流れは「日本作業療法学会業務日程」に記す。
12. (文書)  
必要な公文書の種類と書式は学会運営委員会が保管する。
13. (謝金)  
講師謝金等は協会の規程に基づく。
14. (学会運営マニュアル)  
学会を円滑に運営するために、運営を委託された業者は学会運営マニュアルを作成する。
15. (レセプション)  
1) レセプションは学会参加者の懇親を目的に行い、簡素かつ安価なものとする。  
2) 独立採算で運営し、学会の収支計算書には含まない。  
3) 来賓、講師、出展者（2名まで）を無料招待する。

## 附則

この手引きは、第50回日本作業療法学会から適用する。

## 第 50 回作業療法士国家試験について 国家試験問題指針検討班による検討結果

教育部 養成教育委員会 国家試験問題指針検討班

教育部国家試験問題指針検討班では、平成 27 年 5 月 31 日に第 2 回国家試験問題指針検討班会議を開催した。第 1 回班会議で取りまとめた国家試験の「問題について」の意見書は、本誌第 37 号（4 月発行）に掲載した。

### 1. 国家試験合格者の動向・推移・入学定員との割合

平成 27 年 3 月 1 日に実施された第 50 回作業療法士国家試験は、全体の合格率が 77.5%（4,125 人）で、前回の合格率 88.6%（4,740 人）を大きく下回った（図 1）。また新卒者のみの合格率は 85.5%（第 49 回 94.2%）、既卒者の合格率が 22.0%（第 49 回 56.8%）であった。既卒者の合格率が低かった原因として、基礎学力不足および新規問題に対する対応力不足が考えられ、合格率が高かった第 49 回の試験（現役 94.2%）で不合格となった学生にとって、第 50 回の問題で 6 割以上の点を取ることは容易でなかったと考えられた。

全体の受験者は 5,324 人と前回より微減し（第 49 回 5,474 人）、合格者数は 4,125 人となり、合格者の数は過去 10 年で最低だった（図 2）。また、第 51 回の国家試験に既卒者が 1,000 人以上再受験することになり、国家試験受験者の 2 割強を再受験者が占めることが予測される。

養成校の入学定員の総数を 7,250 人（2015 年 5 月現在）、養成校が定員を満たしていると仮定すると、新規入学生に対し国家試験を受験する割合は概ね 7 割、合格できる割合は 6 割程度と言える。

### 2. 国家試験問題について

問題の難易度に関係すると思われる二択問題（X2 問題）は 19 問と、前回の 23 問より 4 問減少した。特に専門基礎（共通）分野で昨年の 15 問から 7 問と半減した（図 3）。作業療法専門分野では、前回より 4 問増え 12 問となった。12 問中 7 問が配点 3 点の問題であったため、ここで点数が取れなかった学生にとっては厳しい結果となった（図 4）。

国家試験問題指針検討班では、国家試験問題等の調査を Web・FAX・メールで行い、117 校（第 49 回時 79 校）から回答を得た。指摘の対象となった問題は 200 問中 65 問であった。

合格発表では、専門問題 3 問（うち 1 問題は配点 3 点）を採点から除外、共通問題 1 問を「複数解答を正解」とした。検討班では 7 問題を指摘し、4 問題が一致した結果となった。以下に、(1) 検討班で指摘したが、一致しなかった問題、(2) その他の意見で指摘した問題の理由、(3) 検討班で導き出した正答と異なった問題、(4) 養成校から指摘の多かった問題で、検討班として意見書で取り上げなかった問題、について再検討の結果を示す。

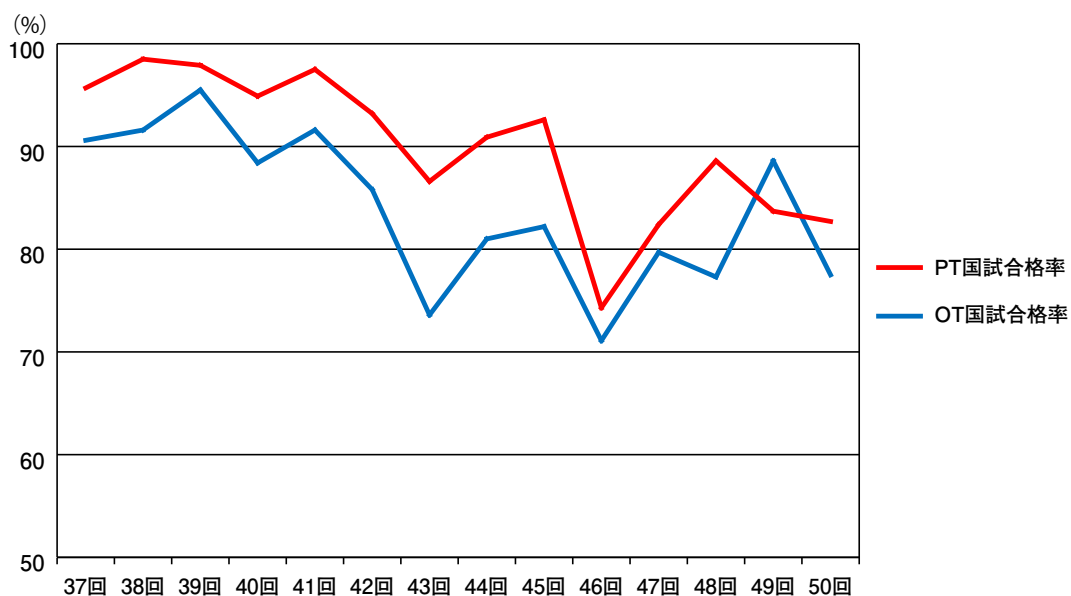


図1 作業療法士・理学療法士国家試験合格率の推移

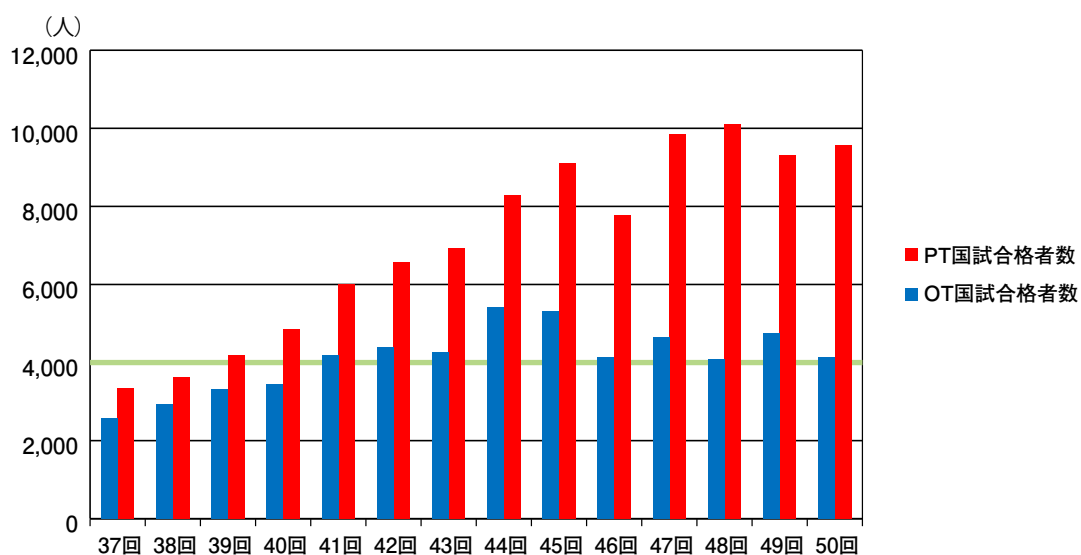


図2 作業療法士・理学療法士国家試験合格者数の推移

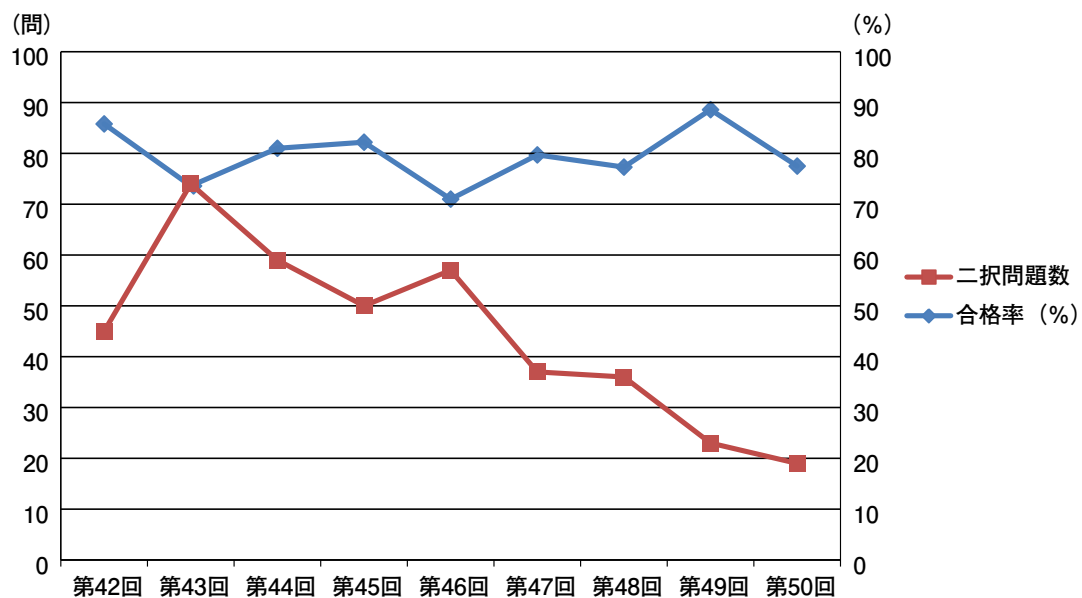


図3 二択問題 (X2 問題) 数と合格率の推移

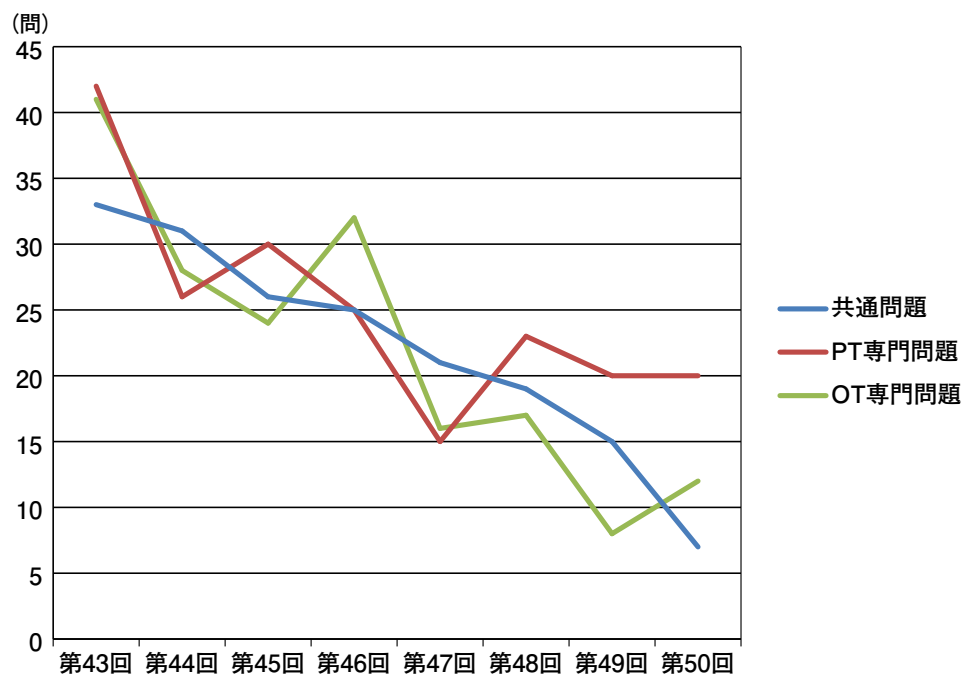


図4 二択問題数の推移

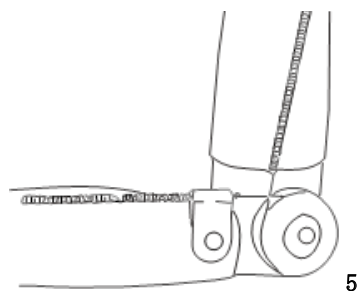
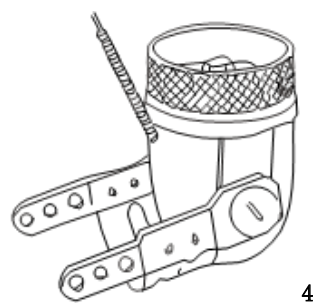
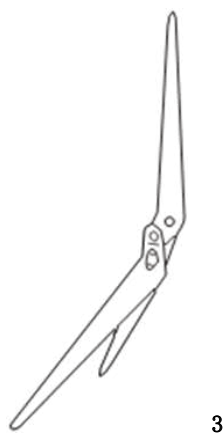
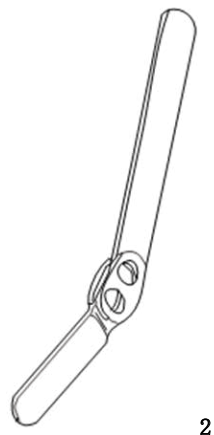
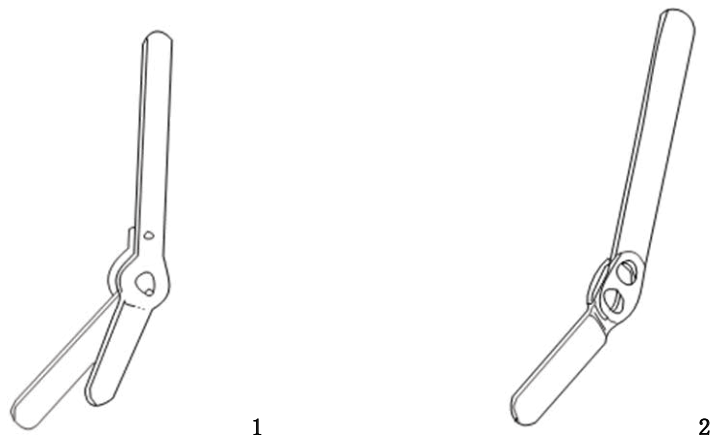
## (1) 検討班で指摘したが、一致しなかった問題 (再検討)

午後 問題番号 ( 9 ) 指摘校数: 14

次の文により 8、9 の問いに答えよ。

32 歳の女性。交通事故による左上腕切断（上腕長 30% 残存）。上腕能動義手の適合検査で、肘継手を屈曲させたときに手先具が口元に届かなかった。

この患者の肘継手として適切なのはどれか。



## 解 説

正答は 5 とされた。検討班では、複数の選択肢（4・5）が選択できると考えた（本誌 37 号に掲載）。当該問題は、上肢切断者に対する能動上腕義手について適切な部品を選択させる内容である。事例は、上腕短断端切断であり、選択肢 4 のブロック継手と選択肢 5 の肘プリーユニットの両方が適用されることに誤りはないが、設問にある「肘継手を屈曲させたときに手先具が口元に届かなかった」問題を解決するためにより適した部品は、選択肢 5 の肘プリーユニットであることに間違いはない、と考える。

|                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 午後 問題番号 ( 20 ) 指摘校数 : 1                                                                                                                                                                                                                               |
| <p>25歳の男性。Asperger 症候群。うつ病を合併していたが最近になり改善した。就労意欲が高まったため就労に向けた評価を実施することになった。</p> <p>この患者に実施する評価で適切でないのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. SDS</li> <li>2. HRS</li> <li>3. PANSS</li> <li>4. マイクロタワー法</li> <li>5. VPI 職業興味検査</li> </ol> |
| <p>解 説</p> <p>正答は3とされた。略称は正しく表記されるべきと考えて指摘したが、明らかに適切でない選択肢があったため除外対象とならなかった、と考える。</p>                                                                                                                                                                 |

|                                                                                                                                                                                                                                        |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 午後 問題番号 ( 87 ) 指摘校数 : 5                                                                                                                                                                                                                |
| <p>原始反射とその説明の組合せで正しいのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Moro 反射—両上肢の挙上</li> <li>2. 緊張性迷路反射—腹臥位での四肢の伸展</li> <li>3. 非対称性緊張性迷路反射—顔を向けた側の上下肢屈曲</li> <li>4. Galant 反射—刺激側が凸になる体幹の側屈</li> <li>5. 台のせ反応—刺激側足関節の底屈</li> </ol> |
| <p>解 説</p> <p>正答は1とされた。「人間発達学 反射」に関する問題であるが、選択肢1の「Moro 反射…上肢の挙上」を記載された文献はないが、他の4つの選択肢が明らかに誤っていることから、選択可能な問題として扱われた、と考える。</p>                                                                                                           |

## (2) その他の意見で指摘した問題

|                                                                                                                                          |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 午前 問題番号 ( 76 ) 指摘校数 : 6                                                                                                                  |
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 収縮期血圧の低下</li> <li>2. 心拍数の低下</li> <li>3. 大動脈弁狭窄</li> <li>4. 心房中隔欠損</li> <li>5. 僧帽弁狭窄</li> </ol> |
| <p>解 説</p> <p>正答は3とされた。優先順位から正答は導き出せるが、文献によっては選択肢2の「心拍数の低下」も記載があるため、解として他の選択肢も該当する可能性がある、と考える。</p>                                       |

|                                                                                                                                                                        |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 午後 問題番号 ( 69 ) 指摘校数 : 9                                                                                                                                                |
| <p>筋と呼吸運動の組合せで正しいのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 横隔膜—吸気</li> <li>2. 腹直筋—吸気</li> <li>3. 大胸筋—呼気</li> <li>4. 内肋間筋—吸気</li> <li>5. 胸鎖乳突筋—呼気</li> </ol> |
| <p>解 説</p> <p>正答は1とされた。横隔膜が吸気に働くことは明らかに正しいが、文献によっては内肋間筋も吸気に働く記載があるため、解として他の選択肢も該当する可能性がある、と考える。</p>                                                                    |

|                                                                                                                                                         |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 午後 問題番号 ( 76 ) 指摘校数 : 12                                                                                                                                |
| <p>心拍出量が最も小さいのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 背臥位</li> <li>2. 腹臥位</li> <li>3. 右側臥位</li> <li>4. 左側臥位</li> <li>5. リクライニング位</li> </ol> |
| <p>解 説</p> <p>正答は5とされた。リクライニング位という表現が曖昧で角度の記載がない。他の4つの選択肢と比べて心臓の位置が高いと判断し選択することはできるが、用語や設問の表現等が不適切であり選択肢の理解に戸惑う要因となっている、と考える。</p>                       |

### (3) 検討班で導き出した正答と異なった問題 (再検討)

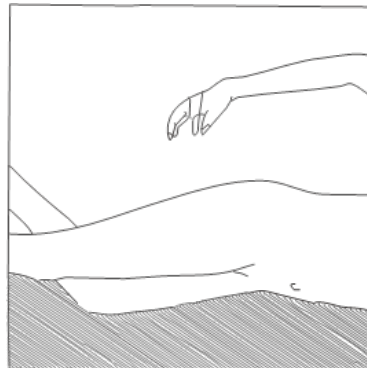
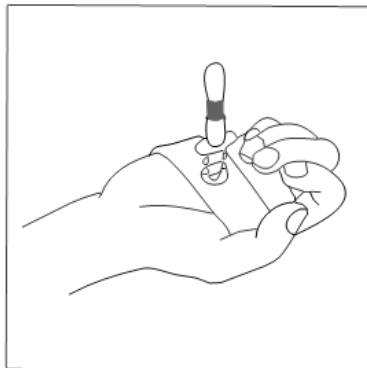
|                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 午後 問題番号 ( 45 ) 指摘校数 : 18                                                                                                                                                                                          |
| <p>うつ病に特徴的な考え方でないのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 何でも自分のせいにする。</li> <li>2. 白か黒かはっきりさせたがる。</li> <li>3. 物事の悪い側面に注目してしまう。</li> <li>4. 予測を悪い方に増長させてしまう。</li> <li>5. 他人の言動の意図を悪い方にとらえる。</li> </ol> |
| <p>解 説</p> <p>正答は5とされた。検討班では、選択肢2の「白か黒かはっきりさせたがる」はうつ病の特徴のひとつである「全か無か思考」とは異質であると判断したが、出題者はこれら2つを同様の思考として捉えている。選択肢5の「他人の言動の意図を悪い方にとらえる」を、統合失調症に特有の「外的原因帰属バイアスによる被害妄想」と捉えたと、選択肢5がうつ病の特徴ではない、と考える。</p>                |

### (4) 養成校から指摘の多かった問題で、検討班として意見書で取り上げなかった問題 (指摘校数が5校以上あった問題)

|                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 午前 問題番号 ( 9 ) 指摘校数 : 11                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| <p>57歳の男性。視床出血後に表在感覚と深部感覚との障害を認める。運動麻痺は認めない。<br/>この患者に行う知覚再教育で誤っているのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開眼で代償させる。</li> <li>2. 運動や動作は可能な限りゆっくり行う。</li> <li>3. 15分程度の知覚再教育を一月に数回行う。</li> <li>4. 識別素材を固定し、患側手を動かして識別させる。</li> <li>5. 書字の際に、筆記具と手との接触箇所を筆記具の特徴を感じさせる。</li> </ol> |
| <p>解 説</p> <p>正答は1であった。中枢性の感覚障害に対する知覚再教育に関する問題である。選択肢1の「開眼で代償させる。」は、知覚再教育の治療手段のひとつであるため、解を選択できないと指摘する意見が多かった。しかし、当該選択肢は、あくまで代償的手段を示しているものであり、選択肢1を解として選択することができる、と考える。</p>                                                                                                                   |

午前 問題番号 ( 11 ) 指摘校数 : 7

20歳の男性。頸髄完全損傷。動作獲得を制限する関節可動域制限、残存筋力の低下および合併症はない。洋式便座に側方移乗で移乗し、便座上座位で排便を行う。この患者が使用する坐薬挿入の自助具と、自助具を使用する際の姿勢を図に示す。Zancolliの四肢麻痺上肢機能分類による最上位の機能残存レベルはどれか。



1. C 6 A
2. C 6 B 1
3. C 6 B 2
4. C 6 B 3
5. C 7 A

解 説

正答は4であった。頸髄損傷者の排泄動作に関する問題である。設問の図から選択肢5の「C7A」も解として選択できると指摘する意見が見られたが、必ずしも指摘は当たらない。また設問は、(当該動作を実行できる)最上位の機能残存レベルを問うているため、選択肢5を解として選択することはできない、と考える。

午前 問題番号 ( 13 ) 指摘校数 : 15

62歳の男性。閉塞性動脈硬化症。著しい感染を伴った下肢壊疽に対して大腿切断術が施行され短断端となった。糖尿病性末梢神経障害を合併している。

この患者の術直後の断端管理で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 断端の色調を観察する。
2. 断端の自動運動を行う。
3. 切断部の温熱療法を行う。
4. ギプスソケットを装着する。
5. 切断側股関節を外転位に保持する。

解 説

正答は1・2とされた。大腿切断後における断端の術後管理に関する問題である。選択肢4の「ギプスソケットを装着する。」も解として選択できると指摘する意見が多かったが、当該事例は、糖尿病性末梢神経障害を合併していることから、断端の術後管理にギプスソケットの装着は適さず、選択肢4を解として選択することはできない、と考える。

午前 問題番号 ( 20 ) 指摘校数 : 12

次の文により 19、20 の問いに答えよ。

10 歳の男児。学業成績は中位だが授業中に落ちつきがなく、隣の子に一方的に話しかける、落書きをする、忘れ物をするなどでよく注意を受けていた。片付けも苦手で自室は乱雑であった。心配した母親と共に精神科を受診し、外来作業療法が開始された。

この男児に対する作業療法での対応で適切なものはどれか。

1. 小集団活動に導入する。
2. 強い口調で指示を伝える。
3. ほめずに見守りを重視する。
4. 作業手順を詳細に説明する。
5. 問題行動には触れずにおく。

解 説

正答は 1 とされた。ADHD 男児に対する作業療法の対応で、選択肢 2 の「作業手順を詳細に説明する」が適切であるとの指摘が多かったが、ADHD では抑制的に注意を持続することは困難である。「詳細に」という説明方法が不適切であり、選択肢 2 を解として選択することはできない、と考える。

午前 問題番号 ( 35 ) 指摘校数 : 6

ロービジョンケアの活動と補助具の組合せで適切でないのはどれか。

1. パソコン操作—音声変換ソフト
2. 針の糸通し—拡大鏡
3. 屋外旅行—白杖
4. 爪切り—単眼鏡
5. 読書—書見台

解 説

正答は 4 とされた。ロービジョンケアの補助具についての問題である。選択肢 5 の「読書—書見台」の組合せが選択できるとの意見が多かったが、選択肢 4 の「単眼鏡—爪切り」の単眼鏡は遠くのものを見る補助具であり、爪切りには適さないことは明らかであるため、選択肢 4 を解として選択できる、と考える。

午前 問題番号 ( 47 ) 指摘校数 : 29

摂食障害患者の作業療法でみられる特徴はどれか。

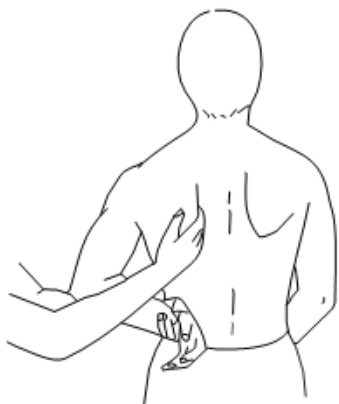
1. 周囲に対する過剰適応
2. 課題の頻回な変更
3. 中途での投出し
4. 集中力の低下
5. 意欲の低さ

解 説

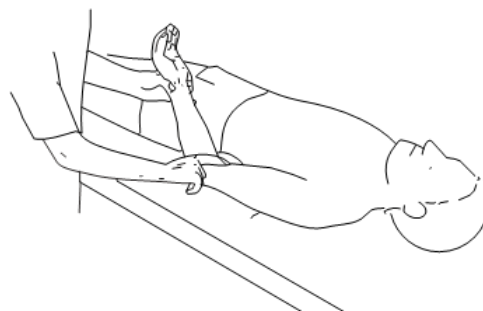
正答は 1 であった。選択肢 4 の「集中力の低下」選択肢 5 の「意欲の低さ」についても解として選択できると指摘する意見もあったが、選択肢 4 と選択肢 5 は栄養状態の低下により引き起こされる二次的な特徴であるため、優先的に選択肢 1 を解として選択できる、と考える。

午後 問題番号 ( 2 ) 指摘校数：6

Daniels らの徒手筋力テスト (段階 1 と 0) で、検査者が触診する位置で正しいのはどれか。2 つ選べ。ただし、すべて検査者の右手で触診をしている。



1. 僧帽筋下部



2. 腕橈骨筋



3. 尺側手根屈筋



4. 長母指伸筋



5. 前脛骨筋

#### 解 説

正答は 3・5 であった。指摘内容は、「触診位置の図が曖昧であり判断に戸惑う」であったが、一般的に選択肢 3 と選択肢 5 が選択できる、と判断した。

午後 問題番号 ( 15 ) 指摘校数: 12

48歳の男性。アルコール依存症。30歳ころから仕事上のストレスにより飲酒量が増えてきた。40歳ころから遅刻や欠勤を繰り返すようになり2年前に会社をやめた。2か月前から連続飲酒状態となったため妻に付き添われて精神科を受診し、入院した。入院後2週経過し、離脱症状が落ち着いたため作業療法が開始された。

この時期の作業療法で適切でないのはどれか。

1. 家族同伴で心理教育を行う。
2. 集団内で仲間意識を育てる。
3. 自助グループへの参加を促す。
4. プログラムでの頑張りを促す。
5. 退院後の生活について助言する。

解 説

正答は4であった。アルコール依存症の作業療法で適切でないのは、選択肢1の「家族同伴で心理教育を行う。」、選択肢3の「自助グループへの参加を促す。」、選択肢5の「退院後の生活について助言する。」であるとの指摘もあったが、イネイプラーとなりやすい家族への教育、依存症を克服するための支援者の配置（コンステレーション）をもたす自助グループへの参加、退院後の依存症克服のための認知再構成や生活スキル獲得の助言などは、治療内容として適切である。適切でないのは選択肢4の「プログラムでの頑張りを促す。」である。アルコール依存症に特有の心理機制として「つっぱり、割り切り、がんばり、ほれ込みなど」が知られており、これを促すことはリスクを高めるため、選択肢4を解として選択することができる、と考える。

### 3. 出題傾向について

#### ・身体障害領域の出題分野について

昨年同様、出題範囲は広いが、難易度は変わっていない。新しい傾向として、ロービジョンケア（午前35）、統計の検定方法（午前38）、ボツリヌス菌毒素製剤の作用機序（午前78）、胸部エックス線写真の所見（午後6）、MRI撮像法（午後28）、がん患者の遺族のアプローチ法（午後37）が出題された。これらの問題は、現在行われている作業療法教育の中でどこまで教育されているか疑問が残る。

全体として、英語の略語表記が多くなり略語が明確でない出題がある。午前と午後で略語の表記が違う問題もみられた。略語や英語表記でなく、正確な日本語表記にすべきと考える。この件は例年指摘しているが改善されていない。

また、例年通り評価法関連の問題が多く出題され（専門問題の全体の1/4）、評価法の中身を問う問題が多かった。Activity（手工芸）と治療の関係を問う問題、Activityそのものを問う問題はなかった。

その他、ASIA機能障害尺度（午前4）、大腿切断直後の断端管理（午前13）、人工骨頭置換術患者のADL指導（午前32）、バランス能力評価（午後22）、循環器疾患のリハビリテーションプログラム（午後34）、糖尿病患者における運動負荷の禁忌事項（午後35）など、過去の理学療法士国家試験問題に類似した問題が散見された。

#### ・精神科領域の出題分野について

統合失調症とうつ病の問題が昨年度からさらに減少し、認知症や、ASDとADHDの問題数が同程度となった。そのほかの神経症性障害や物質関連障害、パーソナリティ障害などは下位分類から少しずつ多彩に出題された。精神医療が疾患や症候群ごとに分化してきている流れを反映しており、この傾向は今後も続くと考えられる。

統合失調症とうつ病の問題の約半数が、就労支援や復職支援を扱っており、また法制度の問題として就労移行支援が取り上げられ、全体として職業関連活動作業療法学の領域の問題が増加した。昨年度から職業関連の検査の出題数増加という形で見られる。

#### ・小児発達領域の出題分野について

作業療法の臨床で多く関わるようになった自閉症スペクトラムの治療分野を、精神科領域の分類としたので、出題領域は、脳性麻痺・筋ジストロフィー・ダウン症に関する出題分野が中心と考える。原始反射と姿勢反射に関する問題が3問出題されているが、問題の出題傾向に偏りがあり、1問は難易度が高いということで、採点から除外されている。昨年度も略語の表記ミスがあり、採点から除外された。

表 1 検討班による出題範囲分類

(第 47 回以降は、専門問題として出題されているが共通問題に分類される問題があるため、問題数の合計がそれぞれ 100 問にならない)

| 専門問題 |               | 第 50 回 |    | 第 49 回 |    | 第 48 回 |    | 第 47 回 |    | 第 46 回 |    | 第 45 回 |    |
|------|---------------|--------|----|--------|----|--------|----|--------|----|--------|----|--------|----|
|      |               | 問題数    | X2 | 問題数    | X2 | 問題数    | X2 | 問題数    | X2 | 問題数    | X2 | 問題数    | X2 |
| 専 1  | 障害別治療学 (身体)   | 14     | 0  | 14     | 0  | 22     | 8  | 18     | 2  | 39     | 14 | 34     | 14 |
| 専 2  | 障害別治療学 (精神)   | 26     | 1  | 21     | 0  | 16     | 0  | 22     | 2  | 38     | 10 | 34     | 3  |
| 専 3  | OT 評価学        | 21     | 6  | 25     | 5  | 25     | 6  | 30     | 7  | 7      | 2  | 11     | 5  |
| 専 4  | 障害別治療学 (発達)   | 6      | 0  | 5      | 0  | 2      | 2  | 2      | 1  | 4      | 0  | 6      | 0  |
| 専 5  | ADL・生活環境・リハ機器 | 7      | 1  | 6      | 1  | 5      | 1  | 8      | 3  | 4      | 1  | 0      | 0  |
| 専 6  | OT 概論         | 5      | 1  | 2      | 0  | 4      | 0  | 4      | 1  | 2      | 0  | 4      | 1  |
| 専 7  | 基礎作業学         | 0      | 0  | 0      | 0  | 2      | 0  | 0      | 0  | 1      | 1  | 1      | 0  |
| 専 8  | 切断と義肢学        | 4      | 2  | 2      | 0  | 4      | 0  | 3      | 1  | 2      | 1  | 3      | 1  |
| 専 9  | 人間発達          | 1      | 0  | 0      | 0  | 1      | 0  | 1      | 0  | 0      | 0  | 2      | 0  |
| 専 10 | 障害別治療学 (高齢者)  | 5      | 0  | 2      | 0  | 2      | 0  | 1      | 0  | 0      | 0  | 0      | 0  |
| 専 11 | 装具学           | 1      | 1  | 2      | 2  | 2      | 0  | 1      | 0  | 2      | 1  | 1      | 1  |
| 専 12 | 臨床運動学         | 3      | 0  | 0      | 0  | 0      | 0  | 0      | 0  | 1      | 0  | 4      | 0  |
| 合 計  |               | 93     | 12 | 79     | 8  | 85     | 17 | 90     | 17 | 100    | 30 | 100    | 25 |

| 共通問題 |                | 第 50 回 |    | 第 49 回 |    | 第 48 回 |    | 第 47 回 |    | 第 46 回 |    | 第 45 回 |    |
|------|----------------|--------|----|--------|----|--------|----|--------|----|--------|----|--------|----|
|      |                | 問題数    | X2 | 問題数    | X2 | 問題数    | X2 | 問題数    | X2 | 問題数    | X2 | 問題数    | X2 |
| 共 1  | 解剖生理学 (植物機能)   | 19     | 2  | 10     | 2  | 12     | 2  | 17     | 3  | 17     | 2  | 20     | 5  |
| 共 2  | 運動機能           | 16     | 3  | 13     | 1  | 12     | 4  | 12     | 3  | 17     | 8  | 15     | 7  |
| 共 3  | 解剖生理学 (動物機能)   | 13     | 1  | 27     | 8  | 23     | 3  | 10     | 4  | 11     | 2  | 13     | 2  |
| 共 4  | 整形外科学          | 6      | 0  | 12     | 1  | 9      | 0  | 9      | 4  | 11     | 5  | 12     | 4  |
| 共 5  | 精神医学           | 12     | 0  | 23     | 1  | 18     | 3  | 17     | 1  | 11     | 0  | 10     | 2  |
| 共 6  | 臨床神経学          | 13     | 1  | 10     | 0  | 10     | 2  | 6      | 2  | 9      | 3  | 7      | 2  |
| 共 7  | 臨床心理学          | 7      | 0  | 3      | 1  | 5      | 1  | 5      | 1  | 4      | 2  | 8      | 0  |
| 共 8  | 内科学            | 6      | 0  | 7      | 0  | 12     | 1  | 9      | 1  | 9      | 1  | 6      | 1  |
| 共 9  | 病理学            | 4      | 0  | 6      | 0  | 6      | 0  | 8      | 0  | 6      | 0  | 4      | 2  |
| 共 10 | リハ医学・概論・医学概論など | 8      | 0  | 6      | 1  | 5      | 2  | 9      | 0  | 4      | 2  | 4      | 1  |
| 共 11 | 小児科・人間発達       | 3      | 0  | 4      | 0  | 3      | 1  | 4      | 0  | 1      | 0  | 1      | 0  |
| 合 計  |                | 107    | 7  | 121    | 15 | 115    | 19 | 106    | 19 | 100    | 25 | 100    | 26 |

#### ・専門基礎 (共通) 問題の傾向

前述のように、X 2 問題が昨年の 15 問から 7 問と半減した。また、内科領域の問題が増加した。解剖生理学の動物系 (骨格筋や神経系) が減少し植物系が増加した。

#### 4. 出題範囲等について

「国家試験出題基準」に準じて出題されていたかについて、例年は問題分類等をしてきた。しかし出題基準の分類が具体的でなく、意味のあるデータが得られないため、今回は実施しなかった。平成 28 年から、出題基準が変わるが、何をもって「出題基準に沿っていない」とするのか明確でないため、各問題を出題基準に当てはめる作業を行うべきか検討する必要がある。

表 1 は検討班で作成した分野別の分類と X2 の問題数を 6 年分まとめたものである。

国家試験問題指針検討班 班員

小野 弘、鈴木達也、中原留美子、中村径雄、向 文緒、村岡健史、山崎大輔、山田英徳、山田将之、山中武彦、遠藤浩之

## 会員名簿の配布案内

# 平成 27 年度会員名簿

## 無料配布希望者は 8 月末までに申し込みを！

平成 27 年度会員名簿は、前回（平成 25 年度）と同様の形式で作成し、申し込みがあった会員個人にのみ配布する。2015 年 8 月 31 日までに申し込みがあった会員には、10 月下旬をめどに無料で名簿をお届けする。

9 月 1 日以降の申し込みについてはすべて有料（3,000 円）になるので、注意されたい。申し込み方法は下記の申し込み要領を参照。

なお、会員名簿は個人情報を含んでいるため、取り扱いには細心の注意と厳格な管理が必要である。申し込んだ会員本人には徹頭徹尾自分の所有物としての管理責任があり、施設の共有物にしたり、本人以外の者

に譲渡したりすることは厳禁。保管場所を明確に定め、紛失や所在不明にならないように注意を怠らないでほしい。また、いずれ名簿が不要になったら、焼却、断裁、溶解処分など、個人情報が残らないような徹底した消去を行ってほしい。ゴミや古紙として廃棄しただけでも個人情報流出の原因になり、名簿業者に売るに至っては犯罪に等しい。名簿の無料配布を希望する会員は、一人の杜撰な管理が万人に迷惑をかけかねないことを肝に銘じ、個人情報の慎重な取り扱いに努めていただきたい。

### 申込方法

FAX 送信、またはハガキ郵送

### 必要事項（必須）

- ①「平成 27 年度会員名簿希望」と記載
- ②氏名、会員番号を明記
- ③入手希望の理由を具体的に明記

### 注意事項

- ①連名での申し込みは不可（申込者 1 名につき、1 枚の申し込み用紙）
- ② 1 名につき 1 冊のみ配布
- ③配布時期は 10 月予定のため、異動した場合は、必ず変更届を提出すること
- ④協会事務局への登録内容の変更申請と会員名簿申し込みは必ず別々の用紙に記入すること
- ⑤協会配布資料注文書での申し込みは不可  
（④で変更申請と申し込みを同時に行なった場合、また⑤で注文書を用いて会員名簿の申し込みをされた場合は受付できませんのでご了承ください。）
- ⑥ FAX での申し込み時には、送信面に注意して送信すること  
送信面を間違えると協会に白紙で届き、名簿を送付することができません。  
また、受信したとの連絡（返信）は、事務局からは一切いたしません。  
届いたかどうかの確認を必要とされる場合は、送信後、当日中に事務所へ電話でご確認ください。

申 込 先 FAX 送信先 03-5826-7872  
ハガキ郵送先 〒 111-0042 台東区寿 1-5-9 盛光伸光ビル 7 階  
一般社団法人 日本作業療法士協会 事務局

申込締切 8 月 31 日（月）必着

配布予定 10 月下旬

※ 10 月発送時点で会員管理システムに登録されている発送区分・住所に発送します。

登録されている発送区分・住所と異なる住所への発送はできかねます。勤務先変更・転居等に伴う変更は変更届をご提出ください。

配布方法 宅配便使用

※ 11 月中旬までに届かない場合は、速やかに協会事務局まで確認のこと。

※ 12 月末までに事務局への不着の連絡がない場合は、発送の追跡調査ができないために、配布ができない場合がありますので、ご注意ください。

## 日本発達障害ネットワーク (JDDnet) に 参画する当協会のあゆみ

制度対策部 障害保健福祉対策委員会

地域においては、様々な障害特性と当事者・家族の個別性を理解して一貫した支援の継続性と関係機関や関連職種との連携が重要となる。第二次作業療法5ヵ年戦略を推進し社会のニーズに応えるためにも、地域に関わる作業療法士の人材育成が今後ますます求められる。地域の作業療法において、近年、学校教育領域からの要請が各地で急増している。その対象は、多くが発達障害を中心とした子どもたちである。制度対策部では、この10年間、発達障害に関わる多領域の団体で構成されたJDDnetへの参画を通して関係各省や他職種と連携関係を強化してきた。その概要と経過について紹介する。

### 1. JDDnetの概要と当協会の参画について

#### 1) JDDnetの概要

日本発達障害ネットワーク (JDDnet) は、平成17年4月に発足し10年が経過する。発達障害に関わる当事者・保護者の団体を中心に、職能団体・学術団体やサポート会員と全国のエリア会員から構成される (図1、表1)。発達障害者支援法の成立に取り組み、子どもを取り巻く施策に対して保健・医療・教育・福祉・労働の領域に関わる要望や提言を行っている。発達障害を中心に子どもに関わる様々な関係・関連団体が連携し、定期的に活動を展開している唯一の団体といえる。

JDDnetに関連する情報は、本誌第30号 (2014年9月) に記事を掲載している。また、2015年4月にJDDnetホームページ (<http://jddnet.jp/>) をリニューアルし、より多くの方々に活動を理解し支援いただけるよう積極的に広報活動を展開している。さらに興味・関心を持っていただくためにも組織概要や活動内容について、ぜひ一度JDDnetホームページを閲覧していただきたい。

#### 2) 当協会の参画状況

日本作業療法士協会がJDDnetに関わるようになった経緯は、JDDnetの発起団体より平成17年に正会員団

体として参画してほしいとの要請を受けたことに始まる。協会を代表して三澤一登氏がJDDnetの理事を10年間継続して担い、制度対策部 (旧保健福祉部時代) から常時2名の委員を理事および代議員として立て、各種の活動に協力をしてきた。JDDnetの年次大会に関連する記事は、協会ニュースに毎年掲載してきた。

JDDnetに関わる活動は発達障害を中心に文部科学省や他職種との関係強化にもつながり、教育領域への作業療法士の参画に寄与した。また、これからの課題でもある、医療・教育・福祉の連携について医療専門職としての作業療法士の存在感を示す場になっている。10年間の地道な活動により、文部科学省をはじめとする関係各所や、JDDnetに加盟する他団体から、一定の評価と信頼を勝ち得てきたと自負している。今後はさらに厚生労働省社会・援護局との連携の中で、今後の支援体制や福祉サービスのあり方などに関連する児童福祉法・障害者総合支援法・障害者差別解消法・障害者雇用促進法などへの関与も重要な課題である。

また、各関連省庁への要望事項に関してもJDDnetを構成する職能団体として、実現可能な要望を提示することを継続する必要がある。

#### 3) 理事として活動しての所感 (三澤一登理事)

『10年の理事活動は、多職種と関係・関連団体とのネットワークの構築でもあった。JDDnet内や外部の人と関わることは作業療法の可能性の広がりや作業療法士に対する期待を実感する時間でもあり、今後の理事活動に活かすべく新たな取り組みが必要であることを感じた。さらには、同じ思いの人との出会いと仲間作りの時間でもあった。「一人でみる夢はただの夢だがみんなでみる夢はやがて現実となる」JDD年次大会で述べられたオノ・ヨーコさんの言葉が印象的である。』 (三澤一登)

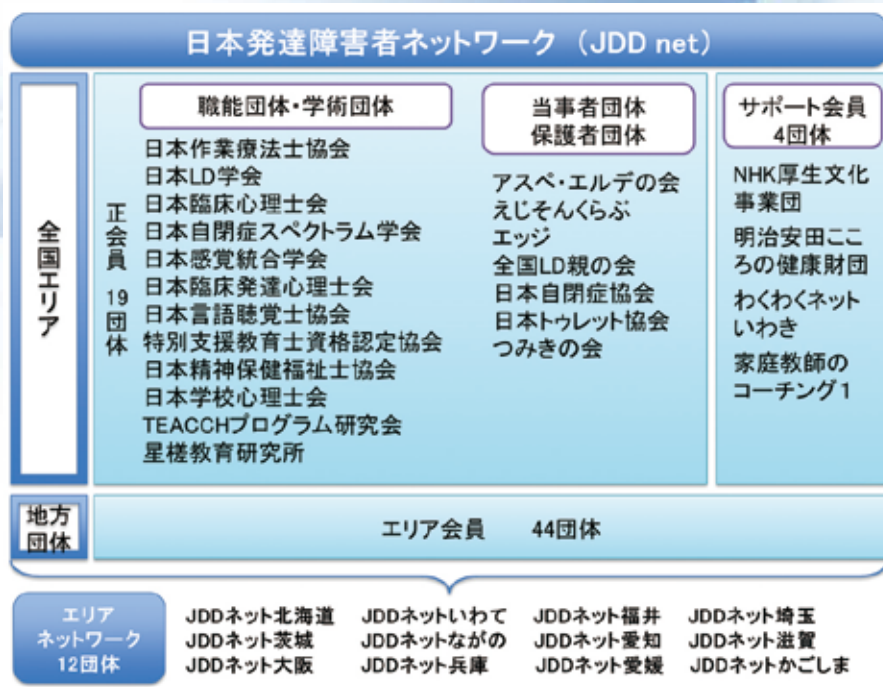


図 1 JDDnet 加盟団体とその構成

表 1 平成 26 年度 JDDnet 活動一覧 (JDDnet2014 年活動報告より抜粋)

| 活動内容            | 回数 | 具体的活動例                                          |
|-----------------|----|-------------------------------------------------|
| 行政への対応          | 24 | 予算要望<br>厚労省、文科省、国土交通省等委員会参加                     |
| 議員連盟との連携        | 19 | 発達障害の支援を考える議員連盟他<br>世界自閉症啓発デー実行委員会等             |
| 関係団体ヒアリング協力等    | 13 | 新国立競技場のユニバーサルデザインに関するヒアリング、東京パラリンピック競技大会組織委員会他  |
| 加盟団体行事等         | 4  | WFOT 式典出席他                                      |
| JDDnet 理事会・委員会等 | 44 | 理事会 7 回、各種委員会                                   |
| JDDnet 年次大会研修会等 | 4  | 年次大会 1 回、体験ワークショップ 1 回<br>人材育成研修 2 回            |
| JDDnet 被災地支援    | 26 | 福島県相馬市ゆうゆうクラブへの職能団体専門家派遣 (26 回中 OT 協会による支援 7 回) |
| JDDnet 会報発行     | 2  |                                                 |

## 2. OT 協会としての JDDnet での活動

### 1) JDDnet 災害支援プロジェクト福島

東日本大震災の支援対策を受けて、福島県では「被災した障がい児に対する相談・援助事業」を実施することになり、相双地区の支援を JDDnet が受託することになった。この支援は 2011 年 9 月から開始し、現在まで 4 年間続いている。相双地区は、地震、津波による被

害だけではなく原子力災害による被害が続いている地域である。本事業では、JDDnet の加盟団体である日本作業療法士協会、日本言語聴覚士協会、日本臨床発達心理士会、日本臨床心理士会、特別支援教育士資格認定協会の 5 団体から専門職派遣を行い、支援にあたっている。2015 年 5 月末時点で合計 22 回、計 27 人の作業療法士が支援にあたった。

作業療法士の主な支援先は、放課後支援ゆうゆうクラブ、県立相馬養護学校、児童発達支援事業所、乳幼児健診及びフォロー教室、小学校、中学校などの子どもの生活の場であった。支援内容は遊びや日常生活に関しての対応を支援者に伝える支援者支援が主なものである。必要に応じて遊具作成を行い、保育士や学校教諭等の支援者に対してはスキルアップのために遊びや子どもとの関わり方の研修会等も行った。



相馬市ゆうゆうクラブ外観



相馬市ゆうゆうクラブ

支援を継続するにあたり月1回、派遣専門職と地元支援者による地域ミーティングを行い、地域の子どもたちや子どもたちの生活の場の現状の確認をする、地域の重要な情報交換の場となっている。福島県作業療法士会員が日本作業療法士協会から派遣される支援者に地元のニーズを伝えるため、ミーティングに参加をし、調整役を行っている。

JDDnet から4年間の支援の経過と実際、今後の課題について、2015年6月に報告書が刊行されている。この報告書はJDDnetホームページより、1冊500円で購入可能（予定）である。



OT ボランティアによる保育士研修会

## 2) 多職種連携委員会

2014年より、JDDnet に加盟する職能7団体（※）から委員を選出し、JDDnet 多職種連携委員会が組織された。日本全国どこでも、多職種による支援（発達障害児者の困難さの内容に応じた専門職による支援、必要ときに必要な専門職のアドバイス等）が得られるようにな



第9回年次大会プログラム「多職種連携による支援」

ることを目指して、年次大会の中で、各職種の紹介を含めた多職種連携をテーマとしたプログラムを実施している。多職種で関わることの成果を様々な場で報告し、多くの方に専門職を知ってもらうこと、また、専門職同士の理解を深めることを狙いとしている。それが「つながり」「ひろがる」よう努め、地域での多職種のネットワーク作りや、発達障害支援のさらなる充実を目指している。

2015年の年次大会では、学齢期の発達障害児の支援について、教育と福祉の両面から、考えるプログラムを検討しており、月1回のペースで企画会議を開き、企画案を練っているところである。是非ご期待いただきたい。

※ 一般社団法人日本臨床心理士会、一般社団法人日本作業療法士協会、一般社団法人臨床発達心理士認定運営機構日本臨床発達心理士会、一般社団法人日本言語聴覚士協会、一般財団法人特別支援教育士資格認定協会、公益社団法人日本精神保健福祉士協会、一般社団法人学校心理士認定運営機構日本学校心理士会

## 3) 年次大会

年1回各地で開かれるJDDnet年次大会では、開催地域の県士会の協力を得て、JDDnet加盟団体として運営協力をしている。また、年次大会の展示ブースでは、協会ポスターやマニュアル、パンフレット等を展示し、広報活動も行っており、地域の団



展示ブースでの広報活動

体同士や当事者や保護者との交流の場にもなっている。年次大会の開催場所としてどの地域が選ばれるかは未定ではあるが、今後、年次大会が開催される地域の都道府県士会の方々には、是非ご協力をお願いしたい。

### 3. JDDnet 発達障害者支援法施行 10 年記念 発達障害啓発イベント

2015 年 4 月 1 日に衆議院第一議員会館で「発達障害者支援法施行 10 年記念 発達障害啓発イベント」が開催された。シンポジウム「発達障害者支援法と JDDnet」では、歴代の JDDnet 理事から発言があり、発足から現在までの JDDnet を振り返る機会となった。JDDnet 理事として、三澤一登理事が登壇し、協会としての JDDnet での 10 年の取り組みと今後の展望について熱く語った。また、毎日新聞論説委員野澤氏による講演「発達障害とメディア」においては、マスメディアの立場から発達障害と犯罪・司法・矯正教育など、日本における社会問題を提言、これからの 10 年は発達障害に対するイメージを変えていく必要があること、発達障害者の生きがいや人生の喜び方について話題提案があり、作業療法士の共感を呼ぶ内容であった。



シンポジウムで発言する三澤理事

### 4. 研修会等情報提供

#### 1) 認証事業シンポジウム

現在、多くの団体が発達障害支援の事業に参画している。JDDnet では発達障害に関連するサービス提供事業全体の底上げを図るべく、認証事業を実施すること

となった。それに先立ち、専門家・研究者、実務に精通した団体運営者の講演を行うシンポジウムが以下の通りに開催される。申し込みは JDDnet ホームページを参照されたい。

【日 時】2015 年 7 月 26 日（日）13：00 - 16：30（開場 12：30）

【会 場】東京ウィメンズプラザ  
東京都渋谷区神宮前 5-53-67

【定 員】200 名

【参加費】2,000 円

#### 2) 発達障害支援人材育成研修会

JDDnet では、各地で、支援者、当事者、家族を対象に、おおむね年 2 回発達障害支援人材育成研修会を開催している。発達障害の基本的知識から理学療法士、作業療法士、心理士による発達障害支援についてなど、幅広い内容になっている。今年度は、8 月 30 日（日）に東京で、2 月 7 日（日）に愛媛での開催を予定している。情報は随時 JDDnet ホームページに掲載されるので、参照いただきたい。

#### 3) 第 11 回年次大会開催案内

JDDnet では、毎年各地で年次大会を開催している。今年度は、第 11 回年次大会として、以下の通りに開催される。作業療法士の皆様にも奮ってご参加いただきたい。なお、大会プログラムや申し込み方法などの詳細は決定次第改めてご報告する。

【会 場】東京ウィメンズプラザ  
東京都渋谷区神宮前 5-53-67

【日 時】2015 年 11 月 29 日（日）

#### 4) JDDnet エリアネットワーク

エリアネットワークは、正会員団体（全国団体）の県支部等とエリア会員団体を中心とした地域のネットワーク組織で、地域に根付いた活動を展開している。現在、北海道、岩手、福井、埼玉、茨城、長野、愛知、滋賀、大阪、兵庫、愛媛、鹿児島 の 12 地域で JDDnet エリアネットワークがあり、その多くで各県士会が会員団体として参画している。地域における発達障害支援の活性化のため、会員の皆様も関心を持って参画いただきたい。

# 会員 事始め

## 新たに会員になった方に向けて **その4**

このコラムは、シリーズで協会のことをわかりやすく紹介することを目的に連載を始め、今回が4回目です。今回は協会活動の具体的な内容として、学術部、教育部、制度対策部の諸事業を取り上げましたので、今回は引き続き広報部、国際部、47都道府県委員会、災害対策室の諸事業について解説してまいります。

### 日本作業療法士協会はどのような団体か（3）

#### 4. 事業活動（前号からのつづき）

表1をご覧ください。前回も掲げた表ですが、公益目的事業部門のうち今回取り上げる4つの部署に絞って、その主な業務分掌と活動例を記載したものです。

#### 4) 作業療法の普及と振興に関する事業

作業療法の普及と振興に関する事業を担っているのは「広報部」です。広報部には「広報委員会」、「公開講座企画委員会」、「機関誌編集委員会」の3つの部内委員会があり、10人余りの部員が活動しています。

「作業療法の普及と振興」ということでまず思い浮かぶのは、作業療法の有用性や作業療法士の活用などを、作業療法士以外の人に向けて広く宣伝し、訴え、呼びかけることではないでしょうか。このような広報を“外向け”の広報とすれば、これと同じくらいに（考えようによってはそれ以上に）重要なのが“内向け”の広報、つまり協会が会員に対して行う広報活動があります。協会が今何を考え、何をしようとしているか、そして会員の皆さんに何をしてほしいと思っているか、目下どのような取り組みが求められているかを、我が事として知っていただくことが不可欠なのです。作業療法士全体が状況認識や課題を共有し、一致団結して事に向かうことができれば、必ずや作業療法士の有用性に対する認識は広まり、作業療法士が登用される機会も増え、自ずと作業療法士の社会的地位も向上するに違いありません。

広報部の具体的な活動のうち最近特に力を入れたのがホームページの企画・運用です。これ以外の外向けの広報活動としては、毎年新作を発表しているポスター、各種パンフレット、必要に応じて企画・制作している各種の広報グッズなどもあります。広報用映像作品としては、最近では認知症の人と家族の支援のために企画・制作されたDVD（『二本の傘』）やその解説パンフレットなどもあります。さらに一般市民や他職種に向けて広く作業療法の有用性を知っていただくた

めに、「作業療法フォーラム」と題して講演会やシンポジウムの企画などを行ったり、各種の大規模な展示会に協会のブースを出展して宣伝広報活動を行ったりしています。他方、内向け、つまり会員向けの広報活動としてまず筆頭に挙げられるのが、今お読みいただいているこの機関誌『日本作業療法士協会誌』の企画・編集です。機関誌は「職能団体としての主義主張、声明、協会方針に沿った特集企画、協会各部署の活動記録とその解説、関連資料等を掲載し、協会の公式記録を保存」とするとともに、学会や研修会、刊行物など「総合的な形で機関情報を提供していく」任を負っています（本誌第1号、2012年4月発行、p.5）。この機関誌を毎号熟読していただければ、今協会で何が中心的な話題になっており、何に力を入れているのかが自ずとお分かりいただけるでしょう。

#### 5) 内外関係団体との提携交流に関する事業

協会が他の団体や法人と1対1で交渉したり、協力して一つの事業を行ったり、一つの交渉事に臨んだり、あるいは共に協議会のような場に参画して共通する課題に取り組んだりすることは、様々な部署がその分掌業務に応じて様々な形で担っています。しかしここでは殊更に提携と交流を主眼として事業を行っている「国際部」と「47都道府県委員会」を取り上げることにします。国際部は言うまでもなく海外の関係団体との提携交流を事業の主軸に据えており、47都道府県委員会は国内の都道府県作業療法士会と緊密に連携・協働することを目的に設置された部署です。

##### (1) 国際部

国際部には「国際委員会」と「WFOT委員会」という2つの部内委員会があり、15人余りの部員が活動しています。

日本作業療法士協会は1970年に準会員、1972年には正会員として、世界作業療法士連盟（World Federation of Occupational Therapists: WFOT）の加盟団体となりました。加盟当時は300人足らずだった会員が今では5万人と世界有数の会員数を擁するまで

表 1 広報部・国際部・47 都道府県委員会・災害対策室の主な業務分掌と活動例

| 部署名        | 主な業務分掌                                         | 主な活動の例                                                                           |
|------------|------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 広 報 部      | (1) 国民に対する作業療法の広報に関すること                        | 機関誌・広報誌の企画・編集、ホームページの企画・運用、ポスター・パンフレット・広報グッズ等の企画・制作、広報用映像作品の企画・制作                |
|            | (2) 国民に対する作業療法啓発講座等の企画・運営に関すること                | 作業療法フォーラムの企画・運営、国際福祉機器展等、他職種向けの研修会、出展活動                                          |
| 国 際 部      | (1) 国際的な学術交流、研修、教育支援等に関すること                    | 日本作業療法学会における国際シンポジウムの企画・開催協力、国際交流セミナーの企画・開催協力、JICA ボランティアの活動支援                   |
|            | (2) 世界作業療法士連盟に関すること                            | 世界作業療法士連盟本部との連絡調整、各種文書の翻訳・公表、連盟個人会員の入会促進、WFOT 認定等教育水準審査の状況報告                     |
|            | (3) 国外の関係団体・関係者との連絡調整に関すること                    | 各国作業療法士協会との交流・連携、東アジア諸国交流会の企画                                                    |
| 47 都道府県委員会 | (1) 本会と都道府県作業療法士会が協働して解決すべき諸課題に対する認識の共有に関すること  | 都道府県作業療法士会に対する各種アンケート調査、47 都道府県委員会会議の開催                                          |
|            | (2) 諸課題に対応するための本会と都道府県作業療法士会の協力・支援等の方策立案に関すること | 生活行為向上マネジメントの普及促進・認知症初期集中支援チームへの参画促進に関する検討及び方策立案、作業療法推進活動パイロット事業助成事業制度の運用        |
| 災害対策室      | (1) 大規模災害発生時及び復興時の支援活動に関すること                   | 被災士会・事務局連絡調整室と連携した被災状況の情報収集、災害支援活動の企画立案・工程管理・報告                                  |
|            | (2) 大規模災害を想定した平時の支援体制の整備に関すること                 | 「大規模災害時支援活動基本指針」「災害支援ボランティア活動マニュアル」「災害支援ボランティア受け入れマニュアル」等の策定・改訂、災害支援ボランティアの登録・研修 |

に発展し、昨年は過去最大規模の WFOT 大会を開催するまでに至ったことは皆さんの記憶にも新しいことと思います。WFOT に会員として加盟できるのは、世界の国または地域ごとに、そこを代表する 1 つの作業療法士の団体（協会）であり、養成教育の最低基準などいくつかの審査基準を満たすと加盟が承認されます。加盟団体は自ら 1 名の WFOT 代表（および 2 名の代理）を選出し、この WFOT 代表は、隔年で開催され、WFOT の最重要事項を決定する WFOT 代表者会議に出席して議決権を行使することができます。国際部の WFOT 委員会は、この WFOT 代表や代理を中心に、WFOT 本部や他の WFOT 加盟団体との連絡調整を行うほか、WFOT の重要文書の翻訳・公表、国内の作業療法士養成校の WFOT 認定状況（教育部が行う WFOT 認定等教育水準審査の結果）の WFOT 本部への報告などを行います。

上記のような WFOT とその加盟団体という関係性の枠組みがある一方で、具体的な国際交流は、一定の地域にある複数の国々の間、二国間、養成校や病院・施設どうし、個人的な人間関係などの様々なレベルで、専門家派遣や研修などの事業や、学術・教育上の情報

交換、人的な親善交流など様々な内容で行われています。協会も国際委員会を中心に、国際交流の場を設け、国際交流を後押しするような活動を展開しています。具体的には、日本作業療法学会で国際シンポジウムを企画・運営したり、東アジア諸国の作業療法士協会に声を掛けて交流会を開催したり、会員向けに国際交流セミナーを企画したり、青年海外協力隊など JICA ボランティアとしての活動を支援したりしています。

## (2) 47 都道府県委員会

47 都道府県委員会には少し特殊な成立事情があります。協会はその草創期、ようやく全ての都道府県に何人かずつ会員を配置できるようになると、「各地方における作業療法の普及発展を図るため、正会員は、都道府県ごとに作業療法士会を構成する。」という規定を設け（旧・定款施行規則）、これが現在の都道府県作業療法士会の礎になりました。士会の構成員は協会の正会員であり、協会の正会員はその各々の地方において士会員として活動するという、そもそもの理念がここに示されていると言えます。

その後、有資格者数の増加に伴い、協会も士会もそれぞれに大きく発展し、法人化を進め、協会は全国組



織としての、士会は都道府県ごとの諸課題に取り組んできました。協会と士会にはそれぞれに固有の課題があります。例えば作業療法士国家試験に関する意見や要望書の作成は全国組織たる協会に固有の取り組みですし、ある県の県行政との関係構築はその県の作業療法士会固有の課題と言えるでしょう。

しかし協会と士会が協働して取り組むべき課題も多々あります。例えば診療報酬や介護報酬などは全国津々浦々日本の作業療法士すべてに関わってくる問題です。協会は国や他団体との交渉を通して作業療法士の配置や有効活用を訴え、その制度化に努めますが、これは言わば作業療法士の活躍の場を用意するお膳立てにすぎません。制度となった配置や活躍の機会を実際に使うかどうかは現場の個々の作業療法士にかかっています。そして、せっかく制度となってもそれが使われなければ、その制度に意味がなくなってしまうどころか、制度化に賛同してくれた国や他団体の不信感を招きかねません。この現場の作業療法士にとって、より身近に存在し、個々の作業療法士の顔が見える関係にあるのは各都道府県の作業療法士会です。

そこで協会は、目下作業療法士が直面し、協会と士会が有機的に協働して解決すべき諸課題について認識を共有し、諸課題に対応するために協会と士会がどのように協力したらよいかを考え立案するための場として「47 都道府県委員会」を設置しました。これまでも都道府県作業療法士会連絡協議会という、協会・士会間、また士会どうしの連絡調整の場がありましたが、より迅速な伝達、より確実な連携、より着実な課題解決を図るために、協会内部の組織とすることによって協会の予算を使い、いっそう強力に推し進めていくことにした次第です。47 都道府県委員会は協会理事 4 名と都道府県士会長 47 名、合計 51 名の委員で構成され、年間少なくとも 4 回の会議を開催。今年で言えば、生活行為向上マネジメントの普及、認知症初期集中支援チームへの参画、地域支援事業への取り組み等が中心的な課題となって検討が進められています。

## 6) 大規模災害等により被害を受けた人への支援を目的とする事業

2011 年の東日本大震災は、協会が初めて被災者の支援活動に取り組んだ災害でした。それまでも、1995 年の阪神・淡路大震災では兵庫県士会が、2004 年の新潟県中越地震、2007 年の新潟県中越沖地震では新潟県士会が、同じく 2007 年の能登半島地震では石川県士会が、それぞれ士会として支援活動に取り組んできており、この間に協会も「大規模災害時支援活動マニュアル」などの整備を進めてきましたが、協会として実際にまた本格的に災害支援活動に取り組んだのは東日本大震

災時が初めてだったわけです。そしてその最初の半年間に集中的に行った支援活動はもとより、今日に至るまで続いている息の長い支援活動を通して、被災者の支援というものが、心身両面から対象者の生活を支え社会との接点を作り出す作業療法と、本質的に親近性のあるものであることがおのずと自覚されてきました。

そこで協会は 2012 年（平成 24 年）、一般社団法人に移行するにあたって定款を大改定した際に、協会事業の一つの柱として「事故若しくは災害等により被害を受けた障害者、高齢者又は児童等の支援を目的とする事業」を新たに加え、その後これをさらに（今年の定時社員総会で）「大規模災害等により被害を受けた人への支援を目的とする事業」という表現に修正しました。そしてこの事業を担うのが「災害対策室」であり、目下 8 人の室員が活動しています。

災害対策室の業務分掌は大きく分けて「災害発生時」と「平時」に分かれます。災害発生時には、災害対策室は、会長が設置した災害対策本部（理事により構成され、協会の対応方針や支援策を審議・決定する）の直下に置かれ、その指示に基づいて、被災した都道府県作業療法士会と密接に連携しながら、協会が行う災害支援活動を企画立案したり、支援活動の工程管理を行ったり、また支援活動の結果を災害対策本部に報告したりします。東日本大震災における当協会や士会の活動については『東日本大震災における災害支援活動報告書』（平成 26 年 3 月）として詳細にまとめられており、協会ホームページより全文ダウンロード可能となっています（トップページ＞会員向け情報＞各部・委員会活動＞災害対策室の資料）。

他方、災害が起こっていない平時には、災害対策室は当協会の災害支援活動の根拠となる基本指針や規程を整備したり、支援活動に必要な各種マニュアルを作成・改訂したり、災害支援ボランティアの登録・研修を行ったり、都道府県作業療法士会や他団体と連携して災害時の支援体制の整備を行っています。協会が考えている災害支援活動の枠組みや活動の実際については、これも協会ホームページに掲載されている「大規模災害時支援活動基本指針」や「災害支援ボランティア活動マニュアル」をお読みください。そこをご理解いただいた上で、是非あなたも災害支援ボランティアとしての登録をご検討ください。災害支援活動の経験がない方でも、作業療法士としての基本的な姿勢とスキル、被災者支援に貢献したい気持ちがあれば問題ありませんし、登録ボランティア向けの研修会も行われます。是非一人でも多くの会員の登録をお待ちしています。

# 第49回日本作業療法学会 盛会裡に終了

詳細報告は次号に掲載

副学会長 長倉 寿子

事務局長 長尾 徹

去る6月19日～21日、古川宏学会長のもと神戸ポートピアホテルおよび神戸国際展示場にて第49回日本作業療法学会が開催された。参加者は5,000名を超える全国の作業療法士と1,000名を超える学生および他職種、一般の方々であった。メインホールは1,700席、A～C会場は630席、D～F会場は300席、G～H会場は900～960席と大人数が集える会場であったが、どのセッションもほぼ満席状態であった。開催初日のナイトセミナー、最終日のモーニングセミナーとプログラムは長時間にわたっていたが、どの会場も熱気に包まれ、盛況のうちに幕を閉じた。

本学会は「温故知新～五十路を還り、将来を展ぶ～」というテーマのもと、澤村誠志先生の特別講演「私の行ってきたリハビリテーションの実践と作業療法に期待すること」に始まり、学会長講演「私のOT経験と将来に望むこと～温故知新～」では先人の作り上げた作業療法から先進技術を勉強したこと、障害に特化した作業療法の進化への期待が述べられた。

本学会では、学会長の業績と関連の深い義手やロボット技術を取り上げた講演、テーマシンポジウムでは歴代会長をはじめとした若い世代への提言があった。また海



外からの作業療法士をお招きし、国際色の豊かな神戸らしい国際シンポジウムも開催された。

一般演題は1,146題（口述発表427題、ポスター発表719題）、公開講座も2日にわたり、今日的なテーマである「住み慣れたまちで生きていく～地域包括ケアの実践～」と「認知症と生きる」を開催した。なお、今学会の詳細な報告及び印象記については次号（第41号、8月発行）にてご紹介するので、ご期待ください。

「医療福祉eチャンネル」新番組紹介 <http://www.ch774.com>



## ケアマネジャー受験講座2015

プレ講座1「制度改正の動向とケアマネジャーに期待される役割」  
プレ講座2「ケアマネジャーをめざすあなたに」

平成27年10月11日に予定されている介護支援専門員実務研修受講試験を受ける方のための講座です。過去問題の解析結果と最新動向の分析結果に基づいて、合格の秘訣・ポイントをやさしく解説します。

※介護支援専門員基本テキスト(長寿社会開発センター)に準拠しております。

プレ講座  
無料配信



医療・福祉の動画配信サイト

医療福祉eチャンネル

☎ 0120-870-774 (前9:00～後5:00/土・日・祝を除く)

E-mail: [info@iryofukushi.com](mailto:info@iryofukushi.com) URL: <http://www.ch774.com>



# Asia Pacific Occupational Therapy Congress (APOTC) の開催に際して “APOTRG” と “APOTC” をご存知ですか？

前 WFOT 代表 富岡 詔子

## はじめに

日本作業療法士協会の平成 26 年度の定時社員総会の議案書には、同年度の重点活動項目のサブタイトルに「地域における作業療法の推進・活動と世界作業療法士連盟大会を契機としたアジア地域との国際交流推進元年」が掲げられています。いよいよ足元をみたアジア地域との国際交流をどのように充実していくかが、今後 10 年の課題となります。Asia Pacific Occupational Therapy Regional Group (以下、APOTRG)、Asia Pacific Occupational Therapy Congress (以下、APOTC)、さらに The Asian Pacific Occupational Therapy Network (以下、APOTN) という、括弧内の略称を初めて耳にする会員もいるかもしれません。いずれも、世界作業療法士連盟の加盟国としての活動、特にアジア太平洋地区の国々が相互に交流をもつ過程で生じた事業（活動・組織）や学術集会の名称です。新入会員は言うに及ばず、全協会員が共有する“常識的”な情報としてお読みください。

## 1. 最初に APOTN ありき

インフォーマルな集会から APOTN の発足（1994）へ

WFOT の代表者会議は 2 年に 1 回開催されますが、本会議とは別に地域ごとの情報交流を目的としたインフォーマルな集会が持たれることが 1980 年代には慣例になっていたようです。ちなみに、現在は Focus Day が本会議の前日に正式に設定され、その日のどこかで地域ごとの集まりの時間が設定されています。アジア地区に関しては、第 21 回代表者会議（1994 年／Edinburgh）で、アジア・太平洋地区の集まりを“APOTN”とすることが報告され、WFOT 内部のインフォーマルな地区組織として認知されるようになりました。翌年 1995 年には、APOTN 誕生のアドバルーンとして、第 1 回アジア太平洋作業療法学会“APOTC”をマレーシアで開催し、以後 4 年ごとに開催され、今年の 9 月には第 6 回学会がニュージーランドの Rotorua で予定されています。APOTC については本誌の国際部連載記事にてご紹介しております（次頁【国際部 INFORMATION】参照）。

## 2. APOTN から正規の地区賛助会員 APOTRG へ

APOTN としての活動はほぼ 12 年間継続しましたが、2006 年には定款などを整え、地域会員（賛助会員）としての加盟申請が承認されました。先行していた他の地域賛助会員との呼称を揃えるという意味でアジア太平洋作業療法地域グループ“APOTRG”の名称になりました（APOTN は発展的に解消）。内容的にも WFOT とのつながりや会員資格・役員会・総会他が規定され、組織としての枠組みが整いました。アジア太平洋地域の交流は、APOTN という緩やかな組織を母体にして、実質的な学術交流集会としての学会（APOTC）の開催が先行し、着実にその歩みを進めてきたことになります。学会以外の日常的なアジア地域間交流を充実・発展させていくのはこれからの課題ですが、APOTRG の活動については別の機会に紹介します。

## おわりに

日本作業療法士協会が WFOT の準会員になったのが 1970 年（1972 年には正会員）で、2000 年には第 24 回 WFOT 代表者会議を札幌で開催し、2014 年には第 31 回代表者会議を千葉で、そして第 16 回 WFOT 大会を横浜で開催しました。この半世紀の日本の作業療法の国内外における存在感は飛躍的に増しましたが、以後の 50 年間で本当に生き残れるかの審判の時代になるでしょう。国内外ともに地域の個性化の時代になるのではないのでしょうか。この記事が会員の皆さんにとって国際社会におけるアジア太平洋地域の変化に、今まで以上に関心を向けるきっかけになることを願っています。



佐藤剛氏が WFOT の第一副会長であった第 20 回代表者会議（1992 年／香港）の風景。佐藤氏のリーダーシップでアジア地域の集まりの具体化が進展した（左端 2 人目より矢谷 WFOT 代表と筆者）。

# APOTC の開催に際して

さて、今年は第6回 Asia Pacific Occupational Therapy Congress (以下、APOTC) がニュージーランドで開催されます。この APOTC については、役員選挙や次の学会開催地などの概要を毎回学会時の APOTN の会議、あるいは 2006 年以降は APOTRG の総会で決定してきました (第1回のマレーシアでの開催を除く)。この機会に、今までの APOTC の開催地・開催日・学会テーマなどを整理してみました。なお、APOTC の成立背景など大きな流れについては、前頁の紹介記事をご一読いただき、理解を深めていただければ幸いです。

## 第1回 APOTC1995

Kuala Lumpur (Malaysia) : 1995.9.25-30: Towards Quality Care : 約 17 カ国から約 200 名弱の参加者があり (日本からの演題発表は 16 題)、ワークショップ・基調講演・一般演題・ポスター・施設見学・晚餐会と多彩なプログラムが展開されました。

## 第2回 APOTC1999

Taipei (Taiwan, R.O.C.) : 1999.9.11-14: Occupation: A Cross-Cultural Theme: 参加者リストによると約 300 人弱が参加した (台湾国内から約 170 人 : 日本からは 40 名近く)。帰国直後の 9 月 21 日に台湾中部地震が発生し、当協会からも台湾作業療法士協会にお見舞い金を贈りました。

## 第3回 APOTC2003

Singapore: 2003.9.15-18: Cultural Diversity, Global Identity: この学会は、“重症急性呼吸器症候群 (SARS)” の流行により、APOTC の開催が延期されるという危機状況乗り越えて開催されました。また、開催予定直前の 2002 年 12 月には、当協会の副会長でかつ WFOT 第一副会長および WFOT 代表として、APOTN や APOTC の発展に指導力を発揮していた佐藤剛氏が急逝されたこともあり、参加者には様々な想いが生じた学会となりました。総発表演題数 183 題 (75 題がポスター) で、参加者総数は 300 人名強でした。“Memorial for Tsuyoshi Sato” の基調講演 “Occupational therapy in a multicultural society: The Singapore Story” (シンガポールの Cheng-Mun LAU 女史の講演) が急遽設定されたことも印象に残りました。

## 第4回 APOTC2007

Hong Kong : 2007.6.23-26: Culture Diversity Through Innovative Practice : 参加者リストには参加者数は 27 カ国 391 名とあります (作業療法 : 26:6:602)。特記事項としては急逝した佐藤剛氏のご遺族からの寄付金を原資にした “Tsuyoshi Sato Lectureship Award” (佐藤剛基金賞) が設定され、その最初の受賞者であるシンガポールの Lim Hua Beng 氏による Sato Memorial Lecture (佐藤剛記念講演) が行われたことです。タイトルは “Of dreams and aspirations: The future

of occupational therapy through the eyes of young practitioners” (夢と理想 : 若い臨床家からみた作業療法の未来) でした。これ以後の APOTC では、ガイドラインに基づく選考委員会 (4 年ごとの APOTC の実行委員長・APOTRG の役員・日本作業療法士協会の WFOT 代表) が推薦された候補者 (アジア地域における作業療法の啓発と発展に寄与した作業療法士) から決定するという手続きが整備されました。受賞者の講演は、アジア作業療法ジャーナル (Asian Journal of Occupational Therapy) に掲載されます。

## 第5回 APOTC2011

Chiang Mai (Thailand) 2011.11.19-24: Opening World: Optimizing Occupational Therapy Practice : タイ北部の古都チェンマイでの開催とあって、事前発表の 500 ~ 600 人前後の参加者があったのではないのでしょうか? プレコンGRESのワークショップでは、Thai Elephant-Assisted Therapy やヨガ療法などタイの独自性をアピールするプログラムが用意され、西洋文化とは一味違う特色が好評だったようです。日本からは、WFOT2014 のプロモーションを兼ねて、実行委員長以下組織委員会のメンバーも多数参加し、盛り上げに一役買いました。直前にあったチャオプラヤー川流域の大洪水被害は、現地ではほとんど話題にならずに拍子抜けしましたが、トルコ西部地震 (2011.05.19) への支援と合わせて現地で募金箱を用意し、最終日にタイとトルコの代表者に APOTC2011 と WFOT2014 の Team Japan の合同で義援金を贈呈しました。こうしたことは、学会の場を利用して臨機応変に対応する中で生まれた国際交流であり、これからも積極的に試行してゆくことになるでしょう。なお、この学会での Tsuyoshi Sato Lectureship (佐藤剛基金賞) は前 WFOT 会長の Kit Sinclair さん (香港) が受賞し、講演の Award タイトルは “Education-Securing the Present, Shaping the Future” でした。

## 第6回 APOTC 2015

Rotorua (New Zealand) 2015.9.14-17: Doing Well Together : 時差の少ない南半球の NZ は比較的日本人には行きやすく、Rotorua は人気の観光地とも聞いています。アジア太平洋地域の中の英語圏での開催でもあり、アジア圏以外からの参加者もかなり多いことが推測されます。次回には演題発表するための投資として、年休をとって友達や家族との観光も兼ねておいでになることをお勧めします。NZ は WFOT の創設国のひとつであり、日本の 3/4 の国土面積をもち、人口は 440 万人 (群馬県高崎市の人口と同じ) で、人間 1 人に対して約 7 頭の羊がいるとのこと。先住民マオリの文化も含めて新たな発見が待っているでしょう。さっそくホームページを覗いてみてください (<http://www.cmnzl.co.nz/apotc-2015/>)。

## 地域移行支援への取り組み ―――(第39回)

## NPO 法人ちゃんくすのチャレンジ

NPO 法人ちゃんくす 代表 西上 忠臣

平成22年2月にJR三原駅前に開設したNPO 法人ちゃんくすは、個人、組織や団体、ひいては住民に対して障害や年齢に関係なく作業に焦点をあてた活動をしたいという思いから、医療や介護、福祉といった公的制度にとられず、自営で活動が続けている。

個人に対しては、主に思春期を迎えた、発達障害、引きこもり、ニートなど社会参加に不安を持つ方々の活動拠点を提供している。多くの方は自己肯定感が低く、自分の存在に自信が持てない方が多い。ちゃんくすでは、「やってみたいこと」「普段行っていること」に焦点をあてて、それをちゃんくすという環境の中で行っている。環境を整えることと、作業に意味や他の付加価値を付けることが私たちの仕事である。作業と作業が出会って化学反応を起こして違う作業になることもある。とことん作業をすることで社会的な意味を持つこともある。そんな作業の変化を期待しているとこちらまで楽しくなってしまうし、地域の人たちも「これでいいのだ」と共感してくれることがある。作業ができるようになると、できるだけ早く地域の中で作業をする機会と場を提供し、作業療法士と共に参加していくようにしている。

就労や進学などで、ちゃんくすから離れて作業が継続することになったら、卒業することもあれば頻度を減らしたり、ボランティアなど違う形でちゃんくすに参加できるようにしている。そして、サービスの受け手である個人が、他のニーズに対応し、今度はサービスを提供する存在になるように地域の中で環境を整えている。個人への作業の提供は、資金を本人や家族から実費でいただき自主事業として行っている。

駅前という立地や作業療法士という立場から、積極的にまちの資源である町内会、就労支援施設、商店街、企業など組織や団体と連携している。組織や団体は人材の高齢化、社会情勢の変化のために解決しにくい課題など、

多様なニーズを持っている。「できること」に着目することや「ないものは補う」など、作業療法の視点はこういう時にも発揮される。地域の中の資源を活用し、混ざり合う機会を提供することで今あるニーズからさらに新しい意味や価値観を生み、コミュニティの活性化を図っている。組織の中や組織の間で作業療法が果たすことのできる役割はたくさんあると感じている。組織への作業の提供は、委託費や助成金や依頼元の組織の費用負担によって行われている。財政的な支援による安易な課題解決の方法は地域から人材を奪い、団体や組織は成長するばかりか、かえって後退を感じることもある。地域コミュニティの継続には、ただ支援するだけではなく住民を巻き込んでそれぞれが自主的に動きながら、明確なミッションとそれに見合う資金を確保することが必要である。

このような個人や組織、団体のニーズに関わる中で「ちゃんくすの活動は人と人が混ざり合い地域が形成されるという、当たり前コミュニティを維持している」と感じることもある。免許を持った作業療法士が活動するための資金源である医療、介護、福祉の制度は、何らかの形で人にラベルを張らないとスタートできない。障害を持つ、高齢になる、機能が低下する、予防が必要である、など人生にはどうしようもないことが多くあるものだ。しかし、趣味を楽しむこと、仕事をする事など、作業を行う権利は誰にもあり、その権利を阻害されることがあってはならないし、その人が望む（臨む）場所で行われなければならない。

地域の中で仕事をしていると、サービスを提供している個人や組織や団体を支えることもあれば、支えられることもある。お互いさまの経営で事業展開ができ、お互いが成長できる地域を感じることもできる。作業療法士になってよかったなあと感じている。



## かけがえないもの

医療法人) 孝生会 津森医院デイケアセンター 蔵 奈津子

ふと気が付けば、母になり 11 年、作業療法士となり 13 年が経った。2 人の子どもたちも小学生。自分のことが自分でできるようになり、随分楽になった。子どもたちがまだ小さかった頃を少し思い返してみた。

### 【私の育児】

慣れない土地での生活、夫は仕事が忙しく、また両親も遠く離れている上に共働き、身近に誰も頼れる人がいない環境だった。初めての育児、授乳で寝不足の日々、誰とも話すことのない日が続いた。家で四六時中子どもと一緒に、子ども中心の毎日が重くなり、徐々に自己憐憫を抱くようになった。このままでは子どもも私もいけない、と思い復帰することを考え始めた。周囲の「今しかないこの時を一緒にいてあげたらいいのに」という声を聞き流し、無理のない範囲でと、働き始めた。まだ自分の足で立つことのできない、泣きじゃくる子どもに手を振り職場へ向かった。一步踏み出したことで子どもは母親と 2 人だけの世界から出て、保育所で先生や友達と多くのことを経験し、逞しく育った。子育てをしながら働くことで一番困ったのが、子どもが体調を崩した時だ。職場に電話が入ると、残りの仕事に目途をつけて急いで迎えに行った。熱が下がり、やむを得ず仕事を休むこともあったし、どうにもならない時には病後児保育を利用した。

子どもが 2 人になってからは、さらに毎日が慌ただしくなり、本当に大変だった。朝起きてから夜自分が寝るまで、常に動いていた。毎日やらなければならないことをただこなすという日々。とにかく「無我夢中」だった。夕食の時、子どもが保育所での出来事を嬉しそうに話してくれるのを聞き、新しく習ったという手遊びや歌を披露してくれる、そして夜一緒にお風呂に入る。忙しい毎日の中での、何より大切なひとときだ。心身ともに疲れきってしまったとき、子どもが保育所で書いたという手紙や絵、折り紙に励まされた。子ど

もの成長は本当に早い。

### 【私の職場】

現職場に至るまで、私はいくつか職場が変わっている。そのすべてにおいて、子どもを抱えて女性が働くということに理解があった。妊娠中、悪阻が酷く、思うように動けなかった時、仕事の内容を調整してもらった。急な発熱で子どもが体調を崩したときにはフォローしてもらった。「仕事の変わりはできるけど、母親の変わりはできないから。子どもがしんどいときぐらい、そばにいてあげて」と温かい声をかけてもらった。周囲の理解、困ったときはお互い様というサポート体制があったからこそ、私は今まで働き続けることができた。

### 【私を取り巻く人たち】

仕事で助けてくれる上司や同僚、他職種のスタッフ、私のつまらない愚痴を聞いて笑い飛ばしてくれる友人たち。子どもを通じて知り合うことができた先輩ママたち、安心して働くことができるようにと子どもに親身になって接してくれた保育所の先生方、相談にのってくれる小学校の担任の先生。そして親戚や家族。色々な場面で、たくさんの人に支えられて、今がある。感謝という言葉しか出てこない。

### 【最後に】

私と同じように、たくさんの思いを抱いて、一生懸命に働くお母さんたち。忙しく慌ただしい今のこの日々も、いつかきっと懐かしく思うときがくると思う。そのときまで、一緒に頑張ろう。そして私は今、新たに次の一步を踏み出そうとしている。これからもかけがえないものを大切にしながら、一人の人として私らしく前を向いて歩んでいきたい。

## 登録事例の紹介

本欄では、事例報告登録システムの登録事例の中から、そのつどテーマに即した事例をピックアップして紹介している。今回のテーマは「大腿骨頸部骨折後の作業療法」である。

今回の事例の全文は、『作業療法事例報告集』Vol.7（2013）に収録されており、協会ホームページから「事例報告登録」のシステムにログインし、「事例報告集」のページからダウンロードできる。

（学術部学術委員会 事例登録班）

### 0781 認知機能低下を伴う大腿骨頸部骨折症例を通して

大腿骨頸部骨折の診断にて入院した症例。既往歴はうっ血性心不全・慢性心不全にて入院加療していた。病前 ADL は自立していたが、発症後 ADL 全てにおいて介助を要した。FIM：41 点、全ての動作で促しが必要。トイレはオムツを使用し尿便意なし。失禁回数は一日平均 3 回。時間誘導が必要。患側下肢筋力低下、股関節可動域制限、疼痛：動作時あり。HDS-R：11 点。

介入の基本方針は依存傾向に対しては支持的な対応で自立を促していく。また骨折に関しては一般的な運動療法を行い、加えて ADL 訓練として受傷前は自立であったトイレ動作への介入や更衣・入浴動作への介入を行い、精神面と生活場面での自立も目標とした。

作業療法は、当初、日常生活全てにおいて介助の依存性高く、環境設定しても自ら動こうとすることはなかった。動作の促しに対しては拒否はないが、反応が遅く数秒待たないと行わなかった。2 週間経過後、動作の促しに対しすぐに反応するようになった。4 週間経過後、歩行訓練を行った。本人の前向きな発言が増え、疲労の訴えが減ると共に、他者との交流や身だしなみに注意するようになった。6 週間経過後、他患に励ましの言葉をかけることが増え、訓練に意欲的に取り組むようになった。立ち上がり、歩行が行えるようになり、ご家族の同意を得て自宅退院となった。

結果、起居、ADL 全てにおいて介助なしで可能となった。動作のほとんどで「手伝ってよ」などの依存的な発言は全く無くなり、腰痛の訴えも聞かれなくなった。FIM：78 点、食事・整容はほぼ自立し、更衣も患側下肢の裾通しのみ介助。入浴も洗体動作は患側下肢の足部のみ介助、浴槽への移乗動作は見守り、歩行もピックアップ歩行器を使用し見守りとなった。トイレ動作は促し不要。便意尿意は出現し始めた。MMT：2 レベル、ROM：股関節屈曲 95°、伸展：20°、疼痛：動作時痛変化なし。HDS-R：15 点。

作業療法介入初期から依存性が高く、さらに易疲労性であったが、前向きな発言や取り組む姿勢が変化していった。心不全の治療により長期間の臥床を余儀なくされ、今回の骨折により全身の廃用が進行し、それにより精神面においても自立度が下がり依存傾向が強まったと考えられた。依存性の強い大腿骨頸部骨折高齢者に対し、不安感を解消することにより、自発性の向上ならびに介助量軽減の効果が得られた。

### 0793 認知機能低下を呈した大腿骨転子部骨折術後患者への関わり

事例は、左大腿骨転子部骨折の 90 歳後半、女性。自宅にて早朝トイレに行こうとして転倒、救急搬送され、急性期病院にて手術（ガンマネイル術）を施行。既往に高血圧があり、要介護 1 の認定を受け、週 2 回デイサービスへ通所していた。受傷前 ADL は自立、屋内は四点杖、屋外はシルバーカーを使用、調理・掃除等は嫁が行っていた。主な介護者は嫁で、主訴は「四点杖で散歩がしたい」であった。

転院当初は術側自動 ROM 股関節に制限があった。下肢筋力は術側股関節低下有。立位バランス低下があった。

基本動作はほぼ自立レベルで立位保持のみ軽介助。ADLは移動を伴う動作に軽介助を要した。歩行は軽介助にて10m程度、階段昇降は疼痛が強く不可であった。HDS-R:5/30点。FIM:68/126点。

介入の基本方針は病棟内にて安全に生活が送れるよう、自己判断による危険行為を防止するためのベッド周囲の環境設定や、精神面のフォローを行いながら、ADL・IADLの再獲得であった。短期目標にトイレ動作・更衣動作・歩行器歩行の獲得を挙げ、長期目標に家族の支援の下、安全な生活が送れることを挙げた。

作業療法の介入経過では、当初、現状を理解できない時期があったが、塗り絵作業を媒介とし、コミュニケーションを図り、訓練の目的の理解が可能となった。3～4週で環境に慣れ、積極的にリハビリテーションに取り組み、会話の頻度や離床時間も拡大した。退院時期が早まり、急きょ退院前訪問を実施し、住宅環境の調整を行った。その頃より夜間不眠で臥床時間が長くなったことから、作業療法士は本人の不安やデマンドを聞き取った。退院時には前向きな発言が聞かれ、嫁の協力も得られたため、退院となった。

結果、退院時には術側自動ROM股関節の制限は残存したが、下肢筋力の増強を認めた。下方リーチは術創部疼痛なく、靴の着脱は自己にて可能となった。ADLは日中トイレ自立、夜間はポータブル自立、更衣も見守り～軽介助となり、日中屋内歩行器歩行遠位監視となった。認知機能は著変なく、FIM:78/126点。屋外歩行は見守りとなった。

本人らしい生活が送れるよう目標を立てたが、認知機能や生活環境から再転倒予防に重点を置かざるを得なかったが、デマンドの把握と家族支援の重要性を改めて感じた事例である。

#### 0822 複数骨折後の復職に外来作業療法での心理的サポートが有効だった一例

50代女性でホームセンターの正社員。夫と2人暮らし。右利き。荷降ろしの仕事中にトラックの荷台から転落し左大腿骨頸部骨折と左橈骨遠位端骨折受傷。受傷後2日目に左大腿骨人工骨頭置換術施行。左橈骨遠位端の整復後シーネで保存加療した。術後3日目から理学療法・作業療法を開始。同7週間後、院内歩行及びADL自立となり自宅退院となったが、復職のため作業療法のみ週1回継続となった。作業療法外来初回時ひどく落ち込んだ表情で来室。職場に復職は完治してからと言われてから1日中家に引きこもっていた。

作業療法評価は、左上肢の手関節と前腕、左下肢の股関節に可動域制限有。右股関節筋力の低下有。立ち上がりは床からはできない。歩行はT字杖で歩行。長時間の歩行は疲労あり。ADLは、自立。家事動作は調理以外、夫が援助。復職相談時に「完治してから」と言われ焦燥感が増加。自宅に引きこもり、現実逃避状態に陥っていた。

介入の基本方針は、傾聴、共感。握力、ROMの値や練習回数などを客観的な指標でフィードバック。職場から復職に必要な最低限の作業を抽出し、【出来るもの】【出来ないもの】【練習すれば出来そうなもの】に分類し紙面で整理する。必要な作業を出来る限り再現し実施することであった。

介入経過、来院時は落ち込んでいた。自主筋力トレーニング等の実施中に1週間の生活の振り返りを行った。焦燥感や劣等感から不安になり、泣く場面もあった。まずは傾聴し不安を共感した。訓練時に握力やROMの値、実施回数などを伝えると客観的に受け止められた。職場から出された条件を本人から作業内容を聞きながら紙面で分析・分類した。【出来るもの】と分類したものを一度試したところ「出来る」と実感出来ている印象だった。【練習すれば出来そうなもの】は、段階付け後に実施し、外来開始から8回で全て【出来るもの】となり、本人が社長の前で動作を見せて復職が決定した。

結果、ROMは左手関節、前腕回内外ほぼ正常、左股関節屈曲130°外転45°。筋力正常、床からの手すりなしで、立ち上がれるようになった。夫の援助を受けつつ本人が家事動作を行うようになった。外来開始から2ヶ月後に職場復帰することになった。

本事例は、骨折部の骨性アライメントや骨癒合など良好で、上下肢ともに著明なROM制限はみられず歩行及びADL自立となり自宅退院となった。運動機能は退院時の自主トレ指導のみで徐々に復職が可能なレベルだったが、作業療法外来の継続で心理面の変化やサインを見逃さず復職に向けたサポートができた。

## 第 56 回 作業療法全国研修会（富山会場）のご案内

### 作業は人を健康にする ～地域へとつむぐ役割～

今年度の作業療法全国研修会は富山県作業療法士会と山口県作業療法士会の協力のもと、2 会場での開催となります。両会場ともにテーマ、プログラムはほぼ同じ内容となりますが、それぞれ開催地の特色を活かしたプログラムを予定しています。今後の詳細は協会ホームページ内、作業療法全国研修会にて掲載予定です。

#### 【開催要項】

テ マ：作業は人を健康にする ～地域へとつむぐ役割～

会 期：平成 27 年 9 月 26 日（土）～9 月 27 日（日）＜2 日間＞

※山口会場は平成 27 年 11 月 7 日（土）～8 日（日）＜2 日間＞

会 場：富山国際会議場（〒930-0084 富山県富山市大手町 1-2）

参 加 費：正会員 事前参加登録 10,000 円・当日受付 12,000 円、  
非会員 20,000 円（2015 年度会費未納者含む）、他職種 5,000 円、学生 1,000 円、一般無料（公開講座のみ）

\*参加費の振込手数料はご自身でご負担ください。

\*協会員は公開講座に一般としての聴講はできません。

\*1 日のみの参加の場合も同額になります。

主 催：一般社団法人 日本作業療法士協会 運営協力：一般社団法人 富山県作業療法士会

#### 【交流会のご案内】※参加申込みにつきましては、全国研修会富山会場ホームページにてご確認ください。

研修会 1 日目終了後に交流会を行います。講師の先生方や参加者の皆様と楽しく交流会ができればと思います。是非ご参加ください。

日 時：平成 27 年 9 月 26 日（土）18：30 ～

会 場：富山国際会議場 1 階交流ギャラリー

料 金：4,000 円

#### 【宿泊の手配】

宿泊は各個人で手配してください。

宿泊予定の方はお早目の手配をお勧めします。

#### 【参加登録方法】

##### ＜事前登録＞

申込み期間：平成 27 年 7 月 8 日（水）正午～9 月 2 日（水）正午

協会ホームページ全国研修会バナーの専用申込みフォームから参加登録を行ってください。登録は画面上の案内に沿ってお願いいたします。参加登録後、指定の口座まで参加費の入金をして頂き、事務局での入金確認（入金から 10 日間程お時間がかかります）がとれましたら、参加証引換券が登録のメールアドレスへ送信されます。参加証引換券は当日、必ず持参ください。

##### ＜当日受付＞

2015 年度会員証（または 2015 年度会費振込の受領証）をご持参の上、当日直接会場までお越しください。

#### 【問い合わせ】

作業療法全国研修会実行委員会（教育部）

FAX：03-5826-7872 E-mail：zenken2015@jaot.or.jp

※問い合わせは FAX か E-mail でお願いいたします。

富山会場“詳細”



《 第 56 回作業療法全国研修会 富山会場 プログラム 》

※テーマ及び講師は予定です

| 9月26日（土）    |                        | 第1会場                                                                                     | 第2会場                                                           |
|-------------|------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|
| 1<br>日<br>目 | 9：45～                  | 開会式                                                                                      |                                                                |
|             | 10：00～11：20<br>【官公庁講演】 | 「地域社会に信頼される作業療法士の姿とは」<br>村井 千賀（厚生労働省 老健局 老人保健課）                                          |                                                                |
|             | 11：30～12：30<br>【研究事業】  | 「作業で健康になるリハビリテーションー生活行為向上マネジメントー」<br>講師：調整中                                              |                                                                |
|             | 12：30～13：20            | 休 憩                                                                                      |                                                                |
|             | 13：20～14：20            | 「介護報酬の改定と今後のリハの方向」<br>梶原 幸信（伊東市民病院）                                                      | 「これからの精神科作業療法」<br>山根 寛（「ひとと作業・生活」研究会）                          |
|             | 14：30～15：30            | 「地域包括ケアにおける作業療法の役割」<br>佐藤 孝臣（株式会社ライフリー代表取締役）                                             | 「ALSにおける作業療法の役割」<br>小林 貴代（Koba レディースクリニック理事・森ノ宮医療大学非常勤講師）      |
|             | 15：40～16：40            | 「心大血管疾患の作業療法 心不全患者を病院～地域で支えるためのアセスメントとリスク管理」<br>生須 義久（群馬県立心臓血管センター）                      | 「過疎地域における作業療法士の在り方」<br>村上 重紀（公立みつぎ総合病院保健福祉総合施設附属リハビリテーションセンター） |
|             | 17：00～18：00<br>【公開講座】  | 「あきらめない心と作業療法～義手（失った片腕）が与えてくれたもの看護の仕事とバイオリン～」<br>野村 真波（看護師）<br>柴田 八衣子（兵庫県立リハビリテーション中央病院） |                                                                |
| 18：30～      | 交流会                    |                                                                                          |                                                                |
| 9月27日（日）    |                        | 第1会場                                                                                     | 第2会場                                                           |
| 2<br>日<br>目 | 9：20～10：20<br>【会長講演】   | 「作業は人を健康にするーこれからの協会のあり方ー」<br>中村 春基（日本作業療法士協会 会長）                                         |                                                                |
|             | 10：30～11：30            | 「認知症の作業療法」<br>松浦 篤子（荒尾こころの郷病院）                                                           |                                                                |
|             | 11：30～12：30            | 休 憩                                                                                      |                                                                |
|             | 12：30～13：30            | 「訪問リハビリテーションにおける作業療法士の役割」<br>木村 修介（新緑訪問看護ステーション長津田）                                      | 「各領域の発達障害における発達学的支援」<br>嶋谷 和之（大阪市更生療育センター）                     |
|             | 13：40～14：40            | 「がんのリハビリテーションにおける作業療法」<br>小林 毅（千葉県立保健医療大学）                                               | 「精神科における訪問リハビリテーション」<br>香田 真希子（目白大学）                           |
|             | 14：45～                 | 閉会式                                                                                      |                                                                |

| 認定作業療法士取得研修 共通研修 |                   |                               |     |
|------------------|-------------------|-------------------------------|-----|
| 講座名              | 日 程 (予定も含む)       | 開催地 (予定も含む)                   | 定 員 |
| 管理運営④            | 2015年9月26日～27日    | 大 阪：大阪市 新大阪丸ビル貸会議室            | 40名 |
| 管理運営⑤            | 2015年10月24日～25日   | 鹿児島：鹿児島市 鹿児島大学                | 40名 |
| 管理運営⑥            | 2015年11月28日～29日   | 岡 山：岡山市 おかやま西川原プラザ            | 40名 |
| 管理運営⑦            | 2016年1月23日～24日    | 愛 知：名古屋市 imy会議室               | 40名 |
| 教育法⑤             | 2015年10月3日～4日     | 秋 田：秋田市 アキタ・スクエア              | 40名 |
| 教育法⑥             | 2015年10月31日～11月1日 | 広 島：広島市 広島市内                  | 40名 |
| 教育法⑦             | 2015年12月5日～6日     | 東 京：台東区 日本作業療法士協会事務局          | 40名 |
| 研究法③             | 2015年8月20日～21日    | 京 都：京都市 TKP京都四条烏丸会議室          | 40名 |
| 研究法④             | 2015年9月12日～13日    | 福 岡：福岡市 天神チクモビル               | 40名 |
| 研究法⑤             | 2015年11月7日～8日     | 兵 庫：神戸市 神戸市内                  | 40名 |
| 研究法⑥             | 2015年12月12日～13日   | 香 川：高松市 アルファあなぶきホール (香川県民ホール) | 40名 |
| 研究法⑦             | 2016年1月9日～10日     | 大 阪：大阪市 新大阪丸ビル貸会議室            | 40名 |

| 認定作業療法士取得研修 選択研修 |                   |                            |     |
|------------------|-------------------|----------------------------|-----|
| 講座名              | 日 程 (予定も含む)       | 開催地 (予定も含む)                | 定 員 |
| 選択⑧ 発達障害領域       | 2015年9月12日～13日    | 東 京：台東区 日本作業療法士協会事務局       | 30名 |
| 選択⑨ 精神障害領域       | 2015年9月19日～20日    | 東 京：台東区 BC鶯谷駅前貸し会議室        | 30名 |
| 選択⑩ 身体障害領域       | 2015年10月3日～4日     | 愛 媛：松山市 松山市総合コミュニケーションセンター | 30名 |
| 選択⑪ 老年期[身障]領域    | 2015年10月10日～11日   | 北海道：札幌市 札幌市内               | 30名 |
| 選択⑫ 精神障害領域       | 2015年10月31日～11月1日 | 東 京：台東区 日本作業療法士協会事務局       | 30名 |
| 選択⑬ 発達障害領域       | 2015年11月28日～29日   | 大 阪：大阪市 新大阪丸ビル新館           | 30名 |
| 選択⑭ 老年期領域        | 2015年12月12日～13日   | 東 京：台東区 日本作業療法士協会事務局       | 30名 |
| 選択⑮ 身体障害領域       | 2016年1月9日～10日     | 福 岡：大野城市 誠愛リハビリテーション病院     | 30名 |

| 専門作業療法士取得研修 |                               |                   |                      |
|-------------|-------------------------------|-------------------|----------------------|
| 講座名         | 日 程 (予定も含む)                   | 開催地 (予定も含む)       | 定 員                  |
| 高次脳機能障害     | 基礎Ⅰ                           | 2015年9月5日～6日      | 福 岡：調整中 調整中          |
|             | 基礎Ⅴ                           | 調整中               | 京 都：調整中 調整中          |
| 精神科急性期      | 基礎Ⅱ                           | 調整中               | 福 岡：調整中 調整中          |
|             | 基礎Ⅲ                           | 調整中               | 大 阪：調整中 調整中          |
| 摂食嚥下        | 基礎Ⅲ                           | 2015年10月17日～18日   | 大 阪：大阪市 新大阪丸ビル別館     |
|             | 基礎Ⅳ                           | 2015年8月1日～2日      | 東 京：台東区 日本作業療法士協会事務局 |
| 手外科         | 詳細は日本ハンドセラピス学会のホームページをご覧ください。 |                   | 40名                  |
| 特別支援教育      | 基礎Ⅰ-1                         | 調整中               | 東 京：調整中 調整中          |
|             | 基礎Ⅱ-2                         | 調整中               | 福 岡：調整中 調整中          |
|             | 応用Ⅰ                           | 調整中               | 大 阪：調整中 調整中          |
| 認知症         | 基礎Ⅱ                           | 2015年10月24日～25日   | 鹿児島：鹿児島市 サニープラザ天文館   |
|             | 基礎Ⅲ                           | 2015年9月19日～20日    | 愛 知：名古屋市 ウィンクあいち     |
|             | 基礎Ⅳ                           | 2015年10月17日～18日   | 福 岡：福岡市 博多駅周辺        |
|             | 応用Ⅰ                           | 調整中               | 東 京：調整中 調整中          |
|             | 応用Ⅱ                           | 調整中               | 東 京：調整中 調整中          |
|             | 応用Ⅲ                           | 調整中               | 東 京：調整中 調整中          |
|             | 応用Ⅶ                           | 調整中               | 東 京：調整中 調整中          |
| 福祉用具        | 基礎Ⅱ                           | 2015年10月31日～11月1日 | 愛 知：名古屋市 国際医学技術専門学校  |
|             | 基礎Ⅴ                           | 2015年9月26日～27日    | 北海道：札幌市 札幌医科大学保健医療学部 |
|             | 応用Ⅰ                           | 2015年5月24日, 11月7日 | 大 阪：大阪市 株式会社ウィズ      |
|             | 応用Ⅱ                           | 2015年5月23日, 11月8日 | 大 阪：大阪市 株式会社ウィズ      |
| 訪問作業療法      | 基礎Ⅰ                           | 2015年10月31日～11月1日 | 調整中：調整中 調整中          |

| 作業療法全国研修会     |                |                   |        |
|---------------|----------------|-------------------|--------|
| 講座名           | 日 程 (予定も含む)    | 開催地 (予定も含む)       | 定 員    |
| 第56回作業療法全国研修会 | 2015年9月26日～27日 | 富 山：富山市 富山国際会議場   | 300名程度 |
| 第57回作業療法全国研修会 | 2015年11月7日～8日  | 山 口：山口市 山口県総合保健会館 | 300名程度 |

| 教員研修プログラム  |                 |                      |     |
|------------|-----------------|----------------------|-----|
| 講座名        | 日 程 (予定も含む)     | 開催地 (予定も含む)          | 定 員 |
| 教員研修プログラムⅡ | 2015年9月26日～27日  | 東 京：台東区 日本作業療法士協会事務局 | 20名 |
| 教員研修プログラムⅢ | 2015年10月24日～25日 | 東 京：小金井市 社会医学技術学院    | 20名 |

| 臨床実習指導者研修       |                |                   |     |  |
|-----------------|----------------|-------------------|-----|--|
| 講座名             | 日 程 (予定も含む)    | 開催地 (予定も含む)       | 定 員 |  |
| 臨床実習指導者研修 中級・上級 | 2015年8月22日～23日 | 愛 知：名古屋市 愛知県青年会館  | 50名 |  |
| 臨床実習指導者研修 中級・上級 | 2015年9月12日～13日 | 岡 山：岡山市 岡山県総合福祉会館 | 50名 |  |
| 臨床実習指導者研修 中級・上級 | 2015年10月3日～4日  | 長 野：長野市 J A 長野県ビル | 50名 |  |

| 作業療法重点課題研修                          |                 |                                                            |     |  |
|-------------------------------------|-----------------|------------------------------------------------------------|-----|--|
| 講座名                                 | 日 程 (予定も含む)     | 開催地 (予定も含む)                                                | 定 員 |  |
| 喀痰吸引技術法                             | 2015年9月12日～13日  | 千 葉：千葉市<br>千葉県立保健医療大学 幕張キャンパス                              | 40名 |  |
| 認知症のひととその家族への作業療法                   | 2015年9月5日～6日    | 兵 庫：神戸市<br>兵庫県立リハビリテーション中央病院                               | 60名 |  |
| 脳性まひ児(者)に対する作業療法                    | 2015年9月12日～13日  | 静 岡：静岡市 ふしみやビル会議室                                          | 60名 |  |
| 急性期病棟における身体障害作業療法に関する実務者研修          | 2015年9月12日～13日  | 福 島：郡山市<br>郡山地域職業訓練センター                                    | 60名 |  |
| 地域包括ケアシステムと作業療法                     | 2015年10月3日～4日   | 東 京：東京都 東京都内                                               | 60名 |  |
| 実践！心疾患に対する作業療法                      | 2015年10月10日～11日 | 熊 本：熊本市<br>熊本市男女共同参画センターはあもにい                              | 60名 |  |
| 国際学会で発表してみよう<br>～英語での抄録作成から演題発表のコツ～ | 2015年10月25日     | 東 京：台東区<br>日本作業療法士協会事務局                                    | 30名 |  |
| 緩和ケアチーム・病棟に従事するための作業療法              | 2015年10月17日～18日 | 北海道：札幌市 北海道建設会館                                            | 80名 |  |
| 認知症に対する集団作業療法                       | 2015年11月7日～8日   | 東 京：大田区 東京工科大学                                             | 60名 |  |
| がんに対する作業療法                          | 2015年11月7日～8日   | 香 川：調整中 調整中                                                | 60名 |  |
| グローバル活動入門セミナー                       | 2015年11月15日     | 東 京：大田区 東京工科大学                                             | 30名 |  |
| 学校を理解して支援ができる作業療法士の育成               | 2015年12月12日～13日 | 福 岡：福岡市 調整中                                                | 60名 |  |
| 退院支援から地域生活を支える精神科作業療法士の役割           | 2015年12月 調整中    | 静 岡：調整中 調整中                                                | 60名 |  |
| 呼吸器疾患に対する作業療法                       | 2016年1月16日～17日  | 静 岡：浜松市 静岡医療科学専門学校                                         | 60名 |  |
| 精神保健領域におけるアウトリーチ                    | 2016年1月 調整中     | 香 川：調整中 調整中                                                | 60名 |  |
| 地域生活支援のための医療-介護連携に関する作業療法-          | 2016年1月9日～10日   | 福 岡：福岡市 福岡国際医療福祉学院                                         | 60名 |  |
| 平成28年度診療報酬・介護報酬情報等に関する作業療法          | 2016年3月 調整中     | 調整中：調整中 大阪又は京都にて調整中                                        | 60名 |  |
| がんのリハビリテーション研修                      | 2015年8月29日～30日  | 千 葉：千葉市<br>千葉県立保健医療大学 幕張キャンパス<br>※詳細・申込み方法はホームページに掲載しております |     |  |

## 生涯教育講座案内【都道府県作業療法士会】 2015 年度

| 現職者選択研修 |            |       |                  |        |      |                                                                         |
|---------|------------|-------|------------------|--------|------|-------------------------------------------------------------------------|
| 講座名     | 日 程        | 主催県士会 | 会 場              | 参加費    | 定 員  | 詳細・問合せ先                                                                 |
| 老年期障害   | 2015年7月12日 | 秋田県   | 秋田大学医学部保健学科      | 4,000円 | 50名  | 詳細：秋田県作業療法士会ホームページ<br>問合せ先：秋田県立リハビリテーション・精神医療センター 川野辺穰 TEL 018-892-3751 |
| * 老年期障害 | 2015年7月18日 | 石川県   | 石川県リハビリテーションセンター | 4,000円 | 50名  | 詳細：石川県士会ホームページ<br>問合せ先：介護老人保健施設ふいらーじゅ 西谷すずな TEL 076-288-1465            |
| 精神障害    | 2015年7月26日 | 新潟県   | 晴陵リハビリテーション学院    | 4,000円 | 100名 | 詳細：新潟県作業療法士会ホームページ<br>問合せ先：立川総合病院 上村公子 TEL 0258-33-3111                 |
| 老年期障害   | 2015年8月2日  | 佐賀県   | 相知交流文化センター       | 4,000円 | 40名  | 詳細が決まり次第、佐賀県作業療法士会HPにアップします                                             |
| 身体障害    | 2015年8月9日  | 長野県   | 中野市中央公民館         | 4,000円 | 100名 | 詳細：長野県作業療法士会ホームページ<br>問合せ先：飯山赤十字病院 勝山友紀 TEL 0269-62-4195                |
| 老年期障害   | 2015年8月9日  | 香川県   | サンメッセ香川          | 4,000円 | 60名  | 詳細：香川県士会ホームページ<br>問合せ先：いわき病院OT科 TEL 087-879-3533 (内線160)                |
| * 身体障害  | 2015年8月30日 | 岐阜県   | 土岐市立総合病院         | 4,000円 | 60名  | 詳細：岐阜県士会ホームページ<br>問合せ先：土岐市老人保健施設やすらぎ 山本紀子 TEL 0572-55-2111              |

|         |             |     |                  |        |      |                                                                                                        |
|---------|-------------|-----|------------------|--------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| * 身体障害  | 2015年9月6日   | 青森県 | 東北メディカル学院        | 4,000円 | 30名  | 詳細：青森県作業療法士会ホームページ<br>問合せ先：東北メディカル学院 作業療法学科<br>藤倉美雪 Tel 0178-61-0606                                   |
| * 老年期障害 | 2015年9月6日   | 静岡県 | 沼津市立図書館          | 4,000円 | 150名 | 詳細が決まり次第、静岡県作業療法士会HPに<br>アップします<br>問合せ先：リハビリテーション中伊豆温泉病院<br>金子智治 Tel 0558-83-3333                      |
| * 身体障害  | 2015年9月6日   | 茨城県 | 茨城県立健康プラザ        | 4,000円 | 100名 | 詳細・問合せ先：茨城県作業療法士会ホームページ<br><a href="http://medical.ibaraki-ot.org/">http://medical.ibaraki-ot.org/</a> |
| * 身体障害  | 2015年9月13日  | 京都府 | 佛教大学 二条キャンパス     | 4,000円 | 100名 | 詳細：京都府作業療法士会ホームページ<br>問合せ先：洛和会音羽病院 難波忠明<br>Tel 075-593-4111                                            |
| * 老年期障害 | 2015年10月4日  | 青森県 | 弘前市総合学習センター      | 4,000円 | 30名  | 詳細：青森県作業療法士会ホームページ<br>問合せ先：東北メディカル学院 作業療法学科<br>藤倉美雪 Tel 0178-61-0606                                   |
| * 発達障害  | 2015年10月18日 | 奈良県 | 関西学研医療福祉学院 7階講堂  | 4,000円 | 80名  | 詳細：(一社)奈良県作業療法士会ホームページ<br>問合せ先：秋津鴻池病院 リハビリテーション部<br>木納(きのう) 潤一 Tel 0745-63-0601                        |
| * 精神障害  | 2015年11月29日 | 群馬県 | 群馬医療福祉大学 本町キャンパス | 4,000円 | 40名  | 詳細：群馬県作業療法士会ホームページ                                                                                     |
| * 老年期障害 | 2015年12月13日 | 山口県 | 山口コ・メディカル学院      | 4,000円 | 80名  | 詳細が決まり次第、山口県作業療法士会HPに<br>アップします<br>問合せ先：介護老人保健施設 グリーンヒル美祢<br>築地信之 Tel 0837-54-0145                     |
| * 精神障害  | 2015年12月13日 | 茨城県 | 茨城県立医療大学         | 4,000円 | 80名  | 詳細：問合せ先：茨城県作業療法士会ホームページ<br><a href="http://medical.ibaraki-ot.org/">http://medical.ibaraki-ot.org/</a> |

\*は新規掲載分です。

詳細は、ホームページをご覧ください。 協会主催研修会の問い合わせ先

一般社団法人 日本作業療法士協会 電話. 03-5826-7871 FAX. 03-5826-7872 E-mail [ot\\_jigyuu@yahoo.co.jp](mailto:ot_jigyuu@yahoo.co.jp)

## 催物・企画案内

### ▶ 第1回在宅の多職種チームケアを考える会

日時：2015. 8/1 (土) 13:30 ~ 17:00

会場：新宿パークタワー 23階 エーザイ会議室

お申込み・お問合せ：Eメール [hotmeeting.kanwa@gmail.com](mailto:hotmeeting.kanwa@gmail.com)

### ▶ 日本健康科学学会第31回学術大会

日時：2015. 8/20 (木)・21 (金)

会場：ホテルグランドヒル市ヶ谷

お問合せ：公益財団法人日本健康・栄養食品協会内 大会事務局

TEL. 03-3268-3134 FAX. 03-3268-3136

Eメール [health-science@jhnfa.org](mailto:health-science@jhnfa.org)

### ▶ 日本職業リハビリテーション学会第43回(東京)大会

日時：2015. 8/22 (土)・23 (日)

会場：大妻女子大学 多摩キャンパス

お問合せ：Eメール [shokuriha\\_jimukyoku@vocreha.org](mailto:shokuriha_jimukyoku@vocreha.org)

### ▶ UBOM(簡易客観的精神指標検査)技術講習会・2015

主催：NPO法人UBOM研究会

日時：2015. 8/22 (土)・23 (日)

8/22 (土) 10:00 ~ 17:00

8/23 (日) 9:30 ~ 14:30

会場：コラッセふくしま 5階研修室

福島県福島市三河南町 1-20 TEL. 024-525-4089

ホームページ <http://www.corasse.com/>

お申込み期限：2015. 7/31 (金) (必着)

お問合せ：NPO法人UBOM研究会

FAX かメールにて下記にお問い合わせください

Eメール [ubom@fmu.ac.jp](mailto:ubom@fmu.ac.jp) FAX. 024-573-1480

ホームページ <http://ubom.net/>

### ▶ 一般社団法人全国リハビリテーション学校協会

#### 第28回教育研究大会・教員研修会、ワークショップ

日時：2015. 8/27 (木)・28 (金)

会場：東北文化学園大学

お問合せ：事務局：東北文化学園大学 リハビリテーション学科内

Eメール [28rehaedu@gmail.com](mailto:28rehaedu@gmail.com)

### ▶ 第13回日本臨床医療福祉学会

日時：2015. 8/27 (木) ~ 29 (土)

会場：ANA クラウンプラザ ホテルグランコート名古屋 (8/27)

名古屋国際会議場 (8/28・29)

お問合せ：運営事務局 株式会社オフィステイクワン

TEL. 052-508-8510 FAX. 052-508-8540

Eメール [acjchw13@cs-oto.com](mailto:acjchw13@cs-oto.com)

ホームページ <http://www.cs-oto.com/acjchw13/>

### ▶ 日本認知・行動療学会第41回大会

#### 「認知行動療法を学ぶ・研く・極める」

日時：2015. 10/2 (金) ~ 4 (日)

会場：仙台国際センター・東北学院大学土樋キャンパス

お問合せ：ホームページ <http://www.clinkage.co.jp/jabct2015/>

「催物・企画案内」の申込先 ➡ [kikanshi@jaot.or.jp](mailto:kikanshi@jaot.or.jp)

ただし、掲載の可、不可はご連絡致しません。また、原稿によっては、割愛させていただく場合がございますのでご了承ください。

## ～教員のための研修会のご案内～

**教員研修プログラムⅡ 作業療法教育課程編成**

学生教育をしていく上で知っておかなければならない「カリキュラムの仕組み」および「シラバスを作成する上で必要となる基本的知識」について学び、実際にシラバスの作成演習を行う。

対象者：日本作業療法士協会正会員 作業療法教育を現在実践されている若手教員、あるいはこれから教育者を目指そうとしている方、さらに教育に関心をお持ちの作業療法士

日 時：平成 27 年 9 月 26 日（土）13：30～17：00～9 月 27 日（日）9：00～15：30

会 場：日本作業療法士協会 事務局 10 階研修室 定員：20 名 参加費：8,000 円

**教員研修プログラムⅢ 教科指導法**

シラバスを作成したが、いざ授業当日、どのような内容をどのくらいの時間で、どのような方法で実施するか？学習者は学習目標に到達したのか？授業をする上で当日の計画はさらに重要となる。教科指導計画立案演習および実際の学生に対し模擬授業を実施し、学生からの意見・感想を頂く予定。

対象者：日本作業療法士協会正会員 作業療法教育を現在実践されている若手教員、あるいはこれから教育者を目指そうとしている方、さらに教育に関心をお持ちの作業療法士

日 時：平成 27 年 10 月 24 日（土）13：30～17：00～10 月 25 日（日）9：00～15：30

会 場：専門学校社会医学技術学院 定員：20 名 参加費：8,000 円

## ～臨床実習指導者のための研修会のご案内～

**臨床実習指導者研修 - 中級・上級**

臨床実習教育場面では多様化する学生の指導に苦慮する一方で、「教育に関する教育」を受ける機会が少ない臨床実習指導者の指導上の知識と技術の習得や悩みを解決する場の提供が望まれている。また、作業療法教育の質を担保するうえでも臨床実習指導者の学習の場の必要性が高まっている。そこで、本研修では、作業療法学生の臨床実習指導に必要な知識と技術、および管理運営に関する内容を身につけることを目指す。

内 容：臨床実習指導総論、クリニカル・クラークシップ／症例基盤型臨床実習、症例レポート作成指導／症例報告の仕方、コーチング、臨床実習の管理

対象者：日本作業療法士協会正会員 臨床実習指導者

※臨床実習指導者研修制度の初級を修了。下記証明書類を申し込み時に同封。

基礎研修修了者は基礎研修修了証のコピー。基礎研修修了前で現職者研修「作業療法における協業・後輩育成」・「職業倫理」を受講済の場合、修了印の確認できる受講記録の該当ページのコピー。

会場・日時：

①＜愛知会場＞（愛知県青年会館） 平成 27 年 8 月 22 日（土）～23 日（日）

②＜岡山会場＞（岡山県総合福祉会館） 平成 27 年 9 月 12 日（土）～13 日（日）

③＜長野会場＞（JA 長野県ビル） 平成 27 年 10 月 3 日（土）～4 日（日）

定 員：各 50 名 参加費：今年度に限り無料

お申込み方法や詳細はホームページをご覧ください。 協会主催研修会の問い合わせ先

一般社団法人 日本作業療法士協会 電話：03-5826-7871 FAX：03-5826-7872 E-mail：ot\_jigyoku@yahoo.co.jp

# 協会配布資料一覧

| 資 料 名                                                                                                                                |                                   | 略 称           | 価 格                                                                            |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|---------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| パンフレット                                                                                                                               | 一般向け協会パンフレット (INFORMATION BOOK 1) | パンフ一般         | 無料 (送料負担)<br>※ただし、1 年につき 50 部を超える場合は、有料。<br>25 年度分養成校への配布は、終了。<br>詳しくは、協会事務局へ。 |
|                                                                                                                                      | 学生向け協会パンフレット (INFORMATION BOOK 2) | パンフ学生         |                                                                                |
|                                                                                                                                      | 作業療法は呼吸器疾患患者さんの生活の質の向上を支援します      | パンフ呼吸器        |                                                                                |
| 協会広報誌                                                                                                                                | Opera15                           | オペラ 15        |                                                                                |
|                                                                                                                                      | Opera16                           | オペラ 16        |                                                                                |
|                                                                                                                                      | Opera18                           | オペラ 18        |                                                                                |
|                                                                                                                                      | Opera19                           | オペラ 19        |                                                                                |
| 広報 ビデオ<br>DVD                                                                                                                        | 作業療法～生活の再建に向けて～                   | 広報ビデオ再建       | 2,000 円                                                                        |
|                                                                                                                                      | 作業療法～生活の再建に向けて～                   | 広報 DVD 再建     | 各 4,000 円                                                                      |
|                                                                                                                                      | 身体障害者に対する作業療法                     | 広報 DVD 身体     |                                                                                |
|                                                                                                                                      | 精神障害に対する作業療法                      | 広報 DVD 精神     |                                                                                |
| Asian Journal of Occupational Therapy (英文機関誌) Vol.1、2、3、4                                                                            |                                   | AJOT1-1、2、3、4 | 各 500 円                                                                        |
| 作業療法事例報告集 Vol.1 2007 Vol.2 2008 Vol.3 2009 Vol.4 2010 ★ Vol.5 2011                                                                   |                                   | 事例集 1、2、3、4、5 | 各 1,000 円                                                                      |
| 作業療法関連用語解説集 改訂第 2 版 2011                                                                                                             |                                   | 用語解説集         | 1,000 円                                                                        |
| 認知症高齢者に対する作業療法の手引き (改訂版)                                                                                                             |                                   | 認知症手引き        | 1,000 円                                                                        |
| 認知症アセスメントマニュアル Ver.3                                                                                                                 |                                   | 認知アセス         | 各 100 円                                                                        |
| 機関誌「作業療法」バックナンバー 通巻 No. 5、6、8、9、11～13、⑭、15、17、18、21～24、⑤、27、28、30、①、<br>(○数字は学会論文集) 32～34、③、37～39、42～46、48～50、52、⑤、54～56 No. 29 (白書) |                                   |               | 各 1,000 円<br>(白書のみ 2,000 円)                                                    |
| 日本作業療法学会誌 (CD-ROM) 40、41、42、43、44、45、46、47、49                                                                                        |                                   |               | 各 2,730 円                                                                      |
| 作業療法白書 2010                                                                                                                          |                                   | 白書 2010       | 2,000 円                                                                        |

## 作業療法マニュアルシリーズ

| 資 料 名                         | 略 称           | 価 格       | 資 料 名                                 | 略 称          | 価 格       |
|-------------------------------|---------------|-----------|---------------------------------------|--------------|-----------|
| 1：脳卒中のセルフケア                   | マ 1 脳卒中       | 各 1,000 円 | 34：作業療法研究法マニュアル                       | マ 34 研究法     | 各 1,000 円 |
| 5：手の外科と作業療法                   | マ 5 手の外科      |           | 35：ヘルスプロモーション                         | マ 35 ヘルスプロモ  |           |
| 6：障害者・高齢者の住まいの工夫              | マ 6 住まい       |           | 36：脳血管障害に対する治療の実践                     | マ 36 脳血管     |           |
| 8：発達障害児の姿勢指導                  | マ 8 姿勢        |           | 37：生活を支える作業療法のマネジメント 精神障害分野           | マ 37 マネジメント  |           |
| 10：OT が知っておきたいリスク管理 (2 冊組)    | マ 10 リスク      | 2,000 円   | 39：認知症高齢者の作業療法の実際                     | マ 39 認知      |           |
| 11：精神障害者の生活を支える               | マ 11 精神・生活    | 各 1,000 円 | 40：特別支援教育の作業療法士                       | マ 40 特別支援    |           |
| 12：障害児のための生活・学習具              | マ 12 生活・学習具   |           | 41：精神障害の急性期作業療法と退院促進プログラム             | マ 41 退院促進    |           |
| 13：アルコール依存症の作業療法              | マ 13 アルコール    |           | 42：訪問型作業療法                            | マ 42 訪問      |           |
| 14：シーティングシステム<br>―座る姿勢を考える―   | マ 14 シーティング   |           | 43：脳卒中急性期の作業療法                        | マ 43 脳急性期    |           |
| 15：精神科リハビリテーション<br>関連評価法ガイド   | マ 15 精神科評価    |           | 44：心大血管疾患の作業療法★                       | マ 44 心大血管    |           |
| 16：片手でできる楽しみ                  | マ 16 片手       |           | 45：呼吸器疾患の作業療法①                        | マ 45 呼吸器①    |           |
| 17：発達障害児の遊びと遊具                | マ 17 遊びと遊具    |           | 46：呼吸器疾患の作業療法②                        | マ 46 呼吸器②    |           |
| 20：頭部外傷の作業療法                  | マ 20 頭部外傷     |           | 47：がんの作業療法①                           | マ 47 がん①     |           |
| 21：作業活動アラカルト                  | マ 21 アラカルト    |           | 48：がんの作業療法②                           | マ 48 がん②     |           |
| 22：障害者の働く権利・働く楽しみ             | マ 22 権利・楽しみ   |           | 49：通所型作業療法                            | マ 49 通所      |           |
| 23：福祉用具プランの実践                 | マ 23 福祉プラン    |           | 50：入所型作業療法                            | マ 50 入所型     |           |
| 24：発達障害児の家族支援                 | マ 24 発達家族     |           | 52：アルコール依存症者のための作業療法                  | マ 52 アルコール依存 |           |
| 25：身体障害の評価 (2 冊組)             | マ 25 身体評価     | 3,000 円   | 53：認知機能障害に対する自動車運転支援                  | マ 53 自動車運転   |           |
| 26：OT が選ぶ生活関連機器               | マ 26 生活関連機器   | 各 1,000 円 | 54：うつ病患者に対する作業療法(新刊)                  | マ 54 うつ病     |           |
| 27：発達障害児の評価                   | マ 27 発達評価     |           | 55：摂食・嚥下障害と作業療法<br>―吸引の基本知識を含めて― (新刊) | マ 55 摂食嚥下    |           |
| 28：発達障害児のソーシャルスキル             | マ 28 ソーシャルスキル |           | 56：子どもに対する作業療法                        | マ 56 子ども     |           |
| 29：在宅訪問の作業療法                  | マ 29 在宅訪問     |           | 57：生活行為向上マネジメント                       | マ 57 生活行為    |           |
| 30：高次神経障害の作業療法評価              | マ 30 高次評価     |           | 58：高次脳機能障害のある人の生活<br>―就労支援―           | マ 58 高次生活・就労 |           |
| 31：精神障害：身体に働きかける作業療法          | マ 31 精神・身体    |           | 59：認知症初期集中支援―作業療法士の役割と視点―             | マ 59 認知初期    |           |
| 32：ニューロングステイをつくら<br>ない作業療法のコツ | マ 32 ロングステイ   |           |                                       |              |           |
| 33：ハンドセラピー                    | マ 33 ハンド      |           |                                       |              |           |

### 申し込み方法

お問い合わせは協会事務局までお願いします。

申し込みは、協会ホームページに掲載されている FAX 注文用紙または、ハガキにてお申し込みください。

注文は、略称でかまいません。有料配布物は送料込みとなっております。無料配布パンフレットは、送料のみ負担となります。

有料配布物の場合は請求書・郵便振込通知票が同封されてきます。なるべく早くお近くの郵便局から振り込んでください。

不良品以外の返品は受け付けておりません。★印は、在庫僅少です。

## 協会配布資料注文書

FAX. 03-5826-7872

※資料名は略称で結構です。

### 無料配布資料

| 資料名 | 部数 | 資料名 | 部数 |
|-----|----|-----|----|
|     |    |     |    |
|     |    |     |    |
|     |    |     |    |
|     |    |     |    |
|     |    |     |    |
|     |    |     |    |

※協会広報活動の参考にしますので、使用目的をお書き下さい

### 有料配布資料

| 資料名 | 部数 | 資料名 | 部数 |
|-----|----|-----|----|
|     |    |     |    |
|     |    |     |    |
|     |    |     |    |
|     |    |     |    |
|     |    |     |    |
|     |    |     |    |
|     |    |     |    |
|     |    |     |    |

会員番号

氏 名

※当協会員の方は、登録されている住所に送付いたします。登録住所に変更がある場合は、変更届を提出して下さい。  
 非会員の方のみ会員番号欄に住所（〒を含む）、電話番号を記載して下さい。  
 ※都道府県士会の広報活動等で使用される場合は、士会事務局に送付している専用申し込み用紙にて送付して下さい。  
 その場合、枚数制限はございません。

## 平成 27 年度都道府県作業療法士会連絡協議会総会

九州支部長 沖 英一

平成 27 年 5 月 31 日（日）TKP 東京駅日本橋カンファレンスセンターにて総会が開催された。議長は兵庫県士会の長倉寿子氏、副議長に山形県士会の松本信氏が選出され、議事録署名人は三重県士会の田中一彦氏、福井県士会の藤波英司氏が任命された。

冒頭の清水会長の挨拶にて、平成 26 年度は連絡協議会のあり方と 47 都道府県委員会のあり方の整合性を考えてきたこと、各県士会にアンケートを取らせていただいたこと、協会と士会との協定書の内容の検討など、さまざまな意見を取り入れてきた経緯の説明がなされ、今年度の連絡協議会が協会と離れたところで各士会が連携し運営していくことの確認が行われた。

審議内容は、第 1 号議案（平成 26 年度事業報告）、第

2 号議案（平成 26 年度収支決算報告）、第 3 号議案（平成 27 年度事業計画案）、第 4 号議案（平成 27 年度予算案）、第 5 号議案（規約の変更）、第 6 号議案（役員改選）について審議された。第 3 号議案の事業計画の中の研修会補助費について各支部に対して 10 万円、北海道東北支部には 20 万円が分配されることが決定した。第 5 号議案（規約の変更）では、協会に 47 都道府県委員会が創設されたことで、当連絡協議会の活動目的が「本会は、各都道府県作業療法士会が、その活動を活性化し、相互の活動を円滑にする情報交換、連絡調整、協議、それらに基づいた事業を行い、その充実発展を図る」と提案・可決された。第 6 号議案（役員改選）は連絡協議会の会長に茨城県作業療法士会の大場耕一氏が承認された。

## 日本作業療法士連盟だより

連盟 HP <http://www.ot-renmei.jp/>

### 50 年先の作業療法を見つめて

今年の 3 月、私は養成校での 12 年間の教員生活にピリオドを打ち、株式会社「奏音」の代表取締役役に就任した。弊社は平成 22 年 12 月に、主に発達障害児への療育の提供を目的として設立した会社である。設立に至ったきっかけは我が子が発達障害児であり、保護者の目線でその現状（専門職である作業療法士の療育を受ける機会が非常に少ない）を知り、「療育の場を増やし、困っている子供たちと保護者のニーズをかなえたい！」そう強く思ったからである。そして、児童福祉法における放課後等デイサービス、児童発達支援事業を展開してきた。その中で作業療法の直接的な支援が必要とされていることを改めて実感したため、12 年間勤務していた大学を退職し、支援が必要な子供達や保護者への作業療法を提供する側に本格的にまわったのである。

そんな立場の私には今、大きな疑問がある。作業療法士は作業療法を必要としている人がいかに多く存在しているかを本当に知っているのか？作業療法を必要としていながらその存在さえ知らない人が多くいることをわ



広島県責任者 森川 敦子

かっているのか？実際に児童福祉法における前述の事業には福祉専門職加算はあるが、リハ専門職における加算はない。要するに発達障害は作業療法の専門領域であると身内では謳いながら、国はその必要性を公に認めていないのが現状である。そして、結局作業療法士がその役割を果たせる場が非常に少ないため、作業療法を望んでいる子供たちや保護者のニーズに応えできていないのである。

「与えられた仕事をこつこつとやっていたら周りの評価はついてくる」「作業療法の専門性は簡単には語れない」我が国に作業療法が誕生して 50 年、この 50 年はそれでよかったのかもしれない。でもこれからの 50 年はそんな時代ではない。偽物でも発信すればまかり通ってしまう時代である。この世の中、周囲へ積極的に発信していかなければ価値は見出してもらえない。それはつまり社会へ働きかけ、公に作業療法の存在価値を認めさせることであり、そうしなければ、作業療法の 50 年後はないと考えなければいけない、と私は思う。

## 編集後記

ある新人職員の姿勢に心を打たれる。

この春に入職した彼は、作業療法に夢を感じ、自らの可能性に真摯に取り組んでいる。いろんなチャレンジを嬉しそうに行い、対象者の笑顔を引き出し、活動の幅を広げてくれている。誰よりも一生懸命に作業療法らしさを表現しようとしている。残念ながら彼は国家試験が不合格であり、作業療法士として働いているわけではない。にもかかわらず、なぜ彼の後ろに作業療法士の姿が見えるのか…。私は思う。作業療法の教育こそが、彼の資質を引き出しているのだろうと。今、あらためて教育の重要性を彼から教えてもらっている。

(土井)

本誌に関するご意見、お問合せがございましたら下記までご連絡ください。

E-mail kikanshi@jaot.or.jp

---

### ■平成 26 年度の確定組織率

68.8% (会員数 48,652 名 / 有資格者数 70,676 名<sup>※</sup>)

平成 27 年度は会員数がまだ確定していないため組織率の算定ができません。当協会の最新の組織率としては、理事会の承認を得て確定した平成 26 年度の会員数に基づくこの数値をご利用ください。

---

### ■平成 27 年 6 月 1 日現在の作業療法士

有資格者数 74,801 名<sup>※</sup>

会員数 49,464 名

社員数 194 名

認定作業療法士数 721 名

専門作業療法士数 69 名

### ■平成 26 年度の養成校数等

養成校数 181 校 (194 課程)

入学定員 7,245 名

※有資格者数の数値は過去の国家試験合格者数を単純に累計したものであり、免許証の未登録、取消し、死亡その他の理由による消除の結果生じた減数分は算入されていません。

---

### 日本作業療法士協会誌 第 40 号 (年 12 回発行)

2015 年 7 月 15 日発行

□広報部 機関誌編集委員会

委員長：荻原 喜茂

委 員：香山 明美、土井 勝幸、岡本 宏二、磯野 弘司、高梨 信之、関本 充史、多良 淳二、河原 克俊、塚本 千鶴

制作スタッフ：宮井 恵次、大胡 陽子、井上 芳加

表紙デザイン 渡辺美知子デザイン室 / 制作・印刷 株式会社サンワ

発行所 〒111-0042 東京都台東区寿 1-5-9 盛光伸光ビル

一般社団法人 日本作業療法士協会 (TEL.03-5826-7871 FAX.03-5826-7872)

■協会ホームページアドレス <http://www.jaot.or.jp/>

■ホームページのお問合せ先 E-mail [webmaster@jaot.or.jp](mailto:webmaster@jaot.or.jp)

定価 500 円

□求人広告：1/4 頁 1 万 3 千円 (賛助会員は割引あり)



## あのお店に、また行きたいから。

「お買い物したい。でも無理だし。」  
歩くことが困難になってしまった女の子。入院生活で気持ちもふさぎ込みがちでしたがふとこぼした言葉から、お母さんで行っていたお店でお買い物したいという気持ちを心の奥にしまい込んでいたのがわかりました。

「そのお店に行くのをめざそうよ。」  
「え？ ほんとう？」

作業療法士の提案に、女の子の心が少しずつ動き出します。

「よいしょ、そうだ、その調子！」

「ふう、だいぶ進んだね。」

「ちょっと休憩しようか？」

「大丈夫。まだできる。」

買おうと思っているかわいいお菓子のこと、お店の面白いおじさんのこと、いろいろ話しながら、女の子は病院の廊下を歩き出してくれました。

きっとできる。生活は取り戻せる。一つひとつの地道な作業療法が目標につながっているから、今日も私たちは頑張ることができる。

ただいま作業療法中。

